

明治壬申五月刊行

# 國法汎論

文部省

イ、カ、ブルン左リ著  
從五位加藤弘之譯

第六上九卷之二

一五

廿



バ  
コ

ア  
リ  
ス  
ト  
テ  
レ  
ス

ナ  
サ  
ン

マ  
ッ  
キ  
ア  
エ  
ル  
リ

カ  
ル  
ス  
ス  
ロ  
ー  
ゼ

シ  
セ  
ロ

右画ク處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繡像ナリ



國法汎論小引

一維新以來 廟議専ラ開化ノ進歩ヲ急務ト爲シ、制度文物ノ大ヨリ百  
 工技藝ノ廣ニ至リ、一ニ歐風ニ師倣ス、實ニ盛世ノ洪舉ニシ、億兆ノ大  
 幸ナリ、是ニ於テ洋書ノ繙譯梓ニ上ル者、陸續トシテ間斷ナク、上ハ廟  
 謨ノ萬一ヲ裨補シ、下ハ斯民ノ新化ヲ作振ス、亦盛事ト謂ハサル可  
 ヤ、就中制度律令ノ事ニ係ル者、亦尠カラズ、然ルニ其書タル多クハ唯  
 各國列邦ニ於テ、現ニ運用スル所ノ制度律令ヲ説ケル者ニシテ、汎シ  
 文明世界ノ法典ヲ舉ケ、之ヲ通論スル者ニ非ス、而シテ能ク之ヲ通論ス  
 ル者ハ、僅ニ泰西國法論一書荷蘭人ヒッセルリノ著述ニシテ、アルノミ、  
 是故ニ余通論ノ書ヲ譯セント欲スル久シ、然ルニ王事鞅掌、未ダ業ヲ  
 起スニ暇アラズ、客歲測ラス、叨リニ歐洲ノ國法論ヲ進講スヘキノ  
 寵命ヲ辱ウス、  
 天恩隆渥、感悚ノ至ニ耐ヘス、宿志モ亦是ニ因テ果スヲ得ル、歡喜ノ窮

明治九年圖書局交付

リナキ豈嘗ナランヤ是ニ於テ瑞士人ブルンチユリ氏述ル所ノアル  
 ゲマイチテス、スギーツレフトスウェイツル國法汎スウェイツルヲ取リ直ニ譯業ヲ起シ、一款譯成  
 ル毎ニ、輒チ進テ之ヲ侍講ス、抑、汎論ノ書タル博採約說、詳細遺スナシ、故  
 ニ意味文義ノ間、微分細剖、ユク其旨ヲ窮ルニ非レハ、其邃ニ造ル難シ、  
 是ヲ以テ史志ニ深キ者ト雖モ、沉潛反覆ノ玩味スルニ非レハ、其意ノ  
 通スル、恐ハ易事ニ非ス、讀者先ツ泰西國法論ニ就テ、國法ノ大綱ヲ窺  
 ヒ、更ニ此編ニ參ソ、其要領ヲ密ニシ、而シテ後各國ノ法典ヲ涉獵セハ、規  
 矩賴ル所アリ、取捨宜チ得テ惑ハサルニ庶幾ラン、

一凡ソ江湖讀書ノ徒、譯書ノ拙文ヲ尤ル者少カラス、蓋シ譯業ノ難キヲ  
 察セサルニ由ルナリ、夫レ殊方異域ノ言語文章、我ト其脈理ヲ同ウセ  
 サル、恐シハ、漢梵ノ比ニアラサルヘシ、況ヤ其說シ處、概略學科術藝ニ  
 係ルヲ以テ、紀事史乘トハ、其難易亦自ラ異ルヲヤ、且ツ學科術藝ノ旨  
 タル、絶テ皇漢人ノ言ハサル所ニシテ、歐人獨リ發明論說スル者居多

ナリ、故ニ縱令ニ能文ノ士、刻苦勉勵シテ之ニ從事スト雖モ、自未ダ曾テ  
 見ス意未ダ曾テ思ハサル所ヲ、漢字ヲ以テ國文ニ屬ス、抑亦難ヒ哉、而  
 シテ讀者大約小説野乘ト同日ノ看ヲ爲シ、唯其解シ易キヲ欲ス、故ニ一  
 讀解シ得サルニ遇ヘハ、罪ヲ譯者ノ文章ニ歸シ、拙文讀ムニ堪ヘスト  
 爲ス、思ハサルノ甚シキ者、蓋シ讀者從來ノ癖ナリ、今者天下方ニ文明  
 ニ向ヒ、學文知識漢梵ノ陋習ヲ一洗スルノ際、學問思辨ノ功ヲ收ル、洋  
 書ヲ讀ムニ非レハ、譯書ヲ捨テ何レニカ求ン、今ヨリ以往世ノ摺書者、  
 宜シシ舊弊ヲ革メ、亦野史ノ看ヲ爲サ、ルヘシ、既ニ刊布スルノ譯書、  
 文章議論、深且密ナル者乏シキニ非ラス、然リト雖モ、此國法汎論ノ如  
 キ、世未ダ多ク其比ヲ見ス、此書ハ列邦現立ノ法典ヲ取テ講論スル者  
 ニアラス、實ニ文明世界共遵スル所ノ通論公理ニ依テ、汎ク國法ヲ論  
 述ス、故ニ文義最モ高雅、論說最モ深奧ナリ、讀者能ク意ヲ用ヒテ、反覆  
 熟讀セサレハ、恐ラシクハ其要領ヲ得ル難シ、唯取ラシクハ余カ淺學努材、



小引ノ六

アラハキ甚ト云フヘシ、然ルニ卷帙浩濶ナルヲ以テ、譯業頓ニ畢ル能ハス、故ニ稿本冊ヲ成スニ隨テ、文部省ニ於テ上梓ス、全編ノ卒業ハ、夫レ二三年ノ後ニ在ノ歟、

明治五年四月

從五位加藤弘之識

凡例

- 一 書中太古ト記ス者ハ、開闢ヨリ紀元四百七十六年雄略天皇二十年ニ至ル世代ヲ云ヒ、中古ト記ス者ハ、四百七十六年ヨリ一千四百九十二年明應元年ニ至ルヲ云ヒ、新世ト記ス者ハ、一千四百九十二年ヨリ一千七百八十九年寛政元年ニ至ルヲ云ヒ、又最新世ト記ス者ハ、一千七百八十九年ヨリ今時ニ至ルヲ云フ、
- 一 幾世期ト記ス者ハ、世代ヲ著ス稱ニシ、凡ソ一百年ヲ一世期ト稱ス、故ニ紀元初年ヨリ一百年ニ至ル世代ヲ第一世期ト云ヒ、一百一年ヨリ二百年ニ至ル世代ヲ第二世期ト云フ、他ハ之ニ倣フ、
- 一 原註ノ短文ナル者ハ、夾註トナシ、長文ハ①②等ノ符號ヲ用ヒ、每條ノ末ニ附記ス、但シ讀者ノ解シ易カラサル註、及ヒ必用ナラサル者ハ、省畧ニ從フ、又譯者ノ註解ハ、必ス〔按〕字ヲ冠シ、原注ト區別ス、
- 一 原語ノ旁側ニ單雙柱ヲ標シ、物名ヲ識別ス、——單右ニ在ル者ハ名氏、

凡例ノ一

左ニ在ル者ハ物名及ヒ、一切ノ名稱ナリ、又ニ柱右ニ在ル者ハ地名、  
 左ニ在ル者ハ官職爵位、及ヒ官司ノ名稱亦之ニ屬ス、即チバレンツ巴力門立英ノ  
 府コンヘント會ノ名ノ類是ナリ、

凡例ノ二

弘之又識

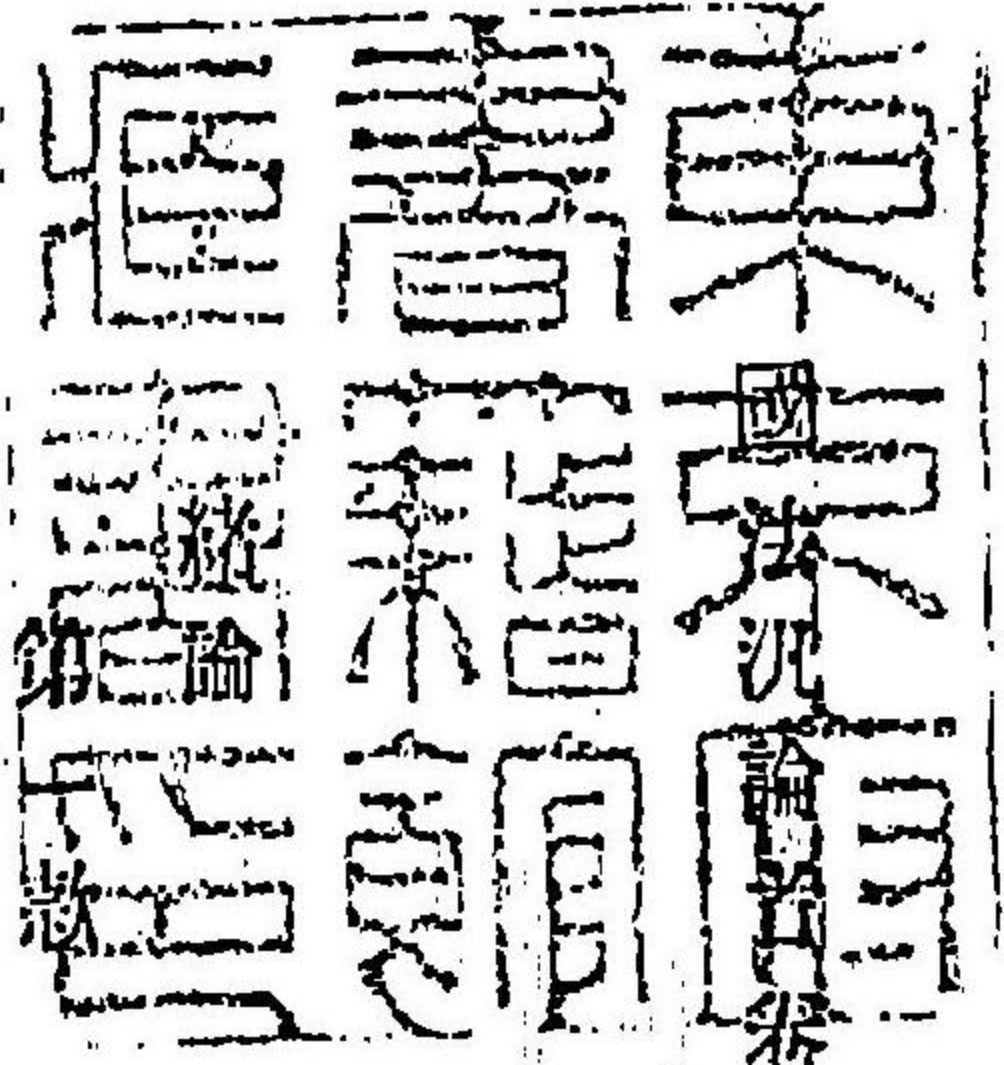


國法汎論首卷

緒論目錄

- 第一款 國法及ヒ國政
- 第二款 國法私法ノ所以相殊
- 第三款 前款舉ル所ノ外仍國法ノ關涉
- 第四款 國法汎論又ニ國法各論
- 第五款 國法ノ淵源 甲 憲法
- 第六款 同上 乙 國約
- 第七款 同上 丙 慣用
- 第八款 同上 丁 論究
- 第九款 國法及ヒ國家假法
- 第十款 研究ノ方法

一ノ錄目



瑞士

イ、カ、ブルンチユリ 著

加藤弘之 譯

國法スワット、及ヒ國政ポツキ、

往古希臘國ニテハ、政治上ニ關係スル諸學ハ、總テ之ヲ國政學ポツキト稱シタリシガ、近今ハ國法學スワットト、國政學トナシ、二科ニ分チ、各殊ノ學科トナス、

國法ト國政ハ、現ニ實際上ニ於テハ、混同シテ相離ル可カラサル者ナルヲ、唯學科上ニ於テノミ、之ヲ區分スルハ、甚タ異シム可キニ似タレトモ、此事已ムヲ得サルニ出ルモノニテ、其理趣ハ、下文ニ於テ明瞭ナリ、○國法首ノ國政ハ、素々各殊ノ事ニシテ、其關涉スル所、亦相同シカラス、故ニ國家治平一ヲ得ル所以ノ理ヲ精究セシニハ、先ツ其學ヲ二科ニ分チ、一ハ國家存在



二ノ首

ノ理ヲ論シ、一ハ其元氣活動ノ方ヲ論ス、先ツ各科ニ就テ、其理ヲ精究セ  
サレハ、全體ノ理、得テ精究ス可ラサレハナリ、○學科上教ル所ノ方法、其  
宜シキヲ得レハ、實際上施設ノ事、都テ其當ヲ得ルハ論ヲ須ス、故ニ國法  
國政ヲ分テ、二科ノ學ト爲シ、以テ各個ニ講習スルニ至リシヨリ、國法ノ  
條規始テ明瞭トナリ、且ツ其範圍ノ増進セシメ、昔日ニ數倍シ、國政モ亦  
此混同ヲ免カレシヨリ、其範圍自ラ判然タルヲ得テ、進歩亦頗ル廓大ナ  
ルニ至リタリ、

國法學ハ、單ニ今日國家ノ斯ク存在シ、且ツ規律ノ現存シテ、之ヲ保續ス  
ル所ノ景狀、及ヒ國家ノ元氣活動ヲ生スル所以ノ本源ヲ論スルモノニ  
シテ、必竟其歸ヲ要スレハ、國家現ニ存在スル所ノ體勢ヲ講スル學ナリ、  
國政學ハ、特ニ國家ノ元氣旺盛シテ、活動スル所以ヲ論スル者ニシテ、今  
日政ヲ施ス所以ノ目的、及ヒ此目的ヲ達シ得キ措置方法、且ツ今日ノ  
景狀ニ隨テ、彼此憲法ノ當否利害ヨリ、其他憲法ノ弊害ヲ除去改正スル

ノ術ハ如何スヘキ等ヲ説ク、之ヲ要スルニ國家ノ發運活動スル方ヲ講  
スル學ナリ、

是故ニ法ト政トハ、動靜行止ノ差違アリ、之ヲ生物ニ譬フレハ、法ハ猶體  
軀ノ靜止スルカコトシ、政ハ猶精神ノ發動スルカコトシ、

國家ハ、道義ヲ具有スル一物ナリ、故ニ國法國政共ニ必ス道義ノ務アリ、  
去レテ法政二科、獨リ道義ノミヲ以テ論ス可カラス、亦徒ニ此二科ヲ以  
テ、道義學ノ一端ト爲ス可カラス、此二科ノ資ル所恆ニ國家ニ在リ、其論  
スル所亦恆ニ國家ニ在リ、故ニ之ヲ國家學ト云ヘシ、

法政ノ二科ヲ以テ、全ク關係セサルモノトシ、嚴ニ之ヲ區分スルハ、甚ダ  
不可トス、國家ハ、生活物ナリ、國家苟シモ生活セント欲セハ、其體軀タル  
法、精神タル政、兩ツナカラ能ク親和混同セス、ハ有ル可ラサルヲ固ヨリ論

三ノ首

ヲ須タス、○其體タル法ト雖、終始靜止シテ、絶エテ變動無キモノニア  
ラス、又精神タル政モ、終始變動シテ、絶エテ休止スルヲ無キモノニアラ

首ス、既ニ古今憲法ノ沿革アリシハ、即チ法ニ變通アリシ證ナリ、又憲法ヲ制立スルハ政ナレトモ、既ニ制立シ了レハ、此政全ク止マルハ、即チ政ニ休止アルノ證ナリ、○是故ニ法政共ニ或ハ靜止アリ、或ハ變動アリテ、其偏倚セサルヲ、諸生活物ノ動靜ヲ兼備スルト、全ク相異ナラス、○以上論スル所ニ據レハ、絶<sup>ハナ</sup>法政ノ別無キカ如シト雖モ、之ヲ熟思スレハ、却テ其別ノ判然タルヲ覺フヘシ、且ツ先ツ國法沿革史ト、國政沿革史ト、相殊ナル所以ヲ視ルヘシ、國法沿革史トハ何ソ、國家目今ノ存在ヲ得シ所以、且ツ現ニ行ル、制度憲法ノ由テ立チシ所以、及ヒ其變通改革アリシ跡等ニ限リテ、其他ニ論及セス、又國政沿革史トハ、歷世人君宰輔ノ賢愚明暗、及ヒ施政ノ得失當否、或ハ其得失當否ノ爲メニ、臣民上一般ニ係ル所ノ禍福利害ノ轉變等、都テ國家古今ノ事蹟ニ就テ論說スルヲ云フ、○國法ヲ整理シテ、之ヲ最モ確明ニナスモノハ、即チ憲法<sup>ゲセツ</sup>ツ、**〔國憲ヘルハツ〕**ト云フヘシ、又國政ニ氣力ヲ與ヘテ之ヲ著明ニナスモノハ、國家實際ノ統御術

**〔政令レギト〕**ト云フヘシ、故ニ政ハ專ラ術ニ屬シテ、學ニ屬セス、○法ハ政ノ基本ニシテ、政治活動ノ規律ヲ定ムルモノナリト雖モ、又孤立シテ國家ノ用ヲ濟スモノニ非ラサルヤ必セリ、<sup>シカニミナラス</sup>加之時勢ノ變遷ニ從テ、法ニ弊害ノ生スルヲ預防シ、以テ其時勢ニ適應スル良法ヲ立ツルハ、政ノ力ニアラサレハ能ハス、故ニ法ハ政ヨリ其呼吸ヲ資取スルモノト云フヘシ、政若シ此呼吸ヲ與フルコト能ハサレハ、法ハ恰モ死體ニ殊ナラス、○政亦然リ、政ハ時勢ノ變遷ニ隨テ、其適宜ノ治ヲ爲スモノナリト雖モ、若シ法ノ以テ之カ限制ヲ爲スニ非レハ、其弊ヤ苛酷暴虐ニ陷テ、遂ニ國家ノ敗亡ヲ醸スル必然ナリ、

第二款 國法私法トプリハト、ノ所以相殊、

首ノ國法ハ、其根據ヲ國家ニ資ルモノニシテ、即チ公權ヲ定ムル規律ナリ、私法ハ、其基礎ヲ民人ニ藉ルモノニシテ、民人ノ私權ヲ定ムル規律ナリ、○但

六ノ首

シ又其素性ハ國法ニ屬ス可キカ如クシテ却テ私法ニ屬スルモノアリ、  
 又私法ニ屬スヘキカ如クシテ却テ國法ニ屬スルモノアリ、譬ヘハ國家  
 所有物シス、ノ法ノ如キ、元來國法ニ屬スヘキカ如クシテ、反テ私法ニ屬  
 スルハ何ソヤ、縱令ヒ國家ト雖モ、土田物件等ヲ有スルノ理ニ於テハ、決  
 シテ民人ノ土田物件ヲ有スルノ理ト殊ナラス、故ニ之ヲ國家ノ私有ト  
 稱シテ、國家チ一ノ私人ト視做スナリ、又乞願ノ權利ト、〔按〕民人政府ニ  
 願フ可キコアルキハ、其刻書自由ノ權利ノ檢閲ヲ乞フコトナク、著書ヲ自  
 事ヲ爲シ得ヘキ權利、  
 由ニ出版シテ、世ニ公ニ爲シ得ルノ權利、  
 等ノ如キ、民人ノ公權ハ、素ト私法ニ屬ス可キカ如  
 クシテ、却テ國法ニ屬スルハ何ソ、是等ノ權利ハ、元來民人ノ國家ニ對シ  
 テ行フ可キ權利ニシテ、專ラ國法ニ關スル者ナレハナリ、  
 是故ニ國法ハ、基礎ヲ國家ニ資リ、定立スル所ニシテ素ト國家全體ノ爲  
 メニ設ルモノナル故、民人決シシ毫モ恣マ、ニ取捨スル能ハサル者ナ  
 リ、○私法ハ之ニ反シテ、其基礎ヲ民人ノ稟性情體或ハ其意思ニ資リテ

七ノ首

定立スル所ニシテ、素ト民人ノ爲メニ設ルモノナル故、民人相議シテ、雙  
 方一致スルキハ、其權利ヲ取捨變革スルコトヲ得ヘシ、○去レモ私權中ニ  
 モ、其行廢國家ノ利害ニ關係アルモノ、如キニ至リテハ、民人又決シテ  
 恣マ、ニ取捨變革スル能ハサルコト、固ヨリ論ヲ須タス、  
 國法ニ於テ定ムル所ノ權利ハ、管ニ公權利タルノミナラス、又兼テ公義  
 務タリ、故ニ都テ其公權利ヲ有シテ、之ヲ行フノ權アル者ハ、亦必ス之ヲ  
 行フノ公義務アリト云フヘシ、譬ヘハ國君ハ、管ニ其臣民ヲ統御スルノ  
 權利アルノミナラス、亦共ニ之ヲ統御スルノ義務アリ、法官ハ、管ニ獄訟  
 ノ事ヲ掌ルノ權利アルノミナラス、亦共ニ此事ヲ掌ルノ義務アルカ如  
 シ、但シ私法ニ於テ定ムル所ノ權利ニ至テハ然ラス、此權利ヲ行フト、否  
 トノ如キハ、之ヲ有スル者ノ意ニ任シテ可ナリ、本來此二權利ノ規律、此  
 ノ如ク相異ナル所以ハ、殊ニ之ヲ定ムルノ意、相反スルヲ以テナリ、私權  
 利ハ、唯民人ノ爲メニ立ル所ニシテ、民人ニ屬シ、公權利ハ、國家全體ノ爲

八ノ首

メニ立ル所ニシテ、専ラ國家全體ニ屬ス、是レ即相異ノ因テ生スル所以ナリ、○縱令公權利ト雖<sub>レ</sub>、國家若シ之ヲ止メント欲セハ、能ク之ヲ廢棄スルノ權アリ、唯其各部局〔按〕各院各局等、或ハ其職官等ノ權ヲ以テ、之ヲ廢棄セント欲スルモ、決シテ能ハサルナリ、

以上説ク所ニ反シテ、常理ヲ以テ論ス可カラサル者、又許多アリ、今左ニ三例ヲ舉ク、

(第一)乞願ノ權利、或ハ公事ノ集會ニ加ハ、ル可キ權利等ハ、民人ノ公權利ナリト雖<sub>レ</sub>、之ヲ行フト否トニ至リテハ、其意ニ任セテ妨ケ無シ、其故ハ、此公權利ヲ立ツルノ本意、殊ニ民人ニ自由ヲ與フルカ爲メニ設ル者ニシテ、専ラ國家全體ノ公利ノ爲メニ、建ツルニ非サルヲ以テナリ、

(第二)代議士ヲ選擇スルノ公權利ハ、其選擇者タル者、故ナク恣マ、ニ之ヲ廢棄スルヲ得サルヲ、固ヨリ論無シ、去レ<sub>レ</sub>其居民大概選擇ノ權利ヲ得ル所ノ國、或ハ之ニ選擇ノ權利ヲ與フルノ意、素ト専ラ國家ノ爲メニ

已ムヲ得サルニ出デスシテ、殊ニ人民利益ノ爲メニスル所ノ國々ニ於テハ、民人此權利ヲ行フト否トハ、其意ニ任セテ可ナリ、但シ然ラサルトハ、通常強<sub>ヒ</sub>テ此權利ヲ行ハシムルヲ、當然ナリトス、

(第三)後見ノ權利ハ、私權ナレ<sub>レ</sub>、素ト後見人ヲ利スルカ爲メニ與フル權利ニアラス、専ラ後見ヲ受ル者ノ爲メニ、許ス權利ナル故、實ニ後見人ノ權利タルノミナラス、亦兼テ其義務ト稱ス可キ者ニシテ、決シテ隨意ニ棄ルヲ能ハサルナリ、〔按〕上ノ二例ハ、公權ト雖<sub>レ</sub>、棄テ得ヘキノ例、下ノ一例ハ、私權ト雖<sub>レ</sub>、棄ル能ハサルノ例ナリ、以上論スルカ如ク、公權利ハ實ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タリ、故ニ公權利ヲ有スル者ハ、一人ニシテ必ス權利義務ノ二事ヲ兼スル者ナリ、去レ<sub>レ</sub>此二事ヲ兼スルヲ以テ、決シテ公權利ヲ私權利ニ及ハサル者ト爲スヘカラス、是ニ因テ却テ公權利ノ私權利ニ優ル所ヲ知ルヘシ、何者、公權利ノ實ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タル所、自ラ其中ニ道義ノ存スルモノアリテ、私有權利ノ獨リ之ヲ有スル者ノ、利トナ

首ノルカ如キニ非サレハナリ、○公權利ノ品階愈高ケレハ、之ヲ行フノ公義務、亦愈之レト密合シテ、決シテ相離レズ、國君ノ權利ヲ以テ、其私有ナリト

シテ、其行廢國君ノ隨意ニアリト思フハ、大ニ國法ヲ汚辱スルモノト云フヘシ、國君ノ權利ハ、決シテ自己ノ權利ニアラス、國家ニ對シテ必然行フヘキ義務タルヲ、荷モ忘ルヘカラス、

以上説ク所ヲ以テ、國法私法ノ別ヲ視ルヘシ、但シ又茲ニ一種此二法ノ中間ニ位スルカ如キモノアリ、例ヘハ邑法及ヒ大會社法等ノ如シ、去レハ是等ノ法實ニ此中間ニ位シテ獨立スルモノニアラス、會社法ト總稱スル者ノ如キハ、或ハ私法ニ屬スルアリ、或ハ國法ニ屬スルアリ、又ハ此二法相混合スル者アリテ、一樣ナラス、

### 第三款 前款舉ル所ノ外、仍國法ノ關涉、

(第一)列國法ヘルケルレフト、又ハ列國相關係スル所ノ、規律ヲ定ムルモ

### 一ノ首

ノニシテ、其干涉スル所、僅ニ一國ニ止マラス、○列國ノ相關係スルハ、猶國內各民ノ、相關係スルト、其理同一ナルカ如シ、去レハ其際ニ行ハル、所ノ法ハ、決シテ國內ノ私法ヲ推廣シテ、直チニ列國ノ際ニ及ホシタル者ニハアラス、抑此法タルヤ、宇内ノ人類ヲ一體ト視做シテ、萬國ノ全體ニ及ホス可キモノナルカ故ニ、其理ニ至テハ、實ニ國法ノ國家全體ニ關涉スルカ如キノミナラス、更ニ大ナル公權ヲ定ムルモノト謂フヘシ、○設令宇内萬國ヲ統一スル所ノ大政府アリテ、萬國ニ於テ普ク遵奉スヘキ憲法律令ヲ制定セハ、列國法ナル者ハ、乃チ變シテ宇内國法エルトスト爲ルヘシ、去レハ未嘗テ此ノ如キ大政府大憲法アラス、故ニ列國法、未タ實ニ十全完備ノ地位ニ至ラサルナリ、

是故ニ今世ニ在リテハ、國法ハ、既ニ十全完備ノモノト稱ス可ク、列國法ハ、未タ十全完備セサルモノトシテ、其別ヲ立テ、以テ國法學ニ於テハ、國家ヲ一個ノ公體ト視做シテ、其法ヲ論シ、而テ列國相關係スル所ノ法ノ

首ノ二

如キハ、姑ク之ヲ列國法ノ學ニ讓ラサルヲ得ス、  
(第二)之ニ次テ、國法ト相分ル、者ハ、神法キルヘンレフ、(按)ナリ、國事  
ト神事ノ相分ル、其端ハ、既ニ往古ニ胚胎セシト雖ヒ、實ニ全ク相分レ  
シハ、甚タ晚シ、昔者羅馬國ニテモ、仍ホ神法ユス、サ、ナリ、以テ國法ユス、プ、  
一部分ト爲シタリ、

基督キリスト教世ニ行ハル、ニ及ヒ、國事ト神事ト始テ相分レテ、各個ノ者ト成  
ルニ至レリ、抑基督ノ神教タルヤ、其基ヒテ國家ニ資ラス、自ラ相離レテ存  
在スルモノナルカ故ニ、其法モ亦近今ノ國法ト全ク相分別ス、○去レヒ  
神事ノ法、全ク國家ニ關係セサルヲ能ハス、且ツ神事國事相關涉スル所  
ノ規律ハ、素ト其基ヒテ國家ニ資リテ定ムルカ故ニ、神法亦必ス國法ノ部屬  
カラサルヲ得ス、

(第三)治罪法、ストラフ、プロツェス、及ヒ刑法ストラフハ實ニ全ク國法ニ屬シ、訴訟法  
シヒール、プロツェス、モ亦大概之ニ屬ス、○治罪訴訟ノ二法ハ、國家其臣民ヲ保護シ

首ノ三

テ、之レカ爲メニ其權利ノ枉害セラル、ヲ防クニ在リ、又刑法ニ至テハ、  
其刑ヲ施スノ本旨タルヤ、獨リ權利ノ枉害ヲ受ケタル民人ヲ保護シテ、  
之ヲ防ク爲メノミナラス、素ト其罪科ヲ以テ、國家全體ノ安寧ヲ害シ秩  
序ヲ紊ルカ故ニ、全ク之ヲ防クニ在リ、是レ蓋シ近世刑法ノ大ニ開明進  
歩シタル所以ナリ、  
去レヒ訴訟法及ヒ刑法ハ、國法中ヨリ分派シテ、之ヲ別種獨立ノモノト  
爲サ、ルヲ得ス、蓋シ然ラサルヲ得サル所以ニ理アリ、其一ハ、此二法素  
ト私法ト關係密合スルモノニシテ、殊ニ訴訟法ハ實ニ唯私法ヲ保護シ  
テ、私權利ノ枉害ヲ防遮スル所以ノモノ、且ツ刑法モ亦大概然ル所以ノ者  
ナルニ由リ、又其一ハ、此二法關涉スル所ノ範圍、頗ル廣大ナルノミナラ  
ス、其主掌スル所ノ事理、亦切要ニシテ、偏ニ特立專殊ヲ要スレハナリ、

第四款 國法汎論 アルゲマイチス、及國法各論 ベツンデレス、ス

四一ノ首

各殊ノ國ニ就テ其國法ヲ論スルモノヲ國法各論ト云フ例ハ羅馬民  
 主國ノ國法論、英國ノ國法論、或ハ獨乙列國ノ國法論ト云フカ如シ、又各  
 殊ノ國法ニ着意セス、唯汎シ國家タルヘキ者ノ法ヲ論スルヲ國法汎論  
 ト云フ、是故ニ國法各論ハ單ニ其國ノ制度風俗ニ基キ、國法汎論ハ、專ラ  
 一般ノ人性及ヒ世界ノ公理ニ基イテ論スルモノナリ、  
 嘗テ國法ヲ汎論スル所ノ學士ヲ視ルニ、動モスレハ單ニ性理ヲ以テ國  
 法ヲ説ク、蓋シ其意謂ヘラシ、唯理是レ窮ムレハ、國法ノ學茲ニ成ルヘシ  
 ト、是ニ於テ所謂探理國法論、ヒロソヒセス、ス、即チ天理國法論ヘス、スター  
 ツレ等ノ學派起レリ、而シテ此學派現立國法論、ボシチーヘス、スター  
 フト、按各國現ニ定立  
 セル國法、ヒストリセス、スターツレフト、按專ラト相  
 講スル派、及ヒ探蹟國法論、古今沿革ノ蹟ヲ探討シテ、講スル派、  
 表裏ス、

余ヲ以テ之ヲ觀レハ、是等諸派ノ所見ハ、皆共ニ偏倚シテ其當ヲ得ス、凡  
 ソ國家ノ事ハ、單ニ性理ヲ以テ論スヘカラス、又單ニ古今ノ沿革事蹟ヲ  
 以テ論スヘカラス、常ニ性理ト沿革事蹟トノ二事上ニ注目着意シ、之ニ  
 基イテ論述スレハ、甚タ可ナリ、故ニ汎論各論共ニ、決シテ此二事ノ一ヲ  
 缺クヘカラス、

五一ノ首

宇内一般ノ民彝通俗ハ、必ス各國各種ノ民性風俗ニ先スルヲ理ノ當然  
 ナルカ如ク、國法汎論ハ、必ス國法各國ニ先スルヲ、亦理ノ當然タリ、○國  
 法汎論ノ本旨トスル所ハ、專ラ各國ニテ撰定スヘキ、國法ノ根據トナル  
 ヘキ、本理ヲ查定スルニ在リ、此本理既ニ明カナレハ、時處ノ宜シキニ應  
 シテ、千狀萬態、皆其用ヲ爲スヘシ、○汎論ニ於テ著眼スヘキ、古今ノ沿革  
 事蹟ハ、盛々數國ノ沿革事蹟ニ止マラス、宇内萬國古今大沿革ノ事蹟ナ  
 レハ、學者タル者、能ク之ニ注意スルハ、理ノ宜シク取用スヘキモノト、  
 宜シク取用スヘカラス、モトトチ辨識シ、且ツ現ニ實際ニ用フヘキ器  
 材ノ自ラ此事蹟中ニ充滿スルヲ領解シ得可シ、然ルニ單ニ性理ヲ論ス  
 ルノ徒ハ、決シテ之ヲ領解スルヲ能ハス、○古今萬國ノ事蹟ニ着眼注

六一ノ首

意シテ之ヲ探討スルハ、凡ソ開闢渾沌ノ太古ヨリ、漸ク變遷沿革シテ以テ今日ノ文明開化ヲ致セシ所以、及ヒ其際ニ當リ、時論屢變化シ、國體制度亦屢變革セシ所以ヲ通知シ、且ツ各國列邦、今日ノ開明ヲ裨補セシト、否トナ知ルコト、甚難キニアラス、

去レヒ吾輩國家學ヲ論究スルノ本旨タルヤ、專ラ古今萬國ノ變遷沿革ヲ示サントニハアラス、唯汎ク今時ニ適應スル所ノ國法ヲ論究スルニ在リ、故ニ古今歷世ノ國體法制ヲ論究スルハ、唯專ラ今日ノ參考ニ備ヘ、以テ古今ノ沿革ヲ視テ、自今ノ進歩ヲ示サントナ欲スルニ在ルノミ、○古時隆盛ノ諸大國大ニ今日ノ開化文明ヲ促シ、以テ國法ノ沿革進歩ヲ裨ケシモノ少カラス、且ツ其中ニ就テ、自ラ淺深ノ差等アリ、例ヘハ往古アリヤ人種又インド、セルマーチント稱ス、〔按〕高加索人種ノ一ニノ古今ノ變遷沿革ハ、專ラ今日國事開明ノ裨益トナリシ者ニシテ、猶セム人種〔按〕亞細亞ノ西方ニ蔓衍セル、高架索人種ノ一ニシテ、ノ古今變遷沿革、今ノ亞細亞土耳其、或ハ亞刺比亞邊ニ住セシ者ナリ、

七一ノ首

革、專ラ神教進歩ノ裨益トナリシカコトシ、サレヒアリヤ人種ノ實ニ太古ノ野鄙陋劣ナル國體ヲ一洗シ、漸ク文明優隆ノ國體ト爲セシハ、此人種始テ歐羅巴ニ蔓衍セシ以後ノコナリ、○此人種中ニ就テ、太古ニ在テハ希臘羅馬ノ二國、中古〔按〕紀元四百七十六年ヨリ、千四百九十二年ニ至ル、其間ニ在テハ日耳曼國ハ、今仍舊獨乙國ヲ日耳曼ト云、文明彬々タル、殊ニ他邦ニ卓絶シタリ、故ニ今時歐洲各國文明優隆ノ國體ヲ備、シハ、全ク此三國ノ開明ヲ集成セシモノト云フヘシ、就中英、國ノ如キハ、庶民ニ至ル迄、此三國ノ開明ヲ得テ、知識益、闢ケ、大ニ國事ノ進歩ヲ裨補シ、之ニ次テ佛國亦頗ル文明ヲ極メテ、國事ノ進歩ヲ増セシコト、甚少カラス、○亞米利加洲國事ノ開明ハ、基テ歐洲ニ資ルト雖、殊ニ亞北米利加ノ如キハ、亦能ク自ラ進歩セシ者ト云フヘシ、

是故ニ吾輩論究スル所ノ國法汎論ノ學ハ、元來今時文明世界ノ通論公理ヲ示シ、以テ時處ノ宜キニ隨テ、千狀萬態能ク其用ヲ爲スヘキ基本ヲ



八一ノ首

開ク者ナレハ、徒ニ紙上ノ空談ト視做スヘカラス、現ニ今日ノ實際上ニ施シテ、其効ヲ奏スルコト頗ル少シトセス、唯各國民性習俗ノ各異ナルカ爲メニ、其奏効ノ形狀、亦自ラ差異アルノミ、

〔附論〕亞里斯度德爾〔按〕希臘ノ碩學、紀元前三百八十ガ其著書中ニ、通

法各法ノ別ヲ立テタリト雖也、吾輩論スル所ノ國法汎論國法各論ト

ハ、全ク其歸ヲ異ニセリ、其通法ト稱スル者ハ、絶エテ國家ニ着意セス、

唯天理自然ニ生スル所ノ公法ヲ云ヒ、又各法ト稱スルモノハ、法書ニ

記録スルト、セザルトニ論ナク、各國其宜キニ隨テ、制定スル所ノ國法

ヲ云フ、

第五款 國法ノ淵源、クエルレン、デス、

甲 憲法、ダス、ゲ

國法ヲ認知シ易カラシメンガ爲メニ、詳明ニ記載シテ、之ニ至壯至大ノ

形狀ヲ與ヘシ者ヲ稱シテ、憲法ト云フ、是故ニ國法ナル者ハ、其形狀ヲ得テ、憲法トナルニ及ヒ、始テ確手著明ナルヲ得ルナリ、○國家ハ、憲法アリテ、始メテ其全體ノ規制定マルヲ得、以テ能ク其權利ヲ保存スルヲ得ルナリ、故ニ能ク其權利ヲ確明ニスルモノハ、獨リ憲法ノミ、

是故ニ眞ノ憲法タル者ハ、必ス國家ノ外、能ク之ヲ示令スル者アルナシ、但シ又其部局等各、自局ノ爲メニ制立シ、自己ノ權ヲ以テ、示令スル規律ノ如キモ、亦同シク憲法ト稱スルヲ得可シ、例ヘハ、王室ノ戚族憲法、ハミソングセツ、デル、或ハ一家憲法、ハウスケセツ、デ、及ヒ各府各邑ノ法度、スタデナスチ、或ハ一國憲法、ル、デナスチ、及ヒ各府各邑ノ法度、スタト規則、オールド等ノ如シ、○又國家ヨリ示ス所ノ布令トスング、ノ如キモ、是等諸法ト、其等位ヲ異ニセス、

〔按〕國家出ス處ノ布令ナレハ、是等諸法ノ上ニ立ツヘキカ如シト

雖也、必竟此布令ナル者ハ、政府立法府ト議シテ、制定スル者ニアラス、政府國憲許ス所ノ範圍中ニ於テ、自ラ定立スル所ノモノナレハ

九一ノ首

○二ノ首

ナリ、  
國家其國法ヲ制定スルノ權ヲ以テ、私法ヲ制定スルノ權ト、全ク同視ス  
ヘカラス、國家其國法ヲ制定スルハ、即チ自己分上ノ專チナスモノニシ  
テ、其處分ノ自在ナル、私法ヲ制定スルト自ラ異ナリ、蓋シ國家ノ私法ヲ  
制定スルハ、自己ノ事チナスニ非ス、私人ノ爲メニ施設スル者ナリ、私人  
ノ交際ニ至リテハ、事端涯際ナシ、而シテ毎事必スシモ國家ノ管スル所ニ  
アラズ、是故ニ其規律ヲ定ムルモ、亦全ク自在ナルヲ得サルナリ、○私人  
ハ元來國家ノ力ヲ借りテ、始メテ私人トナルニ非ス、私人ハ素ヨリ私人  
ナリ、故ニ其權利ニ至テモ、亦國家ノ力ヲ借りテ、始メテ立ツニ非ラス、本  
來固有スル所ノ權利ナリ、唯此固有スル所ノ權利、國家ノ力ヲ借りテ、始  
メテ全備スルヲ得、且ツ其保護ニヨリテ、確固ナルヲ得シノミ、故ニ私法  
上、國家ノ殊ニ務ムヘキハ、民人天然有スル所ノ權利、及ヒ時世ノ沿革ニ  
ヨリテ得シ所ノ權利ヲ辨識シテ、之ヲ調理スルニ在リテ、決シテ恣ニ之

Staatlicher  
Verträge

ヲ制定スルニ在ラス、○此理ニ戻ルカ爲ニ、生スル所ノ利害ハ末篇ニ於  
テ詳論スヘシ、

第六款 同上

乙 國約、ス、グ、ト、リ、ヘ、  
ヘル、ダ、ラ、グ、

現ニ行ハル、所ノ國法ヲ、互相約束ヲ以テ認識シ、或ハ編成シ、又ハ改革  
スル等ノ事、屢之アリ、之ヲ稱ソ國約ト云フ、○列國、此約束ヲ舉行スレハ、  
其ノ國約ト稱スヘクシテ、即列國法ノ一種ヲ生ス、又一國內ニ於テモ、國  
事ニ預ルヘキ權利ヲ有スル所ノ各黨、互ヒニ此ノ如キ約束ヲ爲スコトア  
リ、例ヘハ羅馬ノパトリシール〔按〕古時羅馬ノ貴族トプレベス、〔按〕同上ト相結  
ヒシ約束、或ハ又中古ニ在リテハ、國君其下諸等ノ臣民ト、互ニ爲セシ約  
束ノ如シ、

一二ノ首

國約ノ憲法ト相類似スル所以ハ、其條規ノ制ニ至テモ、亦憲法條規ノ如

二二ノ首

ク、之ヲ明記シ、且ツ必ス全權者アリテ、之ヲ示令スルニ在リ、但シ又憲法ト大ニ相異ナル所アリ、元來憲法ヲ制立スルハ、國家ノ各部局、眞ニ同心一體トナリテ、之ヲ爲スト雖也、國約ニ至リテハ然ラス、凡ソ國事ニ預ル所ノ各部局、皆均シク獨立ノ全權アリテ、各其言ハント欲スル所ヲ闡述シ、然後ニ其論ヲ合シテ之ヲ一決ス、○是故ニ憲法ノ體裁ト、國約ノ體裁ヲ比較シテ國家ノ爲メニ其可否ヲ考ルルハ、憲法體裁ノ大ニ、國家ニ益アルコト明カナリ、何者、既ニ論スルカ如ク、憲法ノ體裁タル、必ス國家全ク一體トナリテ、其欲スル所ヲ違ルモノニシテ、各部局相睽離スル所ナケレハナリ、○唯列國相約シテ立ツル所ノ規律ニ至リテハ、素ト共ニ合立スル所ノ立法府ナキヲ以テ、必ス國約ノ體裁ヲ用ヒサルヲ得サルナリ、英國ニ於テ國王ト、上院下院相共ニ協力同心シテ、憲法ヲ制立スルカ如ク、眞ニ公正ノ國憲アリテ、憲法制立ノコト、決シテ一君或ハ一議局等ノ意ニ出テス、必ス立法諸部局ノ協力同心ニ由ル所ノ各國ニ於テハ、絶テ國

三二ノ首

約ノ意アルコトナシ、然ルニ動モスレハ協力同心ヲ誤認シテ、合論一決ト混スル者アリ、別ヲ知ラスト云フヘシ、○<sup>バルメント</sup>力門（按）ニ立法府、或ハ議事院ト云フ、定制スル所ノ憲法ノ如キハ、國事ニ預ルヘキ、獨立全權ノ諸黨、互ニ其欲スル所ヲ違ヘテ、之ヲ決定スル所ノ國約ト、相距ル霄壤ナリ、抑（巴力門）ノ各部ハ決シテ獨立シテ制法ノ權ヲ有スル者ニアラス、君主兩院相合シ、協力同心、共ニ一體トナリテ、始メテ此權ヲ得ル者ナリ、故ニ憲法ナル者ハ絶ヘテ一體ノ意ヲ離ル、コトナシ、○是故ニ國內ニ於テ、國法ヲ立ルニ就テ、國約ノ體裁ヲ用フ可ラサル所以ハ、殊ニ此體裁、國家ノ勢力ヲ分離シテ、其一體タルヲ損シ、國家全體ノ法ヲ舉テ、其各部ノ欲スル所ニ任スニ在リ、之ヲ要スルニ、各部ヲ先キニシ、全體ヲ後ニシテ、大ニ前後輕重ノ權ヲ誤ルニ在リ、○古時（日耳曼）各國ノ國法タル、大約國約ノ體裁ヲ用ヒテ、國家ノ一體タル所以ヲ失ヒ、是ニ由テ大ニ國家ノ活動力ヲ減損シ、且ツ國家全體ノ公利公安ヲ害セシコト、亦少カラカリシカ、國家ノ開明漸ク増進ス

四二ノ首

ルニ隨テ、次第ニ國約ノ體裁ヲ廢シテ、憲法ノ體裁ヲ用ヒ、或ハ全ク廢棄スル能ハサルモ、大ニ之ヲ變革シテ、殆ント憲法ノ體裁ニ類似スル者トナセシ事ハ、其史ニ載テ瞭然タリ、

〔按〕此條ノ意解シ難キニ似タリト雖モ、先ツ國約ヲ立ルノ專志ト、憲法ヲ立ルノ專志ト、其異ナル所以ヲ知レハ、隨テ憲法國約ノ異ナル所以モ亦自ラ明亮ナリ、蓋シ國約ヲ立ルニ於テハ、各部局必ス先ツ自局ノ利害ヲ謀リテ、而後ニ全局ノ利害ニ及ボスト雖モ、憲法ヲ立ルニ至リテハ、詢謀常ニ全局ノ利害ヲ主トシテ、敢テ專ラ各部局ノ利害ヲ顧ルコトナシ、是レ即チ合論一決ト、協力同心ノ別アル所以ナリ、

〔附論〕國約ハ、永世不變ノ者ナリト論スル者アリ、甚タ誤ルト謂フヘシ、凡ソ人世ノ事、古今時代ノ轉變アルハ、論ヲ俟タスシテ、人ノ能ク知ル所ナリ、國家ノ事ト雖モ、亦決シテ此理ヲ免ル、コト能ハス、古來未ダ嘗

テ不變不壞ノ國約アラサリシコト、猶不變不壞ノ憲法アラサリシカ如シ、法律若シ眞ニ天理ノ當然ノミニ出レハ、全ク不變不壞ノ者タルヘケレモ、素ト古今萬國、轉變變化スル所ノ人事ヲ定斷スル規律ナレハ、亦宜シク時ニ隨テ、轉變變化スヘキコト、固ヨリ論ナクシテ、即是レ天理ノ當然ナリ、唯憲法ノ體裁ヲ用フルト、國約ノ體裁ヲ用フルトノ差ヒニ由テ、此理ノ異ナルコト、絶ヘテアラサルナリ、

第七款 同上

丙 慣用、ハルコムメン、又ケチーソノハイト、

五二ノ首

正シク憲法ニ明記スル者ノ外、尙官民共ニ、諸公事ニ於テ、其心中、事理當然トシテ、現ニ安シ行フ所ノ法少カラス、此法タルヤ、元來民心ノ默許ヲ經ル既ニ久シク、遂ニ慣用ノ法トナリテ、公然之ヲ行フニ至リシヨリ、全ク當然ノ法タルヲ得テ、乃チナチオナーレス、レフト〔按〕第二卷第三款ニ此法ヲ論ス宜シ

六二ノ首

ク參看、トナリシ者は是レナリ、  
 羅馬ノ國法中、殊ニ緊要トスヘキ條規ハ、大概憲法、或ハ國約ヲ以テ、確定  
 明記セシモノニアラス、從來其國民ノ間、理ノ當然ナル所ニ適應スル良  
 好ノ習慣ヨリ出テ、自ラ法トナリタルモノ多シ、且ツ中古各國ノ國法  
 ニ至リテモ、又大抵慣用ニ出ルモノ多シ、現今英國ノ國法モ、亦憲法上ニ  
 確定明記セスシテ、唯慣用ヨリ自ラ法トナリシモノ居多ナリ、其他各國  
 共ニ多少ノ慣用法アラサルハナシ、  
 故ニ慣用法ハ、眞ニ國法ノ一淵源ニシテ、決シテ輕忽ニ考フヘカラサル  
 ハ、固ヨリ論ナシ、但シ此法ヲ以テ、憲法ニ比較シテ、其得失如何ヲ考フル  
 キハ、憲法ノ確實明亮ナルニハ、如カス、蓋シ慣用法ハ、預メ理非得失ヲ論  
 シテ、定メタル者ニアラスシテ、唯自然ニ出ル者多シト雖モ、憲法ハ然ラ  
 ス、必ス理ノ當然ニ由テ、論定セシ者ナレハナリ、去レモ又慣用法ノ憲法  
 ニ優ル所ナキニアラス、慣用法ハ、素、勢ノ自然ニ出ルカ故ニ、勢轉變スレ

ハ、法モ亦隨テ轉變シテ、自ラ時ノ宜シキニ適應スルヲ、憲法ヲ改革シテ  
 時宜ニ適セシムルノ、難キカ如クナラス、  
 所謂勢ナルモノハ、自然實際上ニ生スルモノニシテ、且ツ人性賦稟スル  
 所秉彝ノ心、亦隨テ之ヲ認許スル者ナリ、故ニ民心ニ於テモ、遂ニ默許シ  
 テ、之ヲ法トスルナリ、  
 法ナル者ハ、元來他方ヨリ來ル者ニアラス、又他方ニ移スヘキ者ニモア  
 ラス、唯現存スル所ノ景況、及ヒ方向、即チ是レナリ、故ニ國家現存ノ景況、及  
 ヒ方向、即チ是レ國法ナリ、

第八款、同上

丁 論究、ギ、フ、ト、

七二ノ首

國法論究ノ本旨タルヤ、專ラ新法ヲ生殖スルニ在ラス、唯專ラ現存ノ法  
 ヲ辨知スルニ在リ、是故ニ、論究ハ、實ニ法ノ淵源ト稱スルニ足ラス、通常

首ノ八二

唯法ノ淵源ヲ探討スルノミ、  
去レテ論究ナル者、唯法ノ淵源ヲ探討スルノミニ止マラス、時アリテ亦  
之ヲ産殖スルコトアリ、故ニ亦法ノ淵源トナルコトアリ、而シテ、其淵源クル  
ニ二様アリ、

〔其一〕論究ハ、以上三淵源〔按〕憲法、國約、及ヒノ如ク、唯法トナルヘキ器材  
ヲ、湊合スルノミニアラス、亦此器材ヲ精鍊シテ、之ニ其善美ヲ與ヘ、以テ  
大ニ現存ノ法ヲ増大スルコト儘、コレアリ、譬ヘハ、立法者、法ヲ制立スル始  
ニ方リ、或ハ之ヨリ他日將サニ全法上ニ關係スル、利害得失ノ生セント  
スルヲ、窮盡スル能ハサルコトアレト、却テ論究者ハ、其論究ニ由テ之ヲ探  
求スルコト、多次之レアルカ如シ、○其他又慣用法ヲ論究シテ、其理ヲ明亮ニ  
ナシ、且ツ之ニ由テ、逐ニ慣用法ヲ確定明記シテ、憲法トナスノ基、ヲ開ク  
コトアリ、是レ皆論究ノ功ナリ、

〔其二〕第二ハ、更ニ緊要ナル者ニシテ、即チ法理ノ論究ナリ、法理ノ論究ナ

ル者ハ、敢テ現存ノ法ヲ講スルニアラス、故ニ直ニ現存ノ法ニ關係スル  
コトナク、專ラ理ノ當サニ然ルヘキト、否トニ就テ、講論研究スルヲ云フ、○  
此ノ如キ法理、次第ニ民心ニ浸漸シ、自ラ其認許ヲ得、遂ニ國家ノ採用ヲ  
以テ、其保護ヲ受ルニ至ラサレハ、未タ嘗テ眞法トナルコト能ハス、○憲法  
ノ制立ニヨリテ、唯此ノ如キ法理ノ論究ニヨリテ、現存ノ國法ヲ増大セ  
シコト多次コレアリキ、是レ即チ論究ナル者、國法ノ一淵源トナリテ、他三淵  
源ト並列スルヲ得ル所以ナリ、

讀者、論究ノ字ヲ誤解シテ、單ニ講學ノコト爲スヘカラス、又書籍上ノ研  
究ノミト爲スヘカラス、凡ソ當路者、今日國家政治上ノ論議ニ方リテ、其  
說ヲ演進シテ之ヲ示シ、以テ衆心ヲシテ之ニ敬服セシメ、將軍ノ戰場ニ  
於テ、日々兵士ト共ニ遵守スヘキ規律ヲ示シ、以テ兵卒ノ疑ヲ解テ、其一  
定ノ方向ヲ與ヘ、法官ノ獄訟ヲ掌リ、能ク理非曲直ヲ、明カニシテ、其事ヲ  
裁決シ、以テ衆人ヲシテ惑フ所ナカラシメ、又新聞著者、己カ論說ヲ陳

○三ノ首

述シテ遂ニ能ク輿論ノ方向ナリニシ、且ツ未タ曾テ衆人ノ辨知スル能ハサル理義ヲ明晰ニシ、遂ニ國家ヲシテ、其理義ヲ採リテ、以テ國法ノ條規ヲ改増セシムル等、其他此ノ如キノ類、皆能ク其論究ヲ以テ、現存ノ國法ヲ増大スト云フヘシ、○但シ此ノ如キ論究ヲ以テ、眞ニ國法増大ノ裨益ヲナスハ、殊ニ當路者ニ在リトス、古今王侯輔弼賢明ノ譽レテ得ル所以ノモノハ、決シテ威權ヲ擴張シ、或ハ憲法ヲ制立シテ、國法ヲ増大セシ功業ニ因ルニアラス、唯其論究ノ力ニ因テ、遂ニ能ク臣民ヲ甘服セシメ、以テ其國法ヲ増大スルノ功業ニ因ルナリ、

論究ニヨリテ起立スル所ノ法ハ、能ク慣用法ニ類似スル所アリ、即チ論究法ノ條規ハ、彼ノ憲法、或ハ國約ノ條規ノ如ク明記シテ、實ニ政府ヨリ示令セシ者ニアラス、唯全ク輿論ノ認許ニヨリテ、始メテ能ク行ハル、者ニシテ、猶慣用法ノ明記スルコトナク、唯一般ノ慣用ニ由テ行ハル、カ如シ、故ニ論究法ハ、眞ニ確定スルモノニ非スシテ、自ラ轉遷變化ヲ免ル

一三ノ首

、可能ハス、去レヒ又時勢ニ隨テ、活用スルノ大利アリ、○但シ又其慣用法ト相異ナル所以アリ、即チ慣用法ノ起立ハ、専ラ從來ノ習慣ヨリ出テ、一般ノ民情、識ラズ知ラズ、之ヲ法トナスニアリト雖ヒ、論究法ニ至テハ、専ラ一般ノ知識開進スルニ隨テ、其理義ノ協否ヲ辨別シテ、然後ニ始メテ認許スルヨリ起立スルモノナリ、故ニ論究法ノ慣用法ト相異ナル所以ハ、宛カモ慣用法ト憲法ト、相異ナルノ理ニ同シ、

所謂性法、ナツール、即チ良知法ニハ、アラス、自然ノ人ノ天賦ニ具備スル法ナリトシテ、學者ノ論ノ可否得失ニ就テハ、古來議論紛然トシ、一定セザルニ以上ノ論ニ由テ之ヲ考フルトハ、其理自ラ明瞭ナルヘシ、此法タル譬ヘハ、普拉士〔按〕希臘有名ノ學者ニシテ、紀元前四百ノレブアリッキ、ミット、イノラト、三十九年ニ生レ、三百四十八年ニ死ス、レブアリッキ、ミット、イ

トレン、ユフテラ民民主政體ノ法ヲ撰定シ、守護者ヲ置テ、之ヲ守護スルコトヲ論ノ如ク、唯學者ノ論究上ノミニ在テ、未ダ一般ノ識得ニヨリテ國家ノ法トナラサル間ハ、決シテ眞法トナスニ足ラス、

元來天賦ノ人性ニ出ル法論ハ、基キテ天理ニ資ルカ故ニ、都テ今日ニ施シテ、大ニ宜シキ所以ヲ説ク者アレドモ、未ク此理ヲ以テ、實ニ法タルニ足ルト、爲スヘカラス、都テ論究ノミニ由テ、法ノ生スル者ニハアラサルナリ、

○性法學ニ於テ論究スル所ノ法、一般ノ識得ニ由テ、遂ニ認許ヲ得ルニ至レハ、始メテ眞法タルヲ得可シ、故ニ始メテ法ヲ産出スル者ハ論究ニシテ、嗣後能ク之ニ稟實ヲ與フルモノハ、一般ノ識得ナリト云フヘシ、

既ニ羅馬ノ私法ノ如キモ、過半ハ論究ヨリ生セシ者ニシテ、一二緊要ノ規律スラ、尙性法ヨリ取リテ設ケタルモノナリ、譬ヘハ過誤罪ハールラット、羅馬語ニテノ法ノ如キハ、素ト人ノ通性ヲ論究シテ、之ニ基ツキ、設立セシ者ナリ、○民人ノ識得、道ニ於テ緊要ナル事ヲ認メテ、法ニ於テモ亦緊要トナシ、國家亦此識得ニヨリテ、生シタル法ヲ取リテ、之ヲ國法トナスニ至レハ、道ト法ト相離レサルカ故ニ、眞ニ貴重スヘキ國法、始メテ立ツト云フヘシ、是ヲ以テ實ニ治平ノ道ニ長シタル當路者ハ、勢ニヨリテ

障礙セラル、コ有テサレハ、必ス勉メテ性法ニ基キ、其國法ヲ立ルテ本旨トナス、

〔附論第一〕性法ノコニ就テ、パウルス〔按〕紀元十年ノ頃ニ、小亞細亞ニニテ死刑ニ論アリ、曰ク「天神ハイデ〔按〕未ク眞神ヲ知ラサル國民」  
 行ハレタリ、ノ精神ニモ、尙必法ヲ銘ス、故ニ其知識ニ因リテ、自ラ之ヲ  
 教ヲ奉セサ、ノ精神ニモ、尙必法ヲ銘ス、故ニ其知識ニ因リテ、自ラ之ヲ  
 ル者ヲ云フ、○メランクトン〔按〕獨乙人、一千四百九十七年ニモ  
 悟リ得ルナリト、

亦其著書中ニ、現立法ハ、性法ヲ精密ニ確定スルモノナリ、故ニ天性國  
 法ナチュールノ別アリ、天性國法ハ、即性法中ノ國法ナリ、〔按〕即性法中ニ國法、ヲ精密ニ確  
 定スルモノハ、即憲法、國約、慣用法、及ヒ論究法ナリト、説ケリ、

〔同上第二〕始テ法ノ生産セシ時ヲ索メ、且ツ其生産ヲ助ケシ諸原因ヲ  
 探討スルハ、儘能クシ難キコアリテ、總テ天造物ノ始メテ生産セシ時  
 ナ、洲ルニ異ナラス、去レドモ此法實ニ國家ノ認許ヲ得、始メテ眞法トナ  
 リテ、明瞭確實ナルニ及ヒテハ、之ヲ知ルコト難キニアラス、



第九款 國法及ヒ國家假法、ス、タトトリ、ヘル、ベシツツ、

私法ニ於テ所有、アイゲン、ト、ベシツツ、別有ルカ如ク、國法ニ於テモ亦、眞ノ國法ト、國家假法トノ別有リ、何チカ假法ト云、即未タ法ノ名ヲ得ス、唯勢ニ因テ自カテ國家今日ノ實際上ニ生スル規律アリ、之ヲ名ケテ假法ト云ヒ、以テ眞ノ國法ト分ツナリ、

假法モ亦國法學ニ於テ敬重スヘキ者ナリ、然ル所以ニ二理アリ、第一ニハ、假法ハ現ニ實際上ニ生スルカ故ニ、必ス能ク之ヲ保護シテ、其妨害ヲ預防セサル可ラス、第二ニハ、假法ハ自ラ一眞法ノ萌芽ニシテ、國法期年

〔按〕下文ニテ經レハ、遂ニ眞法トナル者ナレハナリ、○假法ノ國法ニ於ケ

ルヤ、假所有ノ私法ニ於ルヨリモ、其關係スル所更ニ大イナリ、何者、假法ノ遂ニ轉シテ眞法トナルハ、假所有ノ遂ニ轉シテ眞所有トナルヨリモ猶容易ク、且、其眞法トナルノ氣勢モ、亦駭々トシテ更ニ大イナレハナリ、○若シ私法ヲ犯シ、妄ニ人ノ所有ヲ妨害スル者アルニ方リテハ、國家ノ法院

能ク妨害セラル、者ヲ保護スルヲ以テ、其害ヲ防止スル難ラスト雖モ、若シ國法許サ、ル所ノ處置ヲ以テ、公權ヲ犯ス者アルハ、國家ノ威力ト雖モ、或ハ容易ク之ヲ防制スル能ハサルコトアリ、斯難易ノ差異アルカ爲、ニ、假所有ノ眞所有ニ轉スルト、假法ノ眞法ニ轉スルトノ難易遲速モ亦自ラ差異ナキ能ハス、去レモ此難易遲速ノ差異、決シテ唯此ノ如キ勢ニノミ由ルニアラス、殊ニ國法私法ノ本性、自ラ相異ナルニ由ルナリ、茲ニ人アリ、自ラ許シ、此事即チ法ナリトシテ之ヲ行フト雖モ、他人敢テ之ヲ認許セサルハ、理ノ當然ニシテ、實ニ私法ニ於テ然ルノミナラス、國法ニ於ケルモ亦然リ、故ニ假法ノ轉シテ眞法トナルニハ、其事必ス先ツ理義ノ二源ニ基カサルヘカラス、○今其本性ノ相異ナル所以ヲ論ゼンニ、曾テ我ニ屬セサル物ヲ取リテ、之ヲ我有ト爲サントスルニ方リテ、此物本來所有主ナケレハ論ナシ、若シ他人曾テ此物ヲ有スルハ、即チ我レト同等ナル人ノ權利ヲ犯スノ理アリ、然ルニ假法ノ轉シテ眞法トナルハ、

六三ノ首

之ニ異ナリ、抑國家ノ事體タル時ノ流行ニ隨テ、漸ク轉變ヲ生シ、此勢中假法自ラ生シ、國家ノ一體内ニ於テ、現ニ今日ノ實際上ニ行ハル、カ故ニ、之ヲ防遮セント欲スル者自ラ少ク、遂ニ國家自ラ之ヲ認許シテ、以テ法トナスニ至ル、是レ即チ假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差異アル所以ナリ

〔按〕此章ハ、假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差ヒアルハ唯勢ノ然ラシムルノミニアラス、亦專ラ國法私法ノ本性相異ナルニ因ル所以ヲ論スル者ニシテ、頗ル解シ難キニ似タリ、去レヒ熟讀玩味シテ、其本性ノ異ナル所以ヲ究ムレハ、亦解シ難キニ非ス、畢竟私法ハ、民人相對スル所ノ法ナレヒ、國法ハ、全ク國家一體内ノ法ナルカ故ニ、此二法ノ本性相異ナレリト云フナリ、右論スル所ヲ以テ、左ニ擧ル所ノ二派ノ僻論ト參考スルハ、上ニ論スル所更ニ明瞭ヲ得兼テ其中正ヲ得ル所以ヲモ知ルニ足ル、

〔第一派〕成功事業ノ學派

テオリ、デル、ソーゲナン、ハイツァ、コムプリス、ナル者アリ、

此學派ハ、特ニ實際ノ轉變變化ニ因ルヲ、本旨トスル者ニシテ、總テ事業上ニ顯ハル、權力ヲ以テ、法ノ出ル所ト爲ス、故ニ現ニ權力ニ因テ成功シタル事業ハ、即チ直ニ法トナシテ、此他決シテ法ト稱スヘキ者アラストシ、又現ニ權力足ラスシテ、成功スルコト能ハサリシ事業ハ、即チ直ニ不法ト爲シテ、此外決シテ不法ト稱スヘキ者アラストス、是故ニ覆法ノ事業モ、遂ニ其効ヲ奏スレハ、直ニ取リテ當理ノ事トナシ、若シ其効ヲ奏スル能ハサレハ、直ニ斥シテ非理ノ事トナス、總テ此ノ如ク、唯今日事業ノ成敗ノミヲ以テ、理非善惡ヲ定メ、以テ法不法ノ因テ起ル根源トナス、斯法トナシ、或ハ不法トナシテ、取捨スル所、專ラ今日ノ形勢時態ニ因ルカ故ニ、形勢時態忽チ轉變スレハ、其取捨亦之ニ應シテ變化スルモノニシテ、絶ヘテ道ノ正邪、理ノ當否ニ依リテ、法ヲ論スルコトナシ、

七三ノ首

此學派佛國顛覆〔按〕一千七百八十九年ニ顛覆起リ、以來、歐羅巴大地〔按〕王室倒レテ民主政體トナリタリ、

八三ノ首

國ヲ除キ、全歐ニ於テ再三實際ニ用ヒラレ、嘗テ此論ニ反セシ徒スラ、遂  
ノ陸地ヲ云、ニ之ヲ信用シ、普ク國法ノ理ヲ誤ルニ至リシハ、眞ニ歐洲ノ不幸ト云フ  
ヘシ、<sup>○</sup>

<sup>○</sup>〔按〕佛國ノ顛覆歐洲各國ニ波及シテ、一千七百年ノ末ヨリ、八百年  
ノ初ニ至リ、各國民人肆マ、ニ王室ヲ倒シ、以テ民主政體ヲ立ント  
企テシテ云フ、全ク此災害ヲ免レシハ、獨リ英國ノミ

此學派者流時勢ノ變化ニ因テ、法モ亦變化スル所以ヲ論スルハ、大ニ見  
ルヘシト雖モ、絶ヘテ理義ニ着眼シテ、法ノ善惡可否ヲ論スルコトナク、唯今  
日事業ノ成敗ノミヲ以テ、法ヲ論スルハ、甚ダ僻論ニシテ、其害最モ甚カ  
ス、假法ノ轉シテ眞法トナルヤ、國家民人之ヲ當然ノ事トシテ、認許スル  
ニ因ルノミ、但シ國家民人實ニ之ヲ認許セシト否トハ、儘定斷シ難キコ  
トナキニアラス、去レテ之ヲ認許スルノ機會、全ク無シト云フハ、甚ダ不可ナリ、  
即チ左ニ舉ル所ノ數條ハ、此機會ノ至ルト否ノ分界ニシテ、又之ニ由リテ

國法期年ノ至ルト否トヲ、知り得ヘシ、

〔甲〕國內ニ於テ、二黨〔按〕一ハ新黨ニシテ舊政府ヲ倒シ、舊法制ヲ毀テ、以テ  
國家ヲ一新セントスル者、又一ハ舊黨ニシテ新黨ヲ  
防拒シテ以テ舊政府ヲ保チ、舊ノ間、變化ノ爲メ起リタル、争鬭未ク止マ  
法制ヲ護ラントスル者ナリ、  
スシテ、國家民人未ダ嘗テ一般ニ新黨ヲ認許スルニ至ラサレハ、變化一  
新ヲ遂ケント欲スル所ノ黨與〔按〕則新ノ勢力、縱令ヒ大ニ舊黨ニ超フ  
トイヘモ、未ダ國家民人之ヲ認許セシ機會ト云フヘカラス、故ニ國法期  
年モ、亦未ダ至ルト云フヘカラス、

〔乙〕新黨遂ニ舊黨ヲ壓倒シテ、一時全勝ヲ獲タリトイフモ、勢未ダ全ク一新  
セス、民心亦全ク服從セス、動モスレハ舊黨再ヒ起ラントスル機アルモ  
ハ、假法未ダ全ク眞法トナリタリト云フ可カラス、〔按〕新黨ノ法制、未ダ實ニ  
ラサル  
チ云、  
眞ノ法制ト稱スルニ足

九三ノ首

〔丙〕國家ノ法制秩序ヲ保護ス可キ權利義務ヲ執ル所ノ國家職官等、新法  
制、新秩序ヲ默許、或ハ明許セサレハ、眞ニ假法ノ轉シテ眞法トナリシト

○四ノ首

云フヘカラス、但シ國家ノ權柄ヲ握レル諸府、〔按〕立法府及ヒ司、又ハ國民  
之ヲ默許、若クハ明許スルハ、更ニ要ナリトス、〔按〕立法府等ヲ云フ、

〔丁〕各國政府ハ、互ヒニ各國ノ和親平安ヲ保護スヘキ者ナルカ故ニ、外國政  
府亦之ヲ認許スルヲ要ス、○右ノ諸件悉ク備リテ、一モ遺ス所ナケレハ、  
是ニ於テ假法始テ實ニ眞法トナレリト云フヘク、初、覆法ノ所業ト目セ  
シモノモ、遂ニ轉シテ當理ノ事トナルヘシ、

〔第二派〕守法ノ學派 レギチミスチナル者アリ、此學派ハ、殊ニ法ノ理義ニ  
出ルヲ貴ヒ、恆ニ之ヲ變革セサルヲ以テ本旨トナス、故ニ唯今日事業ノ  
成敗ニ因テ、法ヲ論スル所ノ成功事業派ト至ク相表裏ス、是ヲ以テ此學  
派ハ、大ニ取ルヘキ所アルカ如シト雖モ、亦甚ク偏倚スル所アルヲ以テ、遂  
ニ取ル可カラサルニ歸ス、  
素守法 レギチミスチト云ヘル語ハ、法制ヲ遵守スルノ義ナレハ、此學派者流、  
實ニ今日ノ形勢事情ニ適應スル法ヲ守ルヲ以テ本旨トスレハ、眞ニ是レ

一四ノ首

問然スヘキ所無シト雖モ、其本旨トスル所、反テ此ノ如クナラス、更ニ時  
勢ノ變遷轉化ニ着眼スルコトナク、徒ニ舊法古制ニ拘泥スルカ故ニ、實ニ  
今日ノ形勢事情ニ適應セサル、死法ヲ墨守スルモ、ニシテ、眞ニ有名無  
實ト云フヘキノミ、是レ即此學派ノ大ニ偏倚スル所ニシテ、敢テ取ル可カ  
ラサル所以ナリ、故ニ此學派ハ、元來法ノ理義ニ出ルヲ以テ本旨トスレ  
モ、其守ル所ハ却テ理義ニ出テス、猶死體ヲ抱テ以テ生力盛ナル人ト爲  
スカ如シ、其陋愚モ亦甚シト云フヘシ、○總テ此學派ヲ唱フル徒ハ絶ヘテ  
今日時勢ノ轉遷變化、及ヒ人知ノ開明進歩スル所以ノ理ヲ、知ラサルカ  
故ニ、常ニ舊法古制ノ區域ヲ出ルコト能ハス、然ルニ古今萬國ノ沿革ヲ歷  
視スルニ、時勢ハ實ニ此徒ノ見ルカ如クナラスシテ、流行變遷日々止ル  
ナシ、基督ノ語ニ之レアリ、曰ク、死人ヲ埋葬スルハ、死人ニ任シテ可ナリト

○〔按〕約書ニ載スル所ノ語ニシテ、或人將ニ基督ニ服従セントスル

ニ方リ、先ツ死人ヲ埋葬シテ、然後ニ服從セシト云ヒシ時、基督之ニ答テ云ク、「死人ヲ埋葬スルノ事ハ、死人ニ任シテ可ナリ、汝敢テ勞スルヲ要セス、故ニ余ニ服從スヘシト、今茲ニ此語ヲ以テ比喩トナスハ、蓋シ守法ノ學派ヲ唱フル徒ハ、決シテ今日ノ用ヲ爲サ、レハ、猶死人ノコトシ、故ニ此ノ如キ死人ハ、死法ヲ守ルヘシ、仍生力盛ナル徒ハ、敢テ此ノ如キ死法ヲ守ルヘカラスト云フノ意ナリ、

古今邦國甚多シト雖也、此學派ノ如ク絶ヘテ時勢ノ變遷轉化ヲ知ラス、徒ニ舊法古制ヲ墨守シテ、仍カ存在スルヲ得シ者ハ、未タ曾テ有ラサルナリ、然ルニ近今尙此論ヲ主張シテ、遂ニ國家ノ災害ヲ釀セシ者少カラズ、眞ニ慨歎スヘキナリ、

〔附論第一〕ニール  
〔按〕噠國人、一千七百七十六年、ノ顛覆史ニ云、覆法ノ業也、遂ニ期年ヲ經テ、常理ノ事トナレハ、國法ニ於テ之ヲ許スノ理、宛カモ私法ニ於テ、假所有ノ期年ヲ經レハ、眞所有トナルヲ許スノ理

ニ同シ、

〔附論第二〕教王ツツカリアス、及ヒフランケン  
〔按〕中古歐羅巴ノ大國、國民第八

世期  
〔按〕記元七百年代ヲ云フ、以下幾ニ於テ、此ノ如キ守法論ノ敢テ取

ル可カラサル所以ヲ、證明シタリ、何者、教王ツツカリアスハ、守法論ノ取ルニ足ラサル所以ヲ論シテ、眞ニ君主ノ職ヲ盡シ、且ツ自ラ能ク其權力ヲ施行スル所ノ者、實ニ君主ノ稱ヲ得ルコト當然ナリト云ヒ、又佛朝哥國民ハ、既ニ久シク君職ヲ汚シテ、徒ニ有名無實ノ位ヲ保テルメロインゲル氏ノ王位ヲ奪テ、現ニ政柄ヲ執レルヘルツォフ  
〔按〕爵名、通常公ト譯カロリシケル氏ヲ、遂ニ王位ニ進メタレハナリ、

〔按〕記元七百五十二年  
天平勝寶四年  
カロリシケル氏ビビン、デル、カライ

テル、メロインゲル氏ヲ倒シテ、自ラ佛朝哥國ノ王位ニ登リタリシカ、是レ皆教王ツツカリアス、及ヒ佛朝哥國民ノ助ケシ所ナリ、彼有名ナルカル、デル、ゴローセ〔甲利大帝〕ハ、此ビビン、デル、カライ子

ニシテ、大ニ其版圖ヲ増大シ、遂ニ羅馬國ヲ復興シテ羅馬帝トナリタリ、  
 〔同上第三〕埃地利帝ヨリセフ第二世、〔按〕一千七百四十二年、嘗テ普魯士  
王非的利第二世、又非的利大王ト稱ス、一千七百、ニ書ヲ贈リテ、守法ノ  
 意ヲ述ヘタリ、但シ其意ハ却テ成功事業ノ論ニ近シ、其書ニ云、「陛下ハ  
 即チ君主ナリ、陛下果シテ君主ナラハ、必君主ノ權利ヲ知リクマハサ  
 ルノ道理アル可カラス、余カ土耳其其國ヲ攻ント欲スルヤ、唯嘗テ彼ニ  
 奪掠セラレシ州郡ヲ復スルノ外、決シテ他意アルニアラス、是即チ舊  
 法ヲ守ラント欲スルナリ、嘗テ失ヒシ土地ヲ復セント謀ルハ、豈唯土耳  
 其人ノミニ止マランヤ、」  
 〔按〕一千七百十八年、享保ニ於テ、埃地利先帝カル第六世土耳其其ノ  
 地ヲ畧セシニ、其後一千八百三十八年、天保ニ於テ、土耳其其ノ爲メニ  
 再ヒ奪ヒ返サル、故ニヨリセフ第二世此ノ如キ論ヲ發セシナリ、去  
 レハ條理全ク整ハス、取ルニ足ラサルナリ、

〔同上第四〕一千八百十四年、文化十佛國恢復〔按〕一千七百年代ノ末ヨ  
 登リテ政ヲ専ラニセシニ、一千八百十四年ノ大敗ニヨリテ、帝位ヲ  
 奪ハレシカハ、改柄再ヒ舊王室ニ復シタリ、故ニ之ヲ恢復ト云フ、  
 時ニアタリテ、ヒュルストタルレーランドナル者〔按〕佛人、一千七百五  
 八百三十八年ニ死ス、舊王室ノ寶祚ヲ得ルヲ當然ナリトシテ、守法ノ論ヲ主張  
 シ、以テ覆法顛覆ノ論ヲ擯斥セシカハ、其論甚ク補少、且ツ教法ノ意、及ヒ  
 國家ヲ以テ君主私有トスルノ意ヲ問ユルカ故ニ、全ク中古ノ世ニ適  
 スヘクシテ、決シテ方今文明ノ世ニハ適セス、

第十款

研究ノ方法、メトイデン、デル、  
 研究ノ方法、メトイデン、デル、

國法學ヲ研究スル方法、數種アリ、就中正方二類アリ、變方亦二類アリ、其  
 正方二類ト云フハ、即探理國法論、ヒロソヒセ、及ヒ探蹟國法論、ヒストリ  
 デ〔按〕其ニ本卷是ナリ、又變方二類トハ、即正方二類ノ大ニ偏倚セル者  
 第四款ニ出ツ

ニシテ、一チ偏理國法論アブストラクト、イデオロギセ、メトード、云ヒ、二チ偏蹟國法論イデオロギセ、メトード、云フ、即チ第一ハ探理國法論ヨリ變生シ、第二ハ探蹟國法論ヨリ變生シタル者ナリ、

此ノ如ク探理探蹟ノ二方相生セシハ、素法ニ理義ニ出ル者ト、事蹟ニ出ル者トノ二類アルト、且ツ國法ヲ研究スル徒ノ、氣質各相異ナルトニ由ルナリ、

法ハ素性理ヲ以テ其精神トナス、故ニ必理義ヲ含有セサル可カラス、去レモ今日ノ實際ニ用フルニ至リテハ、又今日ニ適スル形體有ラサル可ラス、然ルニ偏理法論ノ如キハ、全ク其今日ニ適スル形體ノ要ナル所以ヲ知ラスシテ、絶エテ之ニ注意セス、故ニ國法ヲ論スルニ、唯理ノ當否是求メテ、決シテ國家ノ實際ニ適スルト否トニ、着眼スルコトナシ、○普拉土スラ尙其レプロブリッキ〔按〕本卷第八ノ法ヲ論スルニ方リテ、此ノ如キ弊ニ陷ルヲ知ラスシテ、大ニ人ノ性情ニ戻レル制度ヲ立テタリ、去レモ普拉土

ハ知識頗ル廣博ニシテ、且ツ好テ制度ノ態勢ヲ精美ニセシカハ、其論中絶テ枯瘦缺乏ノ弊アルヲ見ス、然ルニ近今ノ學者ニ至テハ、其論中動モスレハ枯瘦缺乏シテ、全備セサル者多シ、○國家ハ道義ヲ含メル有機體〔按〕有機體トハ、各部ノ機關アル體ト云ヘルコトニシテ、即活物ヲ云、國家ノ政府、立法院、法院等ノ如キ、各部局アルハ、猶活體ノ各部機關アルカコトシ、故ニ國家ヲ以テ、ナルカ故ニ、決シテ獨リ性理ヨリ生セシ者ニアラス、活體ニ比スルナリ、其法亦決シテ性理論ヲ集録セシ者ニアラス、

是故ニ偏理法論ハ、學科上ノ研究ニ於テハ、遂ニ無用ノ長物ニ屬シ、又之ヲ實際上ニ施ス時ハ、實ニ恐ルヘキ災害ヲ生シ、遂ニ現立法ヲ破碎顛覆スルニ至ルヘシ、國家將サニ傾覆セントスル時ニ方リテハ、民心暴ニ發動シ、此ノ如キ法論ニ依據シテ、現立憲法ノ限界ヲ破壊セント欲スルノ情愈盛ナルヲ以テ、此論方ニ盛強ノ威力ヲ得、其勢宛カモ惡鬼ノ如ク、遂ニ萬類ヲ傾倒スルニ至ル、○佛國ノ顛覆ハ、民心暴ニ發動シテ、此偏理論ヲ實際ニ施セシ者ナリ、以テ此論說ノ誤ラサルヲ明證スルニ足ル、〔按〕那破倫

八四ノ首

〔按〕第一ノ語ニ「性理者流遂ニ佛國ヲ傾倒シタリ」ト云ヒシハ、確言ト云  
 世ナリ、  
 〔按〕佛國偏理論ノ鼻祖ハ、ルウソウニシテ、爾來其說ヲ信奉スル者  
 フヘシ、  
 益多ク、遂ニ之ヲ實際ニ用ヒ、今ニ至リテ其餘毒猶消セス、眞ニ  
 歎息ス、  
 ○佛國ニテハ性理家盛ニ自由、フライ、及ヒ同等  
 〔按〕萬民絶テ貴  
 賤尊卑等ノ別ナク、全  
 ク同等ナリト云義、  
 ノ權利ヲ主張シテ、佛國ヲ瓦解セシメ、遂ニ流血ヲ  
 以テ之ヲ濯キ、獨乙國ニテハ學者、君主政體ノ理ヲ主張スルヲ甚ダシキニ  
 過キテ、公事自由ノ權利  
 〔按〕民人會合ノ權利、結  
 社ノ權利、乞願ノ權利等、其他民人ノ國事ニ關ス  
 ル自由權ヲ遮欄限制シ、又歐洲列國、各其國論ヲ主張スルヲ甚ダ過盛ニシ  
 テ、遂ニ歐洲一般ノ平和ヲ妨害シタリ、是ニ由テ之ヲ觀ンハ、縱令ヒ大ニ確  
 實ノ論ニシテ、實ニ國家ニ益アルモノトイヘ、單ニ理ニ據テ之ヲ講究  
 シ、加フルニ彌少狹窄ノ見ヲ以テ、之ヲ實際ニ施サント欲スルキハ、其害  
 舉テ云フヘカラス、  
 之ト相反スル氷炭ノ如シト雖、亦甚偏倚セルモノハ、即偏蹟法論ナリ、  
 此論ハ專ラ現立ノ法、或ハ從來ノ實迹ニノミ拘泥スルカ故ニ、其研究ス

九四ノ首

ル所、絶テ理ノ當否ヲ考索セス、徒ニ古今ノ事蹟ヨリ、法ノ成材ヲ湊合ス  
 ルノミ、此法論古今實際ニ用ヒラレシヲ多ク、殊ニ威權ヲ專擅セント欲  
 スル奸臣等ノ、尤モ好テ取ル所ナリ、○此法論ハ、偏理論ノ如ク、直ニ國家  
 ヲ覆滅スルニ至ラスト雖、小害自カラ積重シテ遂ニ大害ニ至リ、以テ  
 全國ノ安寧ヲ破リ、其道義力ヲ銷シ、其元氣ヲ傷ク、譬ヘハ光輝アル劍ニ  
 漸ク銹蝕ヲ生シテ曼衍シ、遂ニ光輝ヲ全蝕スルカ如シ、是時ニ至リ、之ヲ  
 既倒ニ救テ、恢復ヲ謀ラント欲スルモ、亦挽回スル能ハス、甚シキニ至リテ  
 ハ、遂ニ滅亡ニ歸スルノミ、亦如何トモスヘカラス、○偏理論ノ國家ヲ害  
 スル、其迅速ナル、譬ヘハ急性熱ノ迅劇ニシテ、立トコロニ死生ヲ決スル  
 カ如ク、又偏蹟論ノ國家ヲ傷フル、其遲緩ナル、譬ヘハ慢性病ノ緩慢ニシ  
 テ、容易ニ死生ヲ決セスト雖、遂ニ痼疾トナルカ如シ、  
 探蹟法論ト偏蹟法論  
 〔按〕探蹟論ハ正方ニシ、トチ舉ケ、比シテ其異ナル  
 テ、偏蹟論ハ其變方ナリ、  
 所以チ論セン、探蹟論ハ、偏蹟論ノ如ク、徒ニ現存ノ法、或ハ從來ノ實迹ニ



○五ノ首

ノミ拘泥シ、漫ニ之ヲ尙重スル者ニ非ス、必古今變遷沿革ノ迹ヲ探討シ、其開明進歩ノ實ヲ考察シ、以テ其理義如何ヲ通考ス、故ニ實際ニ着眼スルヲ主旨トスレモ、苟シモ之ニ拘泥スルコトナク、必ス其間ニ取捨損益ノ權度ヲ存ス、

純正ノ探理論ハ、能ク此探蹟論ト相合スル者ニシテ、徒ニ空理ニヨリテ法ヲ論スル者ニ非ス、必ス理ト實トノ二件ニ着意シテ、決シテ其一ヲ失フコトナシ、唯探蹟論ニ於テハ、先ツ時勢ノ沿革ト、古今ノ進歩ヲ追考シ、而シテ後理義ノ分割ニ及ホスト雖モ、探理論ニ於テハ然ラス、先ツ人性ヲ識別シ、理ヲ探討シ、而シテ後時勢ノ變遷ニヨリ、人心ノ感動各相異ナル所以ヲ考察ス、是レ此二方ノ相合スト雖モ、亦別アル所以ナリ、

古今許多ノ碩學アリト雖モ、實ニ此二方〔按〕探蹟探ヲ兼備スル者ハ、殆ト罕ナリ、其故ハ、各天賦ノ氣稟ニ因テ、專ラ一方ニ偏スレハナリ、亞立斯度アリステ、德爾デレノ如キハ、實ニ二方ヲ兼備セシ者ニシテ、真ニ感歎スルニ堪ヘタリ、

一五ノ首

此人太古ニ生レ、未ダ文明開化ノ盛世ニ遇ハカリシカモ、其講論セシ所ノ國家學ハ、真ニ後世千歲ノ龜鑑トナリテ、今ニ至リテ仍ホ亡フルコトナシ、又羅馬人西施羅シロ 〔按〕有名ナル碩學ニシテ、紀元前百零六年ハ、希臘諸碩學ノ講究セシ性理ヲ以テ基本トシテ、國家學ノ範圍ヲ造リ、羅馬國治平ノ實際ヲ以テ、其中ニ充テタリ、○佛人ボゲン 〔按〕一千五百三十年ニ生レ、以太利人ヒコ 〔按〕七百四十四年ニ死スル、其五百九十七年ニ死ス、 〔按〕一千七百三十年ニ生、六百二十六年ニ死スル、其ハ、近世ノ學者中ニテ、理蹟ノ二方ヲ兼備セシ巨擘ト云フヘシ、又英人ベルク 〔按〕一千七百三十年ニ死ス、モ亦英國ノ國家學ヲ講スルニ方リテ、西施羅ノ如ク善能ノ說辭ヲ以テ、先ツ其沿革事蹟及ヒ形勢ヲ論シ、又性理ノ力ヲ以テ、大ニ此學ヲ潤飾シタリ、○以太利人マッキアエルリ 〔按〕一千四百六十九年ニ生、ハ、其著書中、自ラ辛苦艱難ヲ嘗テ、人性民情ニ通曉シ、以テ發明セシ所ヲ辨論シ、佛人孟得斯答 〔按〕一千六百五、其七百五十、ハ、活眼ヲ以テ自在ニ人世ヲ洞觀シ、以テ其發揮セシ精美

ノ理ヲ辨論セリ、實ニ此兩氏ハ能シ理蹟ノ二方ヲ兼備スト云フヘシ、但シマツキアエルリノ論ハ、專ラ探蹟ニ屬シ、孟得斯谷ノ論ハ、專ラ探理ニ屬ス、又瑞士ノ佛語ヲ用フル地方ニ生レタルルウソウ、〔按〕一千七百十二年瑞士ノケソフニ生レテ、後ニ佛人トナリ、一及ヒ英人ベンテム 〔按〕一千七百四十七年ニ生レ、八百三十二年ニ死ス、ハ、獵乙ノ諸學者ノ如ク、專ラ理論ヲ旨トシテ、之ニ偏ネル、殆ト此論ノ鼻祖ナル フアラト 普拉士 ニ モ甚シク、遂チ空理ニ陷レリ、

以上論スルカ如クナル故ニ、理蹟二方ハ、決シテ相矛盾スル者ニアラス、却テ互ニ相資益スル者ナリ、故ニ史學者流自ラ知ル所ヲ以テ、法斯ニ盡セリト爲シ、其他決シテ新法ノ生スヘキ者アラストセハ、是レ甚ク淺陋ナル識見ト云フヘシ、識見ト云フヘシ、又理學者流自ラ窮ムル所ヲ以テ、理斯ニ盡セリト爲シ、其他決シテ理ノ求ムヘキ者アラストセハ、是レ甚ク淺陋ナル識見ト云フヘシ、純誠ナル史學者ハ、必ク性理ノ貴重セサル可カラサルヲ知り、兼テ之ヲ學ヒ、真正ナル理學者ハ、必ク事蹟ノ考索セサル可カラサルヲ知りテ、併テ

之ヲ學フナリ、

但シ理蹟二方共、必利害ヲ兼有スル者ナリ、即探蹟論ノ利ト稱スヘキハ、殊ニ其効驗ニ富ミ、且適實ナルニアリ、蓋シ史書載ル所古今ノ事蹟ハ、千狀萬態ナル實迹ニシテ、且大ニ確證トスルニ足ルヲ以テナリ、○縦合、碩學鴻儒ノ發揮セシ理ト雖ヒ、之ヲ古今ノ實際ニ顯ハレシ理ト比較スルヒハ、僅ニ微薄ノ碎片ニシテ、譬ヘハ霧霞ノ浮霏ナルカ如ク、決シテ確實ナル能ハス、但シ又探蹟家ノ害ト稱スヘキハ、其留中古今ノ事蹟ニ富ムヲ以テ、遂ニ理ノ一途ニ歸スルニ暗ミ、古今沿革ノ千差萬別ナルニ迷フテ、理非得失ヲ辨スルヲ能ハス、且常ニ既往ノ事歴ニ束縛セラレ、自在ニ現今ト將來ノ事ニ注思スル能ハサルニ在リ、但シ探蹟論ニ於テ、全ク此弊ヲ避ク可ラサルニ非カレヒ、古今許多ノ探蹟者流ヲ歴覽スルニ、能ク此弊ヲ免カレシ者ハ、甚ク罕ナリ、

又探理論ノ利トスヘキハ、殊ニ其立論ノ純潔單一ニシテ、常ニ理ノ一事

四五ノ首

チ以テ、其至極ノ目的ト爲シ、終始此目的ニ到着スルヲ以テ、本旨トスルニ在リ、故ニ其効驗ニ至テハ、殊ニ人性天理ニ出ルモノナリ、但シ常ニ理ノ極ニ到着スルヲ本旨トシテ、之ニ全力ヲ竭スヲ以テ、一理中又自ラ數理ノ存スルヲ悟ラス、且、古今實際ノ千差萬別ナルニ暗ク、及ヒ古今萬方風俗人情ノ差異アルヲ詳ニセス、一概理ニヨリテ、萬事ヲ裁定セント欲スルカ故ニ、遂ニ時ト處トニ適應セル法ヲ立ルヲ能ハス、徒ニ有名無實ノ空理ヲ主張シ、尙且、天然生育ノ理ヲ知ラサルヲ以テ、譬ヘハ未熟ノ菓實ヲ摘テ、以テ之ヲ美味トシ、無根ノ樹木ヲ植テ、以テ成長スヘシト思フニ均シク常ニ理ヲ索メテ、遂ニ空理ニ流ル、是レ即探理論ノ害ト云フヘシ、古今許多ノ理學者流能ク此弊ヲ踏サル者ハ、殆ト罕ナリ、

緒論終

大井潤一 校

國法汎論首卷 終

上ノ六



國法汎論卷之六 上 目錄

ギー、スウエネー子テート、及ヒ國家ノ元首、

第一款 スウエネー子テートノ義

第二款 スターツ、スウエネー子テート、及ヒレンゲンテン、スウエネー

子テート、

第三款 第一スターツ、スウエネー子テートノ大意、

第四款 第二ヒュルステン、スウエネー子テート、



右画ク處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繡像ナリ

本書譯成上梓ヲ謀ル、其序次將ニ首卷ニ次キ、逐卷續譯上梓スヘシ、然ルニ本卷以下論說スル所却テ今日ノ政務ニ切要ナルヲ以テ、前數卷ヲ閣キ、先ツ本卷ヲ譯シ、以テ進講シ且ツ上梓ス、上帙數卷ノ如キハ、將ニ餘力ヲ以テ補譯上梓セントス、讀者之ヲ諒セニ、

壬申五月

譯者識

國法汎論卷之六上

瑞士

イ、カ、ブルンナユリ 著

加藤弘之 譯

「スウエーデン」テ「テート」ト、スターツ、ホーハイト、按此語、泰西國法論ニ主權ト譯スレド、尚穩當トスヘカラス、故ニ今原語ヲ從、及ヒ國家ノ元首、スターツ、オ用ス、詳ナルヲハ本文ニ就テ看ルヘシ、スウエーデン「スターツ、ホーハイト」ノ義、  
第一款 スウエーデン「テート」ト、スターツ、ホーハイト」ノ義、

「スウエーデン」テ「テート」ト、中古ノ羅句語ニテ、スプレミタト云フ」ノ名稱及ヒ辭義ハ、其根元羅馬ニ出ツル者ニシテ、即チ國家ノ最上權、オ「スターツ」ル、或ハ至高權「スターツ」ト云フ義ナリ、而シテ此權ヲ特有スル者ヲ「スウエーデン」ト云、

「ボテン」按緒論第十款ニ出ツ、始メテ「スウエーデン」テ「テート」トノ語ヲ以テ、佛國國法ノ基礎トナシ、且ツ學科上ニ於テ、其義ヲ論究シタリシ以來、此語國家學、及ヒ治平ノ實際上ニ於テ、大ニ關係アル者トナレリ、

二上ノ六

近今ノ法學者ハ、大畧スウエロー子テートノ義ヲ解テ、十分不羈無限ノ國權トナス者多シ、且ツ佛王路易第十四〔按〕一千六百三十三年ニ生レ、四十二年即位シ、七百十五年ニ歿ス、及ヒ其國ニテ一千七百九十三年寛政五年、本文三年ハニ立テシコンヘント〔按〕佛國顛覆ノ時ニ於テ立テシ議會ノ名、議論モ亦之ニ同ウシテ、吾ハ即國家ナリ、而シテ國家ハ十分不羈無限ノ全權ヲ握ルモノナリト、謂ヘリ、去レヒ全ク條理ヲ失ヒシ言ト云フヘシ ○然ルニ方今代國府ヲ設置セル國アレセント、於テハ、決シテ無限ノ政權アルコトナシ、加之十分不羈ノ權ナル者ハ、萬國共ニ決シテ之ヲ有スル者アルナシ、若シ之ヲ有スル者アルトハ、下民決シテ公事自由ノ權利ヲイハイト、テ保ツ能ハス、國家ノ諸部局亦其權利ヲ保ツ能ハサルコト必然ナリ、古今萬國此ノ如キ全權ヲ取ラント欲シテ、永シ其志ヲ得シ者ハ、未タ曾テ之レアララス、但、國家ハ國ノ全體ナルカ故ニ、國家自ラ此全權ヲ握リ得ルハ、當然ナルカ如シト雖ヒ、決シテ亦此全權ヲ握ルコト能ハス、何者、外ニハ列國各其自己ノ權利

ヲ有スル者アリテ、之ヲ限制シ、内ニハ國家固有ノ性アリテ、自ラ之ヲ限制シ、且ツ其諸部局及ヒ各民、皆相應ノ權利ヲ有スル者アリテ、亦皆之ヲ限制スレハナリ ○

○チエールス〔按〕佛人、一千七百九十七年ニ生ル、佛國顛覆史ニヤコビタルノ權利ヲ主ノ論ヲ舉シ、曰ク、「ナチオン〔按〕兆民ヲ合ハ、常ニ萬事ヲ爲シ、張セシ黨、稱スル語、萬事ヲ爲シ得ルノ權利ヲ掌握ス、是レ即十分不羈無限ナル全權ノ因テ

起ル所以ニシテ、此全權ハ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、○是故ニナチオン敢テ路易第十四ニ恭順スルコト能ハス、〔按〕蓋シヤコビタルノ意、元來國家ノ全權ハ、ナチオンノ握ルヘキ者ニシテ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、是故ニ路易第十四カ、吾ハ即國家ナリト云ヒシカ也、此ノ如キ暴言ニハ、恭順スル能ハスト云フナリ、

○ホルマニル〔按〕墺地利人、一千七百八十一年ノ著書ニ一千八百十四年文化ニ於テハンノール國ノ論ヲ舉ク、曰ク「スウエロー子テートノ權ハ、決シテ專横ノ權ニアラス、英國王此權ヲ掌握スルノ理、絶ヘ

三上ノ六

テ他各國ノ王ト異ナラス、英民自由ノ權利ヲ有スト雖ヒ、決シテ王權  
 ナ犯スヲナシ、却テ之ヲ翼ケテ、益堅固ナラシム、〔按〕スウエーデンノ權ハ、決シテ專横  
 ノ權ニアラサル所以ヲ示スナリ、蓋シ王權ノ盛ナラサルヲ、英國ノ如  
 キハナシ、然レ誰カ敢テ英國王ヲ以テ、スウエーデンノ權ヲ握  
 ラサル者トセン、又臣民自由ノ權ヲ有スルヲ、英國ノ如キハナシ、然レ  
 誰カ敢テ英民ヲ以テ、王權ヲ犯ス者トセン、蓋シスウエーデンノ  
 權ト自由ノ權利ハ、全シ並ヒ  
 行ハレテ、相戻ラサル者ナリ、〔按〕上權ト云ヒ、又古時瑞士國ニテヘーブ  
 スウエーデンノ權トテ、語ヲ翻シ、獨乙語ニ譯セント欲スルニ、穩當ノ語  
 ナ得ス、或ハオーベルゲワルト〔按〕至高ノ權ト云ヒ、又古時瑞士國ニテヘーブ  
 ステ、ゲワルト〔按〕至高ノ權ト云ヒ、或ハグレーステ、ゲワルト〔按〕最大ノ語ヲ用ヒ、タレ  
 此諸語ハ、皆國內臣民ニ對シテ稱スルニハ適當ナレトモ、外國ニ對シテ、  
 自國獨立ノ權ヲ著ハスニハ、概シテ適當セサルナリ、○スターツホーハ  
 イト〔按〕未ダ穩當ノ譯字ヲ得ス、但シ其意ヲ解ス、ノ語ヲ用フレハ、内外ニ  
 對シ、共ニ適當スヘシト雖ヒ、然レモ此語ハ專ラ國家ノ尊貴顯榮ヲ示ス  
 ニ適シテ、權威ヲ示スニ宜シカラズ、去レモ、此語ヲ以テスウエーデンノ

トニ代フルトハ、恐ラシハ十分不羈無限ノ全權ト解スルカ如キ謬誤、  
 自ラ少ナカルヘシ、

スウエーデンノ權トテ、即チスターツホーハイトトハ、國權ノ不羈ナルヲ、  
〔按〕前文ニハ十分不羈ト云ヒ、茲ニハ、威力ノ充滿スルヲ、國家諸權柄ノ上  
 單ニ不羈ト云フ、宜シク注意スヘシ、  
 ニ位スルヲ、及ヒ唯一ナルヲ云フ、故ニ左ニ舉ル所ハ、即チ眞ニスウエ  
 ーデンノ權トテ、要件ナリ、

〔第一〕國權ノ不羈ナルヲ、十分、不羈ナルト云フニハアラス、決シテ外國  
 ノ權柄若クハ國內各部局ノ權柄等ニ、從屬セサルヲ云フナリ、但シ外ハ  
 列國法合同法、〔按〕グンデス、ノ爲メニ、限制セラレ、内ハ政府諸部局、或ハ代國  
 府ノ議論ノ爲メニ、限制セラル、ハ、固ヨリ當然ナルヲニシテ、決シテ之ニ  
 山テスウエーデンノ權トテ、義ヲ害スルヲナシ、〔按〕茲ニ論スル所、即チ國  
 明證  
 ナリ、

〔第二〕國家ノ尊嚴威力充滿スルヲ、昔時最モ高等ノ法院ヲ稱シテ、スウエ

ノ一子、ゲリフツホフ〔按〕スウエネリー子テ、ト云ヒシカモ、素ト此法院  
タル、實ニスウエネリー子テ、ト云ヒシカモ、素ト此法院ノ義、ト云ヒシカモ、素ト此法院  
有スルニ類似スルノミ、然ルニ唯此一端アルヲ視テ、實ニ此權ヲ有セリ  
トスルハ、甚タ誤レル者ニシテ、亦論スルニ足ラス、若シ總テ最高等ノ職  
官ヲ以テ、各スウエネリー子テ、ト云ヒシカモ、素ト此法院ニ若干ノ  
スウエネリー子テ、ト云フヘシ、斯ノ如キ者ハ、決シテ眞ノスウエ  
ネリー子テ、ト云フヘシ、非サルナリ、

〔第三〕スウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權タルベキヲ、是  
故ニ國家諸權柄中、一モスウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權タルベキヲ、是  
ス、中古佛國ノセンニール〔按〕封地ヲ受ケノ如キハ、佛王ニ屬シテ獨立ノ  
權、尊嚴ノ威ヲ、視ハレシ以來、全クスウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權タルベキヲ、是  
者、タルノ位ヲ失フタリ、然ルニ獨乙ノク、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權タルベキヲ、是  
セシ侯伯ノ類、又ワールヒユルハ、第十四世期〔按〕一千三百  
スト、ト云、譯シテ司選侯ト云ハ、第十四世期〔按〕一千三百  
以來、自國ノ政

權ハ、全ク其手中ニアリシヲ以テ、實ニスウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權タルベキヲ、是  
シト云ヘシ、

〔第四〕國家ハ、有機體〔按〕詳ニ緒論第十款ニ註ス、ナルヲ以テ、スウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、  
唯一ナラサレハ、其安寧ヲ保ツ能ハサルヲ、若シスウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、  
トノ權分裂スルキハ、國家必然痿癘崩解スルニ至ルナリ、故ニスウエネリー  
子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、  
イマン、ヘルム、ヒフテ〔按〕獨乙人、一千七百九  
政令ノ唯一ナルヲ、即スウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、  
ヘシ、スウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、

〔附論〕ルツツウ〔按〕緒論第十ノ論ハ、佛國顛覆ノ際ニ於テ、盛ニ採用セラ  
レ、實際ニ施サレタリ、其論ニ據レハ、スウエネリー子テ、ト云フヘシ、固ヨリ國家最上ノ權、  
一般ノ意思〔按〕即億兆共ニ  
スル所ノ意思、即チ是ナリトス、是即スアプレマポテスタス



〔按〕即至高ノ義、チ棄テ、之ニ代フルニスアレマ、ホルンダス〔按〕至高ノ意チ以テセル者ニシテ、甚ク誤レリト云フベシ〔按〕ルウソウハ天下ノ一般トシ、之ヲ以テ國家ノ大權ト其著書億兆合約論〔按〕億兆各其意思ヲ吐露シ、以テ合約シテ國家チニ權力ハ奪フ可シト雖ヒ、意思ハ敢テ奪フ可ラサル者ナレハ、天下一般ノ意思ナルスウエレノ子テイトノ權ハ、終始億兆自ラ掌握スヘシ、決シテ他ニ授與ス可ラサル旨ヲ説ケリ、去レヒ、此論全ク古今萬國ノ事蹟ニ反スル者ナレハ、敢テ採用スヘカラス、○此論ニ從ヘハ、億兆ノ共ニ欲スル所ハ法トナリ、共ニ欲セサル所ハ、法トナラサル者ニシテ、唯一般ノ意思ノ嚮フ所ヲ以テ、總テ法ノ根源トシテ、決シテ此意思ノ善惡可否ヲ論スルコトナク、又之ヲ限制スルコトナシ、豈誤ルノ甚クシキニ非ラスヤ、ルウソウ始テ此論ヲ唱ヘシヨリ、漸ク之ヲ信スル者多クシテ、益補益シ、遂ニ大ニ世ヲ惑ハスニ至レリ、元來意思ナル者ハ、精神才智ノ發顯セシ者ナリ、故ニ決シテスウエレノ

子テイトノ如ク、國家ノ法制ニハアラス、意思ハ只能ク法ニ活潑ノ氣勢ヲ與ヘ、且ツ能ク法ヲ革正スル者ナリ、去レヒ意思直ニ法トナルニハアラス、是故ニ先ツスウエレノ子テイトノ權アリテ、然後ニスウエレノ子テイトノ權ヲ握ル者チ云、ノ意思アルナリ、決シテ先ツスウエレノ子テイトノ意思アリテ、然後ニスウエレノ子テイトノ權アルニハアラサルナリ、

〔同上第二〕スウエレノ子テイトノ權ハ、國家及ヒ法制ノ淵源ナルヲ以テ、其主者ナルスウエレノ子テイトノ權ハ、國家ノ上ニ位スル者ナリト云フ論アレヒ、甚ク理ニ戻レリ、夫レ國家アリテ而シテ、後其權アリ、決シテ權先ツ立テ、然後ニ國家アルニハアラス、故ニスウエレノ子テイトノ權ハ、國法ニ出ル權ナリ、決シテ國法ノ上ニ位スヘキ權ニアラス、

第二款 スターツ、スウエレノ子テイト〔ホルンダス、スウエレノ子テ

「ト」〔按〕國家握ル所ノスウエ  
「ト」〔按〕國家ノ元首握ル所ノスウ  
「ト」〔按〕國家ノ元首握ル所ノスウ  
「ト」〔按〕國家ノ元首握ル所ノスウ

茲ニ一問アリ、曰ク、誰カスウエレ一子テ一トノ權ヲ握ルヤ「ト」然ルニ此  
事ニ就テ、諸學者ノ所見各異ナルカ故ニ、其答ル所亦未ク當テ一定スルヲ  
見ス、故ニ講論研究ニ由テ、偏見臆說ノ宿習ヲ去リ、遂ニ真理ヲ悟リ、  
答ヲナスヲ要ス、

〔第一〕ルウソウノ說、及ヒ佛國顛覆以來、漸ク蔓延セシ論ヲ信スル徒ハ、之  
ニ答ヘテ曰ク、「ホルン」〔按〕下文ニ於  
「ト」即通常謂フ所ノホルン、スウエレ一子テ一トノ權ヲ握  
ル「ト」則テ是レナリ、

但シ此ノ如ク答ル徒ニ向テ猶一問アリ、曰ク、「所謂ホルン」トハ、何者ヲ指  
スヤ「ト」然ルニ此ノ如キ徒中ニ仍ホ二論アリ、其一論ハ、譬ヘハ數千萬ノ原  
素ノ散亂スルカ如ク、制度モナシ、亦序次モナシ、徒ニ渙散セル民ヲ指目  
シテホルント爲シ、而シテ此ホルンヲ以テ、國家ノ大權ヲ掌握スル者ト

爲ス、是レ即實ニ國家ヲ根底ニ傾覆スルノ暴論ト云フヘシ、若シ此暴論  
實際ニ行ハルレハ、國家決シテ存在スル能ハス、國家果シテ存在スル能  
ハサレハ、之ヨリ生スル所ノスウエレ一子テ一トノ權、豈能ク獨リ存在  
スルヲ得ンヤ、其誤レル論ヲ俟タスノ明ナリ、○是故ニ此ノ如キ暴論ハ  
如何ナル政體ニ於テモ、決シテ適合セサルナリ、然ルニ尙此ノ如キ暴論  
家ハ、之ヲ以テ民人專權政體アブソル一テ、デモカラナリ、〔按〕國家ヲ以  
ルクノ權ハ、決シテ限制セサルテ、全クホルンノ專ラニスヘキ者トナシ、ホ  
ヲ以テ、本旨トスル政體ナリ、チ立ント欲スレニ、此ノ如キ暴論ニハ、此  
政體スレ尙合セサルナリ、何者、縱合ヒ民人專權政體ノ國タリト雖ヒ、徒ニ  
數千萬ノ原素ノ散亂セルカ如ク、制度序次ナキ衆庶民人ノ、其國權ヲ執  
ルニハアラス、必ス制度序次ノ具備セル國會ホルン、サアリテ、國權ヲ  
施行スレハナリ、

又一論ハ、同等ノ權利ヲ以テ相結ヒ、其共欲スル所ヲ施行スル國ノ民  
人ヲ指目シテ、ホルント爲シ、而シテ此ホルンヲ以テ、國權ヲ握ル者トナス、

六ノ上ノ二

是即チ民人國權ヲ執ル所ノ民人政體デモカチ一〔按〕ノ論ナリ、故ニ此論ハ、唯民人政體ニ於テノミ取ルヘシ、既ニ代國府ヲ設置セル、民人政體ヲアレセシテ一チテ、デモカニ於テハ國國ノ民人相合シ、直ニ國權ヲ施行スルニ非ズ、必此民人ニ代ハルヘキ代國府アリテ、之ヲ施行スルカ故ニ、殆ト此ノ如キ論ニハ合セサルナリ、此類ノ論說ハ、總テ國家ノ元首ヲモ、賤民ト同等ノ如ク視做シ、且ツ少數ノ治者〔按〕政府ヲ以テ、多數ノ被治者〔按〕國國ニ從屬スルカ如ク視做ス者ニシテ、譬ヘハ首ヲ以テ足トナシ、足ヲ以テ首トナスカ如クナレハ、決シテ他ノ諸政體ニ合セサル、固ヨリ論ナシ

是故ニ、第一論ハ、以テ政府ヲ傾倒シテ、遂ニ民人ヲ統御スル者有ラサシムルニ足リ、第二論ハ、天下ノ民人ヲ合シテ、之ヲ以テ國權ヲ握ル者ト爲シ、以テ擅ニ其欲スル所ヲ爲サシムルニ足ルト云フヘシ、但、儘又此二論相合シテ、殆ト分レサルナリ、而シテ總テ此ノ如キ論說ヲ唱フル徒ハ、常

六ノ上ノ三

ニ此論ヲ偏用シテ、大ニ可ナル所以ヲ主張スト雖モ、此論ト合スヘキ者ハ、僅ニ萬民直預政體ウンミツテル、バーン、デモカチ一〔按〕萬民直ニ國政ニノミニシテ、其他ノ諸政體ニハ、決シテ適合セス、故ニ此論ハ、全ク諸政體ヲ壞破シテ、遂ニ萬民直預政體ヲ起ス所ノ者ニシテ、國家ノ爲ニ大害アリ、又一派全ク之ト相反セル論ヲ主張スル徒、現存ノ政府及ヒ其法制ヲ惡ミ、之ヲ傾覆セシメテ企ルニ方リ、此ノ如キ論說ヲ假リテ、其志ヲ遂ケント欲スルナリ、○又佛國顛覆ノ時ニ方リ、此ノ如キ論說最モ恐怖スヘキ兵器ノ如ク、大ニ壞破ノ効ヲ奏シタリ、既ニ一千七百九十二年〔按〕佛國顛覆ノ際、一千七百九十二年四月二十日ニ於テ、佛國ナチオナル、ヘルサムルング八十九年、ホルク自立ル所ニシテ、全國家ニ代ル議會ノ義ナリ、此議會ニ二類アリ、即八十九年ニ立テ九十二年ニ閉チシ者ヲ、コンスチテ、イレンデ、ナチオナル、ヘルサムルングト云ヒ、九十二年ニ立テ九十二年ニ閉チシ者ヲ、ゲセツグ、イレンデ、ナチオナル、ヘルサムルングト云フ、戦旨ヲ壞地利ニ宣ヘシ時、〔按〕佛國顛覆ヲ起スニ方リテ、壞地利國帝之ヲ妨遮セントセシ故ニ、佛ノ議會遂ニ之ト兵端ヲ開

ソノ決シテ、其ルウソウノ論ヲ取テ之ヲ公布シテ、其言ニ云、佛國ノ  
 意ヲ宣ヘタリ、ウエレノテテートノ權ハ、獨リ佛國ホルクノ手中ニ在リ、此故ニホルク  
 ノ意思ハ、最モ尊キ者ニシテ、之ヲ施行スルノ權ハ、敢テ他ニ授托スヘキ  
 ニアラス、獨リ後生億兆ノ權利ノミ、能ク之ヲ限制スルヲ得可シ、〔按〕將來  
 億兆ノ  
 意思變更スルキハ、能ク從來ノ法、政府縱令ニ憲法慣用法、條約、或ハ布令等ヲ  
 制ヲ變更シ得可シト云フ意、用フルモ、決シテ億兆ヲ服從セシムルヲ能ハス、獨リナチオン  
〔按〕ホルク  
 シニ同シ、  
 ノミ自ラ能ク憲法ヲ制定シ、或ハ之ヲ革正スル特權アリ、他人敢テ之ヲ  
 專ラニスル能ハス、〔按〕大意謂ラク「スウエレノテテートノ權ハ、終始ホ  
 ルクノ手中ニ止マル者ナリ、故ニ法制ヲ立テ、或ハ  
 之ヲ改ムル等ノ事、獨リホルクノ專ラニスル所ニシテ、政府敢テ此權ヲ  
 握ル能ハス」ト云フハ、即億兆中ノ一人、若クハ數人ヲ指スナリ、  
 ○ナチオンナール、ヘルサムルンクニ代リ、ナチオンナール、コンヘント、〔按〕  
 千七百九十二年、立ツニ至リ、更ニ此論ヲ擴張シテ、終ニ王位ヲ傾倒シタ  
 ニ立チシ議會、〔按〕此議會遂ニ國君路易第  
 リ十六チ死刑ニ處シタリ、  
 傳教總裁、エースイテン、ライチツ〔按〕西班牙人、一千五百十二年、傳教  
 士、生レ、六百六十五年ニ死ス、

士ベルラルミン、〔按〕以太利人、一千五百四十二年、及ヒマリアナ、  
 人、一千五  
 百三十六年ニ生レ、六  
 百二十三年ニ死ス、等ノ如キ諸人ハ、神教ノ威力ヲ以テ、國事ヲ制御  
 センコチ欲シ、教皇パブハ、天神ヨリ威權ヲ授カリシ者ナレハ、則チ國  
 君ノホルクヨリ、威權ヲ授カリシ者ト、同日ノ論ニアラサル旨ヲ以テ、  
 教皇ヲシテ恣ニ國君ヲ制御セシメンコチ謀レリ、蓋シ其意通常ホル  
 クス、スウエレノテテートヲ唱フル徒ノ論ト全ク相反スト雖モ、教皇  
 ノ威權ヲ擴張センカ爲メ、姑ク此論ヲ假リタルナリ、○但シ輓近ニ至  
 リ、ルウソウノ論最モ盛ニシテ、人心ヲ煽動スルモ更ニ甚シカリキ、ル  
 ウソウノ論ニ據レハ、各民相合シテホルクトナリ、以テスウエレノテ  
 テートノ權ヲ掌握ス、故ニ各民相合シテ、共ニスウエレノテ〔按〕注上  
 ニ見ユ、ト  
 ナリ、又分レテスウエレノ臣民トナル、元來スウエレノテテート  
 ノ權ナル者ハ、即一般ノ意思ニシテ、一般ノ意思ハ、決シテ他ニ授托ス  
 へキ者ニ非サルカ故ニ、ホルク多數ノ意思相合スレハ、政府ト雖モ遂

ニ之ニ恭順セシメ、或ハ政府ヲ傾倒シ、又ハ國憲ヲ變更スル等、皆其欲  
スル處ニ任シ、ホルクハ敢テ法ノ爲メニ、東縛限制セラル、者ニアラ  
ス、ホルクノ欲スル所ハ即法トナリ、其欲セサル所ハ即不法トナルト、  
是即ルウツウノ論ノ大略ナリ、故ニ此論ニ據テ、天下ノ各民ハ、悉ク國  
權ニ預ルヘキ者ニシテ、彼ノナチオナル、ヘルサムルンク〔按〕全國家  
ニ代ハル  
所ノ議、ヲ置テ、ホルクノ代議者ト爲スカ如キモ、全ク用フ可ラサルナ  
リ、去レモ若シ此論ヲ以テ、實際ニ施サントスレハ、國家ノ法制秩序モ、決シ  
テ保存スル能ハス、加之此ノ如キ自由ノ權利、決シテ永續スル能ハサ  
ル事、論ヲ俟スシテ明カナリ、

一千八百四十八年嘉永二年佛人復顛覆ヲ起シ巴里斯ノ府廳ニ於テ、  
同上ノ論ヲ公告シテ之ヲ實際ニ施シ、遂ニ立憲君主政體ヲ廢シテ、民主  
政體トナシ、一旦假政府ヲ置テ、之ニ全權ヲ委託シタリキ〔按〕一千八百四  
十八年第二月  
佛人顛覆ヲ起シテ、オルンアン氏ノ位ヲ奪ヒ、以テ〔按〕一  
千七百  
民主政體ヲ立テタリ、之ヲ第二月ノ顛覆ト云フ、此時ラマルチン〔按〕一  
千七

百九十年ニ生ル、此顛覆ノ時ニ、假政府主長ノ公布書ニ云、佛國ノ民、丁年  
ノ一人ニシテ、外務ニニステルヲ兼テタリ〔按〕本義ハ、國家ノ臣民ト云フコナレ  
ニ至レル者ハ、皆スターツ、ビュルゲル  
云フニアラス、スターツ、ビュルゲルト稱スルニハ、必ラス定法アリテ、各國  
相同シカラス、但シ婦女、少年、刑人、及ヒ貧救ニシテ、國家ノ教育ヲ受ル者  
等ハ、各國共ニ之ヲスターツ、ビュルゲルト稱スル、ナリスターツ、ビュルゲル  
コナシ、卷之二第二十一款ニ詳ナリ、參看スヘシ、  
タル者ハ、皆選擇者〔按〕立法府ノ議員タリ、選擇者タル者ハ、皆スウエレ  
ンタリ、是ヲ以テ各民ノ權利ハ皆同ウシテ、且ツ毫モ限制スル所ナシ、故  
ニ各民互ニ「汝カ權ハ吾カ權ニリ強大ナリ」ト云フコチ得ス、各民皆自己  
ノ威力ヲ知リテ之ヲ施行シ、且ツ自修ノ權利ヲ守リ、敢テ自ラ輕スルコ  
勿レト、

〔第二〕以上論スル所、ホルクス、スウエレノテトノ説ハ、素國權ヲ確定  
セント欲シテ、却テ國家ヲ破壞スルニ至リ、或ハ萬國ノ政體ヲ變シテ、悉  
ク民主國ト爲サントスル者ナリ、故ニ佛國二三ノスターツマン〔按〕經世ニ  
巧ナル徒、  
或ハ現ニ政柄ニ預レル徒ノ議ニシテ、君臣共ニ通シハ此論ノ甚ク國家ニ  
テ用フ、穩當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ、今原語ヲ記ス、

害アルヲ以テ之ヲ排斥シ、而メ其知或ハ正理ヲ以テスウエレテテ  
 トノ權ノ由テ出ル所ト爲シ、以テホルクス、スウエレテテトノ權ヲ  
 主張シシ徒ノ過誤ヲ規サントシテ、大ニ刻苦シリ、其志ハ實ニ嘉ニスヘ  
 シト雖、曾テ其功ヲ遂クルコト能ハサリキ、○權ナル者ハ、素ト人ニ關  
 屬スル者ナリ、故ニ國權ニ亦實ニス、タリトリヘ、セルセンリフカイト  
 家人ト云フカ如キ義、蓋シ國家ハ、有機活體ニ關屬ス、唯國家此權ヲ施行  
 ノ如シ、故ニ國家ヲ以テ一個ノ巨人ト爲ス、  
 スルニ方リテハ、必其知及正理ニ則ラサルヲ得ス、然ルニ論者全ク此理  
 ナ知ラスシテ、國權ヲ以テ其知及正理ヨリ出ル者ト爲セシハ、大ニ誤リ  
 ト云フヘシ、此論ハ彼、ホルクス、スウエレテテトノ權ヲ主張スル徒  
 ノ、萬國ヲ以テ民人專權政體ト爲サント欲スル說ト、其意ハ全ク相表裏  
 スレトモ、大ニ誤ル所以ハ皆同一ナレハ、共ニ取ル可ラサルニ歸ス、蓋シ權  
 素ト人ニ關屬スレトモ、唯之ヲ施行スルニ方リテハ、必其知正理ニ則ルヲ要  
 スト云フノ論、最モ確實ニシテ、上ノ二論ニ優ルコト甚々大イナリ、

○ロエール、コラルド〔按〕佛人、一千七百六十二年ニ生レ、八百四十五年ニ死ス、一千八百二十年  
 文政三年、第三月廿七日ノ演述〔按〕議院ニ於テ、其論ヲ演述セシナルベシ、ニ云、民ノ相合スル者  
 ニハ、必二個ノ原質アリ、即チ體ト神ト是ナリ、而シテ體トハ、各民ノ身及其  
 氣力並ニ其意思ヲ云、各民ノ身及其氣力、意思ヲ以テ體ト爲ス、殆ト解  
 各民ヲ主トスル者ニシテ、其誤リ亦以テ彼ノルウソウノ論ニ異ナラサルニ非ラスヤ、  
 當理ノ事ヨリ生スル所ノ法ナリ、○專ラ體ヲ以テ主トスルトハ、スウ  
 エレテテトノ權ハ、即各人相合スル者ノ多數ト及ヒ其意思多數ノ  
 專ラニスル所ニシテ、即チホルクス、スウエレテテトノ權ハ、是レナリ、但シ多  
 數ノ意思ナル者、此暴權〔按〕ホルクス、スウエレテテトノ權ハ、一人若クハ數員ニ委託  
 スル歟、或ハ一人若クハ數人、多數ノ意思ニ背テ、此暴權ヲ奪フトハ、特ニ  
 此暴權ノ質ヲ變セサルモ、自ラ和柔ノ權トナル可シ、然リト雖、未ダ全  
 シ粗魯ノ權タルヲ免ル、コト能ハス、故ニ遂ニ無限權、及ヒ特權ノ根本  
 トナルヘシ、〔按〕演述者、專ラ體ヲ以テ主トナルヘシ、トスル徒ノ誤ヲ舉ルナリ、○然ルニ專ラ神ヲ以テ主トシ、

法ヲ貴フ者ハ、スウエローチテ、トノ權ヲ掌握スル者ハ、即正理ナリ、何者、法ナル者ハ、必理ニ出テサル可ラサルヲ以テナリ、○自由ヲ貴フ國憲ハ、必粗魯ノ權ヲ去リ、正理ヲ以テ權ト爲スチ本行ト爲ス〔按〕以上演述ノ文ナリ、

〔第三〕又一派別ニホルクス、スウエローチテ、トチ唱フル者アリ、此派ニテホルクト稱スル者ハ、第一條ニ云フ所ノ數千萬ノ原素ノ散亂セルガ如ク、制度序次ナク、渙散セル民ヲ指テ云フニアラス、必ヤ相ヒ合同シテ、風俗言語嗜欲ヲ共ニシ、且ツ其中自ラ尊卑貧富、大小等ノ差等アツテ、相合セル一國人衆ヲ云フ、是即チオ〔按〕ナチオ〔按〕ノ説〔按〕ナリ、而シテ此チオ〔按〕ナチオ〔按〕ナチオ〔按〕ノ法制ヲ變革スル權ヲ掌握スル者ト爲ス、但シ此チオ〔按〕ナチオ〔按〕ナル者ハ、法制序次ヲ得ルニ宜シト雖モ、未ク全ク法制序次ノ整ヒタル者ニハアラサルナリ、

是故ニチオ〔按〕ナチオ〔按〕ナル者ハ、其法制序次、全ク整フ者ハ、則始テ國家トナルナリ、〔卷之二〕第二款ヲ參看スヘシ、故ニチオ〔按〕ナチオ〔按〕ナル者、全クスターツ、ホ〔按〕トノ權〔按〕スウエローチ〔按〕ナチオ〔按〕ナチオ〔按〕ナチオ〔按〕チ生スヘキ根本ニアジストハ云フ可ラスト雖モ、ナチオ〔按〕ナチオ〔按〕決シテ直ニ此權ヲ生スル者ニアラス、ナチオ〔按〕先ッ國家ヲ成シ、國家成テ然後ニス〔按〕スターツ、ホ〔按〕トノ權始テ生ス、故ニチオ〔按〕ナチオ〔按〕ハ、スターツ、ホ〔按〕トノ根本ニ似タレモ、直ニ之ヲ以テ眞ノ根本ト爲スハ不可ナリ、

此派ニ於テ論スル所ノホルクス、スウエローチテ、トノ權ハ獨乙ニテ穩當ノ語ヲ以テ譯スレハ、ナチオ〔按〕ナチオ〔按〕ナル、スウエローチテ、トノ權ト云フヘシ去レモ上論ノ如ク未ク國家トナラサルナチオ〔按〕ノ權ナルヲ以テ、決シテ國權ト稱スルニハ足ラサルナリ、

六〔第四〕以上諸派ノ論說皆非ナリ、實ニホルクト稱スル者ハ、即國家ト云フニ同ウシテ、之ヲ譬フレハ猶人身ニ頭首四肢ノ序次アルカ如ク、必序次法制ノ具備シテ、相合スル所ノ人衆ヲ指言スルナリ、而シテホルクノ

頭首四肢ナル者ハ、實ニ、スターツ、ベルセンリフカイト〔按〕本款〔第二〕ニ於テ最モ緊要ナル者ナリ、

國家ハ一人身ナルヲ以テ、必不羈ナラサル可ラス、十分ノ威力ヲ備ヘサル可ラス、至高ノ位ヲ占メサル可ラス、及唯一ナラサル可ラス、之ヲ要スルニ、國家ハ必スウエレノテトノ權ヲ握ラサル可ラサルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、一人身ナル國家ハ、即スウエレ〔按〕スウエレノ權ヲ握ル者ナリ、故ニ此スウエレノテトヲ稱シテスターツ、スウエレノテトト云フ、

是故ニスウエレノテトノ權ハ、國家未ク立タサル時先ツテ生スル者ニアラス、又國家ノ外ニ在ル者ニアラス、尙且國家ノ上ニ在ル者ニアラス、實ニ是レ國家ノ權力及尊嚴ナル者、即是レスウエレノテトナリ、故ニ此權ハ、全國家ノ權ト云フ可シ、全國家ノ權ハ、其各部ノ權ヨリ更ニ強大ナルヲ以テ、全國家ノスウエレノテトハ、其一部ノスウエレ

ノテト〔按〕蓋シ下條〔第五〕ニ論スル所ノ、ノ上ニ位スルノ固ヨリ論ナキノミ、

上ニ論スルカ如ク、ホルクト稱スル者ハ、決シテ渙散セル人衆ヲ云フニアラス、必制度序次ノ其間ニ整然タル者アリテ、相統合セル人衆ナレハ、其中必頭長アリテ、最高ノ地位ヲ占メ、最大ノ職務ヲ執リ、其他ノ部分ニ於テモ、亦各相應スル所ノ地位職務アリ、故ニ此意ヲ以テホルクス、スウエレノテトヲ説ケハ、實ニ此論ノ本義ニ協フト云フヘシ、然ルニホルクス、スウエレノテトヲ説ク所ノ徒、從來此本義ヲ失フカ故ニ、今此語ヲ用フルハ、學者ヲシテ大ニ迷ハシムルノ恐レアリ、故ニ此語ヲ捨テ、之ニ代フルニスターツ、スウエレノテトノ語ヲ以テス、佛國ノ國法學者ハ、スウエレノテト、デ、ナシオンノ語ヲ用フルト雖モ、獨乙ニテハ此語甚ク穩當ナラス、佛ニテハ此語獨乙ノスターツ、スウエレノテトト全ク同義ナリ、



○スチューヘ〔按〕佛人、一千七百九十八年ニ生ル、ガ一千八百四十八年嘉永元年或人ニ與ル書ニ云、スウエーデーテートノ權ハホルクノ掌握スル所ナリト云フノ論裁可ナリ、去レレヒ其ホルクト云フ語ヲ用フル意ノ義ニ從テ、取捨セザル可ラズ、若シ國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ヲ指シテ、ホルクト綜稱シ、而シテ君民〔按〕即國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ナリ、共ニスウエーデーテートヲ同握スル者トスレハ實ニ善美ト稱スヘシ、去レレヒ若シ此ノ如ク相合セル人衆ノ中ニ於テ、只其一部分ヲ拔キ、或ハ君主ノミヲ以テホルクトナシ、彼余即國家ナリト云ヒシハ此意ナリ、〔按〕路易第十四ノ語ナリ、或ハ君主ヲ除キ、單ニ巴力門ノミヲ以テホルクトナシ、又ハ制度序次ナク、渙散セル人衆ヲ單テ、ホルクト總稱スルカ如キハ、俱ニ甚誤レル者ニシテ、遂ニ國家ヲ害スルノ論ナリ、敢テ採用スヘカラスト、○シスモン〔按〕瑞士人一千七百七十三年ニ生ル、八百四十ノ著書中、スウエーデーテート、ヂュー、マールナル語ト、スウエーデーテート、ヂュー、ラ、ナシオンナル語ノ相異ナル所以ヲ明カコシ、

印ヲ捨テ、乙ヲ取ルヘキヲ論シタリ〔按〕此論亦スチューヘ

ノ論ニ同シ、

スグーツ、スウエーデーテートノ權ハ、能ク國家ノ内外ニ發耀ス、即外ハ諸外國ニ對シテ、獨立不羈ノ權トナリ、且神效ニ對シテ、現世國ノ權トナリ、内ハ即チ臣民ニ對シテ、全國家ノ制法權トナリ、以テ對耀スルナリ、是故ニ英國人ハ、巴力門ヲ以テスウエーデーテートノ權ヲ掌握スル者ト爲ス、何者、巴力門ナル者ハ、即全國家ニ代ハル者ニシテ、國君其首座ヲ占ムルヲ以テナリ、○但シ此ノ如キ事決シテ英國ニ止ルニアラス、其他方今代國府〔按〕立法ヲ設置セル國ニ於テモ、亦獨リ君主ヲ以テ全ク國家ノ上ニ位スル者トセス、必亦國家中ノ一人トシテ、唯其首領タル者ト爲スノミ、此故ニ君主一人決シテスウエーデーテートノ權ヲ施行スルコト能ハス、亦必全國家ニ代ハル所ノ代國府ト共ニシテ、甫メテ能ク之ヲ施行スルヲ得ルナリ、○パトリヨニアール、スタート〔按〕國家ヲ以テ君ノ制度ヲ貴テ、國家ヲ以テ君主ノ私有ト爲シ、且ツスウエーデーテート

ノ權ヲ以テ、獨リ一君主ノ手中ニ在リトスル學派、及ヒアブツルチステセ  
 ル、スタート〔按〕君權ノ制度ヲ貴テ、獨リ一君主ヲ以テ國家ト爲シ、以テス  
 ン〔按〕無限ノ國、〔按〕君  
 力ヲ集合統一セル者ナルヲ知ラス、故ニ縱令ヒ君主及ヒ王室斷滅スト雖  
 也、國家ハ獨リ依然トシテ變動セサル理ニ於テモ亦知リ得サルナリ、〔三〕  
 ①英國王顯理第八世〔按〕一千五百零九年ニ  
 生レ、四十七年ニ殞ス、〔按〕巴力門會議ノ時ニ於テ、  
 議員ニ演述セシ旨趣アリ、其言ニ云「余法官ノ説ク所ヲ聽クニ、吾ガ巴力門  
 タルヤ、吾ガ王位ヲ以テ頭首ト爲シ、汝群臣ヲ以テ四肢ト爲シテ、全然相  
 離レサル者ナリ、故ニ縱令ヒ微賤ナル一議員ニ係レル利害得失ト雖ヒ、  
 敢テ之ヲ小事トセス、必吾身及ヒ國院ニ係ル所ノ利害得失ト爲スヘシ、  
 吾ガ王位ノ實ニ尊貴ナルハ、唯國院會集スル時ニ在ルノミト云ヘリ」ト  
〔二〕ツエッセル〔按〕獨乙人一千八百零七年ニ生ル、ハ其著書中ニ、此ノ如キスターツ、スウエ

一チテートトハ、獨乙國ニ適セサル旨ヲ論セシノミニ非ス、總テ君主國  
 ニ於テハ、唯ヒユルステン、スウエネーチテートチ以テ當然ノコト爲シ、  
 民主國ニテハ、唯ホルグス、スウエネーチテートチ以テ當然ノコト爲シ  
 テ、其旨ヲ論セシトハ雖ヒ、古時羅馬ノ民主政體ナリシ時、及ヒ帝國ト  
 ナリシ後モ、共ニマエスタス、ポプリ、ロマン〔按〕羅馬國民、スウエネーチ  
 ノ制度ヲ立テ、而メ羅馬國民ノ意思ヲ以テ國法ト定メ爲シ、且ツ民主政  
 體ノ時ニ於テハ、政柄ヲ以テコンスルニ委任シ、又最高ノ政務及賦稅  
 ノ事務ヲ以テ、悉ク之ヲセナートニ委任シタリ、〔是亦スウエネーチテ  
 ートノ一分ト云ハサル可ラス、〔又方今英國ニテ、巴力門ノスウエネー  
 子テート〔即全國家ノスウエネーチテートナリ、〕チ以テ國君ノスウエ  
 ンチテートト全ク相併合スルカ如キハ、全クツエッヘルノ論ト相表  
 裏スト謂フヘシ、獨乙國トイヘヒ他ノ列國ニ對シテハ、其スウエネー  
 子テートハ、全ク全國家ノ權タルコト、論ヲ俟ダスシテ明亮ナリ、○他ノ列國

ニ對シテ、スウエネリーテテートノ權ヲ掌握シ得ル國家タル者ニシテ、  
 國家内ノ各民、及ヒ國家ノ君主ニ對シテ、スウエネリーテテートノ權ヲ掌  
 握スル能ハサルノ理、決シテ有ル可ラス、獨乙國ニテモ他ノ各國ノ如  
 ク、其憲法ハ即國家ノ憲法ニシテ、決シテ君主ノ憲法ニアラス、其負債  
 ハ即國家ノ負債ニシテ、君主ノ負債ト全ク相異ナリ、故ニ獨乙國ニ於テ、  
 君主國家ヲ私有セシ、古昔ノ陋習未タ全ク滅セシニハアラサレヒ、其  
 國法タル、方今文明世界一般ノ公理ニ背キ、獨リホルクヲ以テ、君主ノ  
 僕妾ト爲シ、國家ノ威權ヲ以テ、君主ノ威權ニ吞併セラル、者ノ如ク  
 スルノ理ハ、絶ヘテアラザルナリ、○ツェッペルツェッペル斯クヒュルステン、スウエネ  
 ーテテートノ權ヲ主張スレヒ、國權ヲ以テ無限ノ全權トセサルハ、甚  
 タ善クスヘシ、去レヒ獨乙各國及ヒ羅馬人種ノ各國〔按〕歐洲南西ノ各國ニ  
 牙、西班牙、佛蘭ノ事蹟ヲ見ルニ、共ニ輓近ニ至リ、君主威權ヲ擅ニシテ、  
 西等ヲ云フ、大ニホルクノ權利ヲ枉害セシハ、蓋シ專ラヒュルステン、スウエネリーテ

テートヲ主張スル徒ノ論ニ依據セシナリ、

〔第五〕但シ既ニ論スル所ノ全國家掌握スルスウエネリーネテートノ外、尙

又國內ニ於テ、別ニ國家頭首ノスウエネリーテテートト稱スル者アリ、之  
 ナ稱シテレゲンテン、スウエネリーテテートト云フ、但シ君主國ニ於テハ、此  
 權最モ著顯ナルヲ以テ、又之ヲヒュルステン、スウエネリーテテート〔按〕前  
 フ、ヒュルステン、スウエネリーテテートト稱ス、○國家ノ元首タル者ハ其各  
 ト語同シウシテ、其義ハ即テ相異ナリ、ト稱ス、○國家ノ元首タル者ハ其各  
 部局及ヒ其各民ニ對シテ、最大ノ威權ヲ執リ、至高ノ地位ヲ占ム、故ニ英ノ  
 國法ニテハ、國君ヲスウエネリー前ニ註ス、ト稱シ、且ツ其他ノ君主國ニ於テモ  
 亦君主ニ此スウエネリーテテートノ權ヲ歸ス、

前章ニ論スル所ノスターツ、スウエネリーテテートト、此章ニ云フ所ノヒ  
 ヌルステン、スウエネリーテテートトハ、實際上ニ於テ、決シテ相矛盾スル者  
 ニアラス、故ニスウエネリーテテートニ此二類アリト雖ヒ、是ニ由テ此權  
 相分レ、ホルクト君主ト各共一半ヲ掌握シテ、相抗拒スルノ憂ヒ決シテ

アルコナク、且、二權各唯一ニシテ又盛大ナリ、去レヒ之ヲ分テハ、則判然二類トナル、一ハ即全國家ノ有スル權ニシテ、君主ハ唯其首座ニ位スルノミナルカ故ニ、敢テ君主ノ專ラニスル所ニアラス、二ハ即君主自己ノ有セシテ、敢テ他人ノ闕スル所ニアラス、此第一權ハ、全國家ノ有スル者ナルヲ以テ、君主獨リ掌握スル所ノ第二權ノ上ニ位スルコト、固ヨリ論ヲ俟タズ、國家ノ憲法ヲ制定スルハ、獨リ國家全體ノ權力ニ在ルノミ去レヒ君主タル者、此憲法ノ區域内ニ於テ、自己手中ニ在ル所ノ大權ヲ施行スルニ於テハ、決シテ他人ニ限制セラル、コナシ、○是故ニスターツ、スウエローチテートハ專ラ憲法制定ノ權ト云フベシ、又ヒユルステン、スウエローチテートハ專ラ政令ノ權ト云フ可シ、第一權休止スレハ、則第二權行動ス、故ニ此二權ハ、實際上ニ於テ、容易ニ相抗拒スル者ニアラス、又理ニ於テハ、決シテ相抗拒セサル者ナリ、蓋シ此二權若シ相抗拒スレハ、君主ノ一身ニシテ相抗拒スルナリ、何者、第一權ハ、君主國家ノ各部局ト共

1952. 7. 17

ニ之ヲ掌握シ、又第二權ハ、君主獨リ之ヲ掌握シテ、二權共ニ君主ノ預ル所ナレハナリ、故ニデモカラチーセ、ホルクス、スウエローチテート  
 [接]萬民政治ノ、スト云フ義ニシテ、即前ニ云フ所ノ、ホトヒユルステン、スウエローチテートナル二權ハ、彼此相抗拒シテ、俱存共立ス可ラスト雖ヒ、スターツ、スウエローチテートトヒユルステン、スウエローチテートノ二權ハ、人身ノ全體ト頭首トノ如ク、相合同シテ、決シテ分隔スルコトナシ、  
 [附論]又ホルクス、スウエローチテートチ唱フル一別派アリ、但シ此派ニテハ、其立論ホルクノ多數國家ノ大權ヲ掌握スルト云フニアラス、政體制度ハ、素トホルクノ爲ニ建設スル者ナルヲ以テ、必ホルク多數ノ安寧ニ害アル政體制度アル可ラストノ意ヲ以テ、ホルクス、スウエローチテートチ説クナリ、此論ハ決シテ不可ト云フ可キニ非ラス、去レヒ此意ヲ以テホルクス、スウエローチテートト稱スルハ甚タ誤レリ、○又

國權悉クホルク多數ノ意思ニ出ルヲ以テ至當トナシ、此理ニ據テ、ホルクス、スウエローチテイト唱フル學派アリ、〔按〕此學派ニテハホルク素トホルク多數ノ意思ニ至當トナルニテ、唯此實ニ萬民政治國ノ國憲ノミナラス、或ハ亦君主政治國ノ國憲トイヘ、亦以テホルク多數ノ意思ニ出ル所ト爲セル者アルハ、此學派ノ論ノ如シ、譬ハ羅馬帝國及佛蘭西帝國ノ國憲ノ如キモ、羅馬佛蘭西ノ國法學ニ據テ之ヲ考レハ、其ホルク多數ノ意思ニ出ルトス、又瑞士各邦ノ邦憲ニ於テモ、ホルクナル者、即スウエローチナリトハ記サ、レ、スウエローチテイトノ權ハホルクニ出テ、〔按〕立法府ナリ、之ヲ施行スト記載ス、譬ハ、一千八百三十一年二年、ニ於テ議定セルチユリフ一ノ邦憲第一條ニ記ス所モ亦此ノ如シ、去レ、此ノ如キ論ニ至テハ、決シテ世界萬國ニ通スル者ニアラス、且、スウエローチテイトノ理ハ、永世不變ノ者ナルニ、僅カニ此ノ如キ事蹟ニ據テ、此權ノ理ヲ論スルハ

甚不可ナリ、○又一種強暴ナル人衆恣ニ政府ヲ傾倒シ、且、國憲ヲ壞破スルノ權ヲ以テ、ホルクス、スウエローチテイトト爲スノ論アリ、此論ハ既ニ實際ニ施行セシマ、多次ナリト雖、最モ害アル者ニシテ、縱令萬民政治ノ國法トイヘ、決シテ此論ヲ用フルコト能ハス、

第三款

第一 スターツ、スウエローチテイトノ大意、イ、ン、ハ、ルト、

〔第一制度序次ノ具備セルホルクハ、是レ即國家ニシテ、此國家ナル者ハ、先自己ノ顯榮尊嚴ヲ敬重スヘキノ權利ヲ保有ス、古時羅馬ニテハ、國家ノ顯榮尊嚴ヲ稱シテ、マニスタートト云ヘリ、故ニ羅馬國ノ體面威權、及其制度序次ヲ大ニ毀損スル者アレハ、則之ヲマニスタートヲ毀損スル罪科キリメン、レ、セ、ト爲シタリ、

〔第二〕國家諸外國ト獨立不屬ノ威力ヲ對峙シ得ルハ、其スウエローチテ

トトノ一要件ナリ、若シ國家獨立ノ權ヲ失フテ、外國ノ制馭ヲ仰クニ至ルキハ、則自己ノスウエネー子テートヲ失フテ、外國ノスウエネー子テートニ服従スト云フヘシ、

但シ國家縱令外國ニ服従スト雖モ、或ハ其スウエネー子テートヲ全喪スルニ至ラサルコアリ、蓋シ其制馭ヲ受ル、未タ十分無限ニ至ラスシテ、獨立ノ權仍ホ存スル所アル者は、レナリ乃チ盟邦合邦等ノ如キ、相聯合セル國ニ於テハ、其各邦皆全國ニ從屬シテ、其制ヲ受ルト雖モ、必スウエネー子テートノ若干部分存スル有テ、尙ホ其邦内ニ行ハル、何者實ニ外面ノ權ヲ失フト雖モ、未タ決シテ内面ノ權ヲ失フニ至ラサレハナリ、○是故ニ瑞士國ニテハ、合邦ノ事務ヲ統掌スル全權ヲ稱シテ、ブンテス、スウエネー子テート〔按〕合邦ノスウエネー子テート〔按〕各邦ノスウエネー子テート〔按〕各邦ノ事務ヲ統掌スル權ヲ稱シテ、カントナール、スウエネー子テート〔按〕各邦ノスウエネー子テート〔按〕各邦ノ事務ヲ統掌スル權ヲ稱シテ、又北亞米利加合邦及ヒ獨乙盟邦ノ如キモ、其全國ノスウエネー子テート

トト、其各邦ノスウエネー子テートヲ分別スルコト、瑞士ニ異ナラス各邦ノ全國ニ於ケルヤ、僅ニ其一部分ナリト雖モ、然レモ其内部ニ於テハ、亦尙國家ノ制度序次アリテ、立法府、政府、其他諸部局等、都テ國家緊要ノ機關ヲ備ヘ、以テ自ラ其政務ヲ專行ス、是故ニ此ノ如キ各邦ト雖モ、仍ホスウエネー子テートノ若干部分ヲ有スト云フヘシ、去レモ各邦若シ實ニ全國ニ合併セラレ、其州縣トナルニ及テハ、既ニスウエネー子テートノ權ヲ全喪スト云フヘシ、但シ此ノ如キ邦、實ニ大國ノ一小屬國トナリテ、仍ホスウエネー子テートノ若干部分ヲ有スルト、唯其州縣トナリテ、全ク此權ヲ失フトノ分界ニ至リテハ、殆ト判然ナラサルコアリ、猶ホ千緒萬端ノ世事ニ於テ、區別分界ノ判然ナラサルコト多キカ如シ、方今外國ニ對シテハ、通常君主ナル者、國家ニ代リテスクーツ、スウエネー子テートノ權ヲ施行シ、立法府ハ、絶テ之ニ關係スルコトナシ、但シ此事決シテ理ノ當然ニ出ルニアラス、只事ノ便宜ニ由ルノミ、

(第三) 國內ニ於テスレモ、一トテ一トノ權ノ先ツ發動スル所ハ、國家自ラ其存在ヲ保テ得ル所ノ規律ヲ確定スルト、及ヒ已ムヲ得サルニ方リテハ、之ヲ變革スルトニ於テス、之ヲ稱シテ、ホルクノ國憲ヲ制立スル權ヲ云フ、<sup>○</sup>此權柄ハ決シテ制度序次ナキ、ホルク多數ノ手中ニ在ル可ラス、必制度序次ヲ備ヘタル、國家全體ノ手中ニ在ルヘキハ、固ヨリ當然ナリ、而メ國家タル者其統一合同、及ヒ制度序次ヲ保存セント欲セハ、必臣民ヲ服従セシメテ、其公權利ヲ制御セサル可ラス、故ニ各民決シテ國家ノ命令ヲ抗拒スルヲ許サス、縱令其公權利、國家ノ爲ニ枉害セラル、<sup>○</sup>フアリト雖モ、亦以テ然リトス、

<sup>○</sup>華盛頓、按、亞米利加合衆國第一世統領、一千七、  
 三十二年ニ生レ、九十九年ニ死ス、  
 基本ト云フヘキハ、ホルクノ國憲ヲ制立シ、且、修正スルノ權ヲ掌握スルニ在リ、故ニ公議ノ定斷ニ由テ、從前ノ國憲ヲ改革スルニ至ル迄ハ、凡ソ臣民タル者、必此法ヲ遵奉敬重シテ、決シテ之ニ違戾ス

ルヲ許サス、夫レ國憲ヲ制立スルノ權ハ、乃チ獨リホルクノ權利ト、及ヒ威力トニ在ルノ理ニ依テ推考スレハ、臣民タル者、必ス此國憲ニ服従セサル可ラサルヲ固ヨリ論テ俟ス、故ニホルクノ憲法ヲ施行スルニ方リテ、之ニ抗拒シ、或ハ他人ノ之ヲ遵奉スルヲ妨礙シ、又ハ政府ノ事務ヲ施行スルヲ妨礙スルカ如キ所業ハ、實ニ吾國法ノ大基本ニ背クト云フヘシト、

國法ヲ變革スルニ其方法ニアリ、一チ改正ト云ヒ、二チ顛覆ト云フ、而メ此二方法ノ旨タル理義上ニ於テ適カニ相異ナリ、凡ソ改革ナル者ハ、第一ニハ國憲ヲ制立變革スヘキ權利ヲ固有セル職官ノ掌ル所ナルヲ以テ、立憲國ニテハ、必全國家ニ代ハル所ノ立法院、當然ノ權利ヲ以テ之ヲ掌リ、第二ニハ、改革ヲ爲スニ就テハ、先ツ法ノ精神ニ著眼シテ、實ニ時勢ニ後レ、人情ニ適ヒサル法ハ、之ヲ廢シ、而メ實ニ時勢人情ニ協合スル所ノ新法ヲ制立シテ、之ニ代フ、故ニ廢立共ニ必已ムヲ得サルノ理ニ出ツ、是レ即改

六 革ナリ、

然ルニ國法ヲ變革スルニ方リテ、國憲職スル所ノ規律ニ背戾シ、或ハ全ク正理ヲ毀壞スルカ如キハ、決シテ改革ト云可ラス、實ニ顛覆ト云フヘキノミ、

國法ヲ改革スルノ權利ハ、方ニ國家活動力ノ發スル所ニシテ、眞ニ緊要ノ權利ナリ、故ニ之ヲ非トスル者ハ、ホルクノ開明進歩ヲ妨碍スル者ニシテ、却テ顛覆ヲ招クニ足ル、

但シテザカールレ、スダートツレールレ〔按〕現存ノ法ヲ根底ニリ傾倒シテ、國家當ノ譯字ヲ得サルヲ唱フル徒ハ、ホルクノ顛覆ヲ謀ルヲ以テ、當然ノ權利ト爲ス、去レテ、顛覆ナル者ハ、或ハ暴ニ國憲ヲ殘敗シ、或ハ暴ニ正理ヲ毀壞スル者ナルカ故ニ、決シテ法ニ合スル者ニアラス、縱令ヒ勢ノ趣ク處、民情徧ク之ヲ是トシ、暴ニ公權ヲ變革スル時ト雖ヒ、亦然リトス、民心久シク抑壓ヲ受ケシ所、一旦縛縛ヲ脱シ、大ニ強猛ノ威力ヲ得、勢ヒ噴火ノ暴

六ノ上三九

發スルカ如ク、以テ顛覆ヲ謀ルニ至ルハ、則國法ノ能力之レカ爲、ニ沮欄壓縮セラレ、決シテ發動ヲ生スルヲ能ハス、故ニ顛覆ヲ以テ國法ノ規律ニ合セント欲スルモ、決シテ能ハサル所ナリ、○顛覆起ルニ方リ、速ニ壓制ノ力ヲ盡シ、之ヲ變通シテ改革ト爲シ、以テ國家ノ制度序次ヲ全ウスルハ、實ニ國政ノ大業ナリ、國法ノ能力微弱ニシテ、顛覆ヲ沮遏スルニ足ラス、或ハ改革機ニ後レテ、顛覆ヲ制止スルニ及フ能ハサレハ、遂ニ此大業ヲ成就スル能ハサルヤ必セリ、

上ニ論スルカ如ク、顛覆ハ決シテ法ニ合スル者ニアラサレハ、時勢全ク改革ノ術ヲ用フルニ由ナク、顛覆ヲ施スノ外、國家ノ存在ヲ援ケ、其進歩ヲ導クノ方術盡ル時ニ至ラサレハ、決シテ顛覆ノ權利ヲ用フ可ラス、故ニ此權利ハ、眞ニホルクノ不得已ノ權利レフト、ト云フヘキノミ、○國憲ナル者ハ、唯ホルクノ外貌ノ規律ナルノミ、若シ國憲不是ノ爲、ニ國家將ニ危亂ニ趨ラントシ、ホルクノ生力將ニ痿痺セントシ、或ハ天下ノ公益公



六ノ上四〇

利將ニ亡滅セントスルニ至レハ、ホルシナル者強盛活潑ノ威力ヲ發シ、  
不得巳ノ權利ヲ施行シ、以テ切要ノ變革ヲ遂ケサルヲ得ス、所謂「不得止  
ノ事ハ、敢テ示令ヲ知ラス」〔按〕古語ニシテ實ニ已ムヲ得サルニ至レバ、  
トハ則チ是レノ謂ナリ。敢テ示令ヲ俟タスシテ、處置スヘシト云フ意

○スターツマン注前ニニール按、唯國人、一千七百七十六年、大ニ

保守テ、輕卒ニ之ヲ改革スルヲ好マサルヲ云、〔按〕舊法古制ヲ保守シ

佛國第五月ノ顛覆〔按〕一千八百三十年第五テ、聽テ、大ニ悲歎セシト云

フ、然ルニ顛覆ノ是非ニ就テ、左ノ論ヲ述ヘタリ、曰ク、「已ムヲ得サルノ

事ハ、敢テ示令ヲ知ラス」ト云ヘル古語ヲ非トスル論ハ、最モ厭惡スヘ

シ、希臘人嘗テ土耳其ノ制御ヲ受ケテ、其暴虐ニ困シ、婦女遂ニ其節

ヲ全ウスルヲ能ハサルニ至リシカ如ク、常ニ苛酷殘虐ノ政令ヲ受ケ

テ、恣ニ殺戮セラレ、百方スレテ遂ニ免カル、一能ハサルニ至レハ、是レ實

ニ已ムヲ得サルノ時ト云フヘシ、此時ニ至リテハ、斷然顛覆傾倒ヲ起

シテ、此災厄ヲ免レント謀ル、大ニ正理ニ合スト云フヘシ、若シ此ノ  
如キ時ニ及テモ、仍顛覆ヲ不義トスル者ハ、眞ニ惡人ト云フ可キノミ

〔第四〕其他緊要ナル憲法ヲ制定スルニ至リテモ、亦スターツ、スウエー

チテ、下ノ權ノ掌ル所ナリ、故ニ狹義ノ立法權柄ゲセツツデーベンデ、  
シ、シテ〔按〕通常立法權柄ト云ヘハ、國憲ヲ始メ、其他ノ諸憲法ヲ制定  
スル權柄ナレバ、狹義ノ立法權柄ト云フモ、國憲ヲ制定スル權柄ヲ除  
キ、其他諸憲法ヲ制定スル權柄ノミヲ云フ、モ、亦國憲ヲ制定スル權柄ノ  
ナリ、語義狹隘ナルヲ以テ斯ノ如ク云フ、其端正ナル規律ヲ以テ、發動ス  
如ク、スターツ、スウエーチテ、トモリ、ル者ナリ、

〔第五〕又其他ノ國憲モ、皆亦此スターツ、スウエーチテ、トノ權ニ淵源

六ノ上四一  
ス、故ニ國憲及其他ノ憲法ヲ以テ、諸國憲發動スル所ノ規律ヲ定メ、且、其  
方ヲ限制ス、但シスターツ、スウエーチテ、トノ權ハ、國憲及其他ノ憲法  
ヲ制定スル權柄トナリテ、其能力ヲ顯スト雖モ、其他ノ諸國權上ニハ、通

常其能力ヲ施サスシテ安息ス、殊ニ君主國ニ於テハ、國家日々變化スル所ノ要件ヲ處分スル事務ハ、皆之ヲ君主ノスウエレノテテートニ收攬ス、故ニ日常ノ事務ハ、國家自ラ之ヲ執ラスシテ安息シ、獨リ元首之ヲ執リテ勤行ス、但シ君主自ラ之ヲ執ル者アリ、或ハ其管下ノ職官〔按〕政府ヲシテ、之ヲ執ラシムル者アリ、

但シ此事務ヲ執ル者、〔按〕即君實ニ之ヲ執ル能ハサル事務ノ生スル歟、主ヲ云フ若シハ君位空虛トナリ、國憲ニ於テ未タ嗣君ノ定マラサル時ニ於テハ、國家ノスーエレノテテート茲ニ再ニ其能力ヲ發シテ、其愛害ヲ除キ、且ツ嗣君ヲ定ムルコトニ從事スルナリ、

〔第六〕不保任 ウソヘルアントチ 凡ソ人タル者其諸業ノ行止ニ於テ、天神ニ對シ之ヲ保任セスシテ可ナルノ理ハ、絶テアル可ラス、天神ハ、必人世諸業ノ曲直邪正ヲ鑑定シテ、死後ニ之ヲ審判スル者ナリ、故ニホルクナル者ハ敢テ天神ニ對シ、其所爲ヲ保任セサル能ハス、○又此世界ニ於

テモ、ホルク爲ス所ノ善惡正邪ニ由テ、直ニ禍福利害ノ應報アルハ、即其所爲ノ審判ヲ受クル者ナレハ、是亦保任ヲ免ル、コト能ハサルノ理ナリ、○去レテ國家内ニ於テ、國家全體ノ曲直邪正、若シハホルクニ代リテ、最上ノ國權ヲ掌握スル者ノ、曲直邪正ヲ審判スヘキ法官ヲ設置スルコトハ、決シテ能ハサルコトナリ、然ルチ若シ強テ之ヲ設置セント欲スルキハ、國家ヲシテ全ク此法官ノ部下ニ屬セシムルノ理ニシテ、譬ヘハ四肢ヲシテ體軀ノ上ニ在ラシメ、局部ヲシテ全體ノ上ニ位セシムルカ如シ、

○ 〔按〕佛人、一千七百五十八年ニ生レ、一千七百九十三年、寛政、ヤコビチル 〔按〕本卷第一款ニ出ツ、ロベス 〔按〕ニ反セル論ヲ述ヘタリ、其論ニ云フ、「余災厄ヲ受ケシ時ニ於テ、敢テ他人ノ應護ヲ要セス、自若トシテ、ホルクハ決シテ、不正ノ事業ヲ爲サズル旨ヲ主張シタリ、余ハ斯ノ如ク世人ノ未ダ此理ヲ知ラサリシ時ニ於テ、普ク此理ヲ悟ラシメント欲シ、大ニ刻苦セシカ、遂ニ顛覆起ルニ至

リテ世人皆能ク此理ヲ悟リタリト、○但シ佛國人此ノ如キ論ニ迷フ  
 テ、大ニ之ヲ信シ、以テ實際ニ施シケレハ、遂ニ大災厄ノ刑ヲ蒙ルコト  
 ハナリケリ、〔按〕此註本文ノ意ト合ヒサルニ似タリ、恐ラシクハ其  
 下段、此世界ニ於テ云々ノ註ナラン歟、猶再考ス可シ、  
 國家自己ノスウエレノテ、テートノ權ヲ施行スルニ方リ、若シ外國ニ對  
 シテ、之ヲ保任スルヲ要スルトキハ、則其スウエレノテ、テートノ權ハ、外  
 國ノ爲ニ大ニ限制セラレ、遂ニ其部下ニ屬スルニ至ル可シ、  
 後世列國法〔按〕一ニ萬國公法ト譯ス、大ニ進歩シ、全世界各國殆ント相合シ  
 テ、一大國家トナリ、而シテ之ヲ統括スル所ノ大政府起ルニ至ラハ、各國皆  
 將サニ此大國家ノ命令ヲ遵奉スルニ至ルヘシ、故ニ此時ニ於テハ、各國  
 自己ノ權ヲ施行スルニ就テ、之ヲ保任スルノ制度始テ起立スヘシ、去レテ  
 此事今日ニ在リテハ、徒ニ紙上ノ空談ナルノミ、恐ラクハ後世遂ニ實事  
 トナルノ日アラム、

〔附論〕最近立憲ニシ所ノコンスタントインデ、ナチオナール、ヘルサムル

ンク〔按〕全國國家ニ代ハリテ、國ノ如キハ、通常一千七百八十九年〔寛政佛  
 元〕憲ヲ制定スル議會ノ議、〔按〕前款ノ論ニ倣フ者多シ、故ニス  
 國ノナチオナール、ヘルサムルンクニ出ツ、  
 ターツ、スウエレノテ、テートノ理ヲ以テ、政令施行ノ基本ト爲サス、却  
 テルウツウヲ信シテ、ホルクス、スウエレノテ、テートノ理ヲ取レリ、○  
 但シルウツウノ論ハ、更ニ甚シキ者ニシテ、決シテ代國議會ニスウエレ  
 一チテ、テートノ權ヲ委スルコトナシ、必彼、原素ノ如ク、制度序次ナク、渙散  
 ヒル數千萬ノ民人ヲ以テ、此權ヲ固有スル者トナシ、而シテ此民人其共  
 ニ欲スル所ニ從ヒ、之ヲ恣行スルヲ以テ、當理ト爲ス、○ナチオナール、  
 ヘルサムルンクノ論ウツウノ論ヲ採リテ、之ヲ實際ニ施セシハ、譬ヘハ  
 猶彗星ノ赤尾ノ現、レシカ如シ、實ニ此議會ルウツウノ論ヲ假テ、民心  
 ナ煽動シ、以テ一旦其志ヲ得シト雖、遂ニ又此論ノ爲ニ倒サル、ニ  
 至レリ、〔按〕古時彗星出レハ、必凶事アルノ兆トセリ、蓋シヘルサムルン  
 グルウツウノ論ヲ用テ、一旦其志ヲ得シハ、遂ニ又此論ノ爲ニ  
 倒サル、前兆トナ  
 リシナル、

第四款

第二

ヒュルステン、スウエレーチテート〔按〕本卷第二款  
第二類ノスウエレーチテート〔按〕レゲンテン、スウエレーチテート、ハ即チ

獨リ國家元首ノ手中ニ在ル者ニシテ、方今ノ國法ニテハ、唯君主國ニ於テ  
ノミ、獨リ此權ヲ認許セリ、故ニ君主ヲ以テ、スウエレーン〔按〕スウエレー  
者ノ義、トシテ、尊崇セラル、ノ權利ヲ有スル者トス、亦民主國ノ統領  
シテ、モ實ニ此權ヲ施行スト雖モ、絶テスウエレーントシテ、尊崇セラル  
、コナシ、

羅馬民主政體ノ國法ニ於テ定メシ所ハ、立制ノ意今時ノ民主國ヨリハ、  
猶廣博ナリキ、故ニ嘗テ王國タリシ時ニ於テ、君主掌握セシ所ノ權ヲ分  
掌スルコンスル二員ニ、マエステートノ權利〔按〕實ニ國家ノ元首タルニ  
ナリ、詳チ委チ、又其後ニ及テセナートニモ亦之ヲ委チタリキ、然ルニ近

今ノ民主國ニ於テハ、專ラホルクノ特權ヲ貴フ盛ナルヲ以テ、政府ノ  
主長ナル者ハ、唯ホルクノ指揮ニ由テ姑ク其委任ヲ受ケシ者ト視做セ  
リ、是ヲ以テ主長ナル者、スウエレーチテートノ權ヲ以テ、其自己ノ權利  
ト爲ス可能ハス、○

○ルウソウガレゲンテン、スウエレーチテート〔按〕ヒュルステン、スウエ  
チ駁スル論ニ云、「一般ノ意思ト云フハ、ホルク全體ノ意思チ云フナリ、  
故ニ其一部分ノ意思ハ、唯其一部分ノ意思ナルノミ、一般ノ意思ハ、能  
ク憲法ヲ布示スヘシ、一部分ノ意思ハ、僅ニデクレーン〔按〕政府布告ス  
ル所ノ命令ノ類、  
チ布示スヘシト、去レモ、最上ノ國權ヲ以テ、唯憲法ノミヲ制立スルノ  
權トシテ、兼テ政令ヲ施行スル所ノ權タルヲ知ラサルハ、甚ダシキ謬見  
ト云フヘシ、

又ヒュルステン、スウエレーチテートヲ以テ、獨リ世襲ノ君主國ノミニ之  
レ有リテ、選立ノ君主國ニハ、此權決シテ有ラストスルノ論アリ、去レモ、此

論ハ君主其位ヲ得ルノ體裁ニ由テ、其權ニ輕重ノ別アリトスル者ニシテ、甚ダ誤ルト云フヘシ、縱令ニ選立君主ト雖モ、最上ノ國權ヲ以テ、自己ノ權ト爲スニ於テハ、決シテ世襲君主ト異ナルヲナシ、○舊羅馬帝〔按〕羅馬帝國ニ新舊ノ別アリ、紀元前三十年ニ奧古士都帝ノ創業セシ者ヲ舊帝國ト云ヒ、又紀元八百年ニ於テカル、デルゴローセ、教皇ヨリ羅馬帝ノ位ヲ受ケテ、羅馬帝國ヲ恢復セリ、及ヒ中古ノ獨乙帝ノ如キハ、皆選立君主ナリ、然リト雖モ、眞ノスウエネーントナリテ、自己ノ權ヲ有セシフ、決シテ疑フヘキニアラス、又英國王維廉、ホン、オラニーン〔按〕維廉第三ト云、一千六百五十年ニ生レ、七百零二年ニ歿ス、ハ始テ王位ニ登リ、オラニーン朝ヲ開キシカニ、其スウエネー子テートトノ權ニ至リテハ、其嗣君ノ生レナガラニシテ、繼位ノ權利ヲ有セシ者ト、決シテ異ナルヲナカリキ、

但シ國法學ニ於テハ、ヒュルステン、スウエネー子テートトヲ區分シテ、固有ノルスアリ、ユングリヘ、又、アブゲライテート、又、ノ二類ト爲ス、固有ノオリギ子トレト云フ、ト受有デリハナヘ、ト云フ、又、ノ二類ト爲ス、固有ノヒュルステン、スウエネー子テートトハ、君主其家ニ生レ、當然ノ權利ヲ以テ得タル者、若シハ君主自己ノ力ヲ以テ、得タル者ヲ云フ、即世襲君主ノスウエネー子テート、及ヒ攻奪ヲ以テ國ヲ得シ君主ノスウエネー子テート、

并ニカル、デル、ゴローセ、〔按〕初フランケン王タリ、後ニ羅馬國ヲ恢復シ、百十四年、或ハ非的利維廉第一世〔按〕普魯士王、一千六百八十八年ニ生レ、八年ニ歿ス、親ヲ冠冕ヲ戴キシ君主〔按〕親ヲ登祚ノスウエネー子テート即是ナリ、○其他獨乙諸選立帝ワールカイセル、〔按〕選立ノ中ニ於テ、スウエネー子テートノ權ヲ、クールヒュルスト〔按〕獨乙帝ヲ選立ス、ヨリ受ケスシテ、天神ヨリ受ケシ者ハ、是亦固有ノスウエネー子テートヲ握リシ者ト云フヘシ、〔按〕實ニ天神ヨリ受ケシニアラズ、唯此ノ如ク託言スルノミ、受有ノスウエネー子テートトハ、ホルク若クハ選擇者ヨリ授托セラレタル者ヲ云フ、既ニ羅馬ノ國法ニ於テハ、帝ノ權柄ハ、即羅馬ホルクヨリ授托セラレタル者トセリ、卷之四第十七款、且、其後ノ選立君主國ノ制度ニ至テモ、亦通常此ノ如シ、○但シスターツ、スウエネー子テートニ至リテ

六ハ、決シテ此ノ如キ差別ナク、皆固有ノ者ノミナリ、  
 下ノ諸款〔按〕第十二、十三、ニ於テ、國家元首ノ權利ヲ論スルニ方リテ、ヒュ  
 ○五上ノルステン、スウエーデン、チチートノ權ヲ更ニ精論スヘシ、

譯者曰、第一款ヨリ本款ニ至ル、論說甚ク深奥ニシテ、解シ易カラサ  
 ル者居多ナリ、讀者宜シク細玩スヘシ、但シ又誤譯ノ多カラシテ恐ル、  
 若シ疑フヘキ者アラハ、幸ニ忠告セヨ、猶再思ヲ加フヘシ、

大井潤一校

國法汎論卷之六 上終

画ク處ハ、本書論說中引證スル有名ナル人物ノ續像ナリ 川上寛模畫





フリードリヒ・ゲオルク

リカルド三世



エッヘルソン

ベルナドツテ

ナポレオン三世

ヤーコップ二世

國法汎論卷之六 中 目錄

六ノ中目錄

- 第五款 國家ノ元首
  - 第一 君主國ニテ其得位ノ體裁
- 第六款
- 第二 世襲法
- 第七款 繼位ニ就テ人體ノ應否
- 第八款
- 第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁
- 第九款 先君ノ義務嗣君ニ遞傳スルノ法
- 第十款
- 第四 攝政職ノ設置
- 第十一款 政柄ノ失去



イ、カ、ブルンナユリ 著

加 藤 弘 之 譯

第五款 國家ノ元首、スタイツ、オーベルハウフト〔按〕君主國ニテハ、君主ヲ元首ト云ヒ、民主國ニテハ、統領ノ類

ヲ元首ト云フ、

第一 君主國ニテ其得位ノ體裁、エントステイラフングスホルメ

君主其位ヲ得ルノ體裁、古今數種アリ、

〔第一〕選立、太古羅馬ノ國法ニテハ、君主ヲ選立スル法ナリキ、又中古ニ

及ヒ、スラ皆選立ナリキ、其他ウシガレン匈牙利、ギンヘテヂク波蘭、ウシガレン非尼西亚ノ君主、及ヒ獨乙帝國等

ノ君主モ亦、皆選立ニ因テ、其位ヲ得タリ、而シテ非尼西亚國ノ君主ハ、イ

イト稱シテ、終身其位ニ在ルノ制度ナリキ、

一 中ノ六

〔第二〕世襲、此體裁中古ニ於テハ、之ヲ用ルノ國屢々タリシカ、其後ニ至

六ノ中二

リ、漸ク歐洲各國ニ行ハレテ、今時ハ遂ニ一般ノ通法トナレリ、

〔第三〕世襲選立ノ合制、〔按〕元ト世襲ノ法ナレトモ、時アリ賢愚等ニ因テ、取捨選立スル制、加爾達額古時〔按〕

亞弗利加及ヒ古時日耳曼各國ノ制度ハ、世襲選立ノ二制ヲ合用セリ、カールマキス古時

四第十五款ヲ

參照スヘシ、

〔第四〕養嗣禪位ノ制、羅馬ニテ君主自ラ國法ニ因テ、其繼嗣ニ耐ル者ヲ

選舉シ、之ヲ子養シ、以テ其位ヲ禪リシコアリ、峨羅斯彼得大帝モ、一時此

ノ制度ヲ立テシコアリ、

〔第五〕屬國君主ノ選任、大國ノ君主其屬國ノ君主ヲ選任スルコアリ、中

古ノカロリソングル氏中古佛郎哥國ノ王ニシテ、後ニ羅馬帝ニ登リシ氏族、及ヒ獨乙建國ノ初メ其

小邦ノ君主ヲ選フニ、此制ヲ用ヒ、近今ニ至リテモ、那破倫之ヲ用ヒ、土耳

古國亦之ヲ用フ、

〔第六〕新建國君主ノ選立、新國ヲ建立スルニ方リテ他各國之ヲ認許ス

ルキハ、互ニ條約ヲ定メテ、其君主ヲ選立スルコアリ、

〔第七〕君主ノ自立、國家戰亂顛覆ノ際、其他危急存亡ノ秋ニ方リテ、一衆

傑衆ニ擢テ、國家ノ大權ヲ掌握シ、以テ自ラ君主トナルコアリ、本卷第十

照ス、去レトモ此ノ如キ大事業、若シ公理ニ戻リ、正義ニ背クキハ、則徒ラニ

覆法ノ叛民タルノミ

○比的利デル、ゴローセ 〔按〕普魯士國王、一千七百十二年ニ生レ、曰

「臣民正義ヲ以テ君主トナルハ、唯選立制度ノ國ニ生レテ、其選立ニ膺

ル時、若クハ國家將ニ亡ヒントスルニ方リテ、忠憤愛國ノ心ヲ以テ、再ヒ

國家ノ不羈獨立ヲ復スル時ニ在ルノミ、」ト

〔第八〕強大ナル外國ノ威力ヲ以テ、君主ヲ立置スルコアリ、

以上諸體裁中、世襲選立ノ二法ニ就テハ、殊ニ其得失利害如何ニ於テ、諸

大家ノ所見、及ヒ各國ノ公論紛然一定セサリキ、○選立ヲ以テ是トスル

徒ハ、國家終始賢明ノ君ヲ得ント欲セハ、唯選立ノ法ヲ用フルニ如カス

ト云フ、元來選立法ヲ用フルノ本旨ハ、終始賢君英主ヲ要スルニ在リ、若

六ノ中三

六ノ中四

シ世襲ノ法ヲ用フルハ、賢明ノ君ヲ必得スル能ハサル、固ヨリ論ヲ須  
タス、加之選立ノ法ヲ用フル國ニ於テハ、其臣民タル者、司選侯、ワールフェ  
ルスト〔按〕  
昔時獨乙國ニテ、國帝ヲ選擇ノ國帝ヲ選擇スルニ方リテ、之ニ左祖スル  
ト否トハ、自己ノ意ニ隨ヒ、其可トスル者ハ、之ニ左祖シ、否ラサル者ハ、之  
ニ左祖セサルヲ得ルナリ、○此等ノ利アルヲ以テ、古昔ハ選立ノ法ヲ是  
トスル論、殊ニ居多ナリキ、

然ルニ近今ニ至ルニ及ヒ、選立ノ法ヲ非トシ、却テ世襲ノ制ヲ是トス、其  
勢奮ニ學者ノ議論上ノミナラス、世間ノ輿論亦普ク此制ヲ是トスルニ  
至レリ、近今ノ學者中、獨シスモンゼノミ、〔按〕瑞士人、一千七百七十三年  
ニ生レ、八百四十二年ニ死ス、選立制度ノ是ナル所以ヲ主張シタリ、  
○今下章ニ於テ將ニ選立制度ノ不可ナル所以ヲ論セントス、

〔第一〕眞ノ賢者ヲ選擇スル、甚タ易事ナラス、然ル所以ニ二理アリ、選者ノ  
識鑒其當ヲ失シ、或ハ誤リテ疑德ノ小人ヲ選立ス、是レ一患ナリ、去レモ此  
選擇ノ一事ニ止ラス、人世萬事、十全ヲ求ムルハ、惑ヘルノ甚キ者ナレハ、

此一失ヲ以テ、強テ選立ヲ不可ト爲ルニハ、アラス、尙一理ノ斷然不可ト爲  
サ、ル可ラサル者アリ、凡ソ選立國ニテハ、才德衆ニ超ル者ハ、遂ニ君位  
ヲ得可キノ制度ナルカ故ニ、其選立ノ時ニ方リテ、權力熾ナル者ハ、獨リ  
其威ヲ逞ウシ、其他比朋ノ黨與起リ、公平ノ心ヲ以テ、國家ノ爲メニ、謀ル  
コトヲ遺レ、多クハ各私心ヲ抱キ、私利ヲ營ムカ爲メニ、遂ニ自餘司選者ノ  
權利ヲ屈撓シテ、自由ノ道ヲ塞キ、以テ選擇公正ヲ盡スコト能ハサラシム、  
是レ二患ナリ、是ニ於テ選立ノ制ハ、遂ニ虛器トナリテ、其實ハ獨リ威力熾  
ナル徒ノ恣ニ其私ヲ營ム具タルニ過キス、羅馬ノ帝爵國タリシ時ニ於  
テ、此ノ如キ弊害多カリキ、

六ノ中五

〔第二〕動ニスレハ司選者中其好ム處ニ僻シテ、之ヲ選舉セント欲シ、執拗  
ノ勢、各黨相軋シ、毀隙猜忌ノ餘、遂ニ戰ヲ用ルニ至リ、國家ノ安寧ヲ害ス  
ル憂ヒト爲ル、昔時獨乙國ニ於テ、屢此ノ如キ弊ヨリ、國亂ヲ生セシコアリ、  
但シ選立ノ制度ヲ改革シ、其宜シキヲ得ルハ、此憂ヒヲ除クコト、寧シ難キニ

六中ノ六

アラス、是亦獨乙史上ニ歴然タリ、シスモンシノ説ニ、選立ノ國ニ於テハ、  
踐祚ノ争ニリ國亂ヲ生スルコト多シ、去レテ其勢ヒ甚ク頑韌ナラスシテ、  
國家ノ治安ヲ害スルモ亦淺ク、且ツ鎮制ニ就クモ速ナリ、然ルニ世襲ノ  
國ニ至リテハ、之ニ由リテ國亂ノ生スルコト甚ク希レナリト雖モ、若シ一  
旦騷擾ノ起ルコトアルトハ、其勢甚ク頑韌ニシテ、國家ノ治安ヲ傷ルコト少  
カラス、且ツ之ヲ撲滅スルモ亦甚ク易事ニアラスト謂ヒシハ、理ナシト  
云フ可ラス、

(第三)選立數次ナルニ隨テ、曾テ王位ヲ得シ諸家國ニ充滿シテ、互ヒニ  
相猜忌シ、各其志ヲ逞ウセント欲シテ、相争奪スルノ憂ヒアリ、○此憂ヒ  
ハ既ニ隆盛ナル國及ヒ將ニ衰運ニ傾ントスル國等ニテハ、最モ恐ルヘ  
クシテ、國家ノ安寧ヲ害スルコト最モ劇シ、舊羅馬ノ帝國國タリシ時ニ於  
テ、此禍害多カリキ、○但シ將サニ隆盛ニ至ラントスル國ニ於テハ、此ノ  
如キ禍難ニ因テ、却テ國家ノ榮利安康ヲ増進スルコトアリ、其例ハ舊羅馬

ノ王爵國タリシ、時及ヒ民主國トナリシ頃ノ事迹ニ於テ明瞭ナリ、

(第四)先君既ニ没シテ、未ダ嗣君ヲ選立セサル間ハ、一時虚位ノ國ツツセ

レイフ、

トナルヲ以テ、是レニ因リテ生スル所ノ禍害亦甚カラス、○加カドレ特レ力キ教派ニ接ニ

天主教ニテ、其教皇ノ没シタル時、速ニ嗣位ノ教皇ヲ選立スルノ規律

ニ倣テ、先君ノ没後、速ニ嗣君ヲ選立スルノ規律ヲ設ル歟、若クハ先君主

ノ未ダ没セサル時ニ於テ、預メ嗣君ヲ選擇スルノ制度ヲ設ルトハ、一時

虚位ノ國トナルカ爲メニ生スル所ノ憂患、或ハ少ク減スヘキカ如シ

ト雖モ、未ダ全ク此憂患ヲ根去スト爲ス可ラス、○世襲ヲ非視スル徒ノ

論說ニ、世襲ノ國ニ於テ、先君既ニ没シ、嗣君尙幼冲ナルトハ、攝政之ニ代

リテ、權ニ萬機ヲ掌ルト雖モ、必シモ嗣君ノ爲メニ謀ラス動モスレハ竊

カニ其私ヲ營ム者ニシテ、是レニ因テ生スル所ノ禍難亦甚カラス、加之此

禍難ノ時間ハ、選立國ニテ一時虚位國トナルカ爲メニ、生スル禍難ノ時

間ニリ、モ、大イナリト云フ、佛國ニ此ノ如キ禍難ノ

起リシコト多次之アリ、

七中ノ六

六中ノ八

〔第五〕司選侯動モスレバ其戚族ヲ選立シテ世々君主トナサンヲ謀ルノ  
恐レ少カラズ且ツ又選立國ニテハ動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ憂  
ヒアリ、○司選侯ノ權力愈々強大ニシテ能シ大權ヲ其掌中ニ握ルニ堪ユル  
キハ是等ノ害亦隨テ愈々大ナリ、

世襲法ノ選立ニ勝ル所以ハ下文ノ數條ニ於ルカ如シ、

〔第一〕王室ト臣民ト相親附スルヲ譬ヘハ猶頭首ト體軀ト相連絡スルカ  
コトク且ツ其相維持スルヤ膏ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス世々繼  
續シテ斷絶スルヲナシ是故ニ國家ノ元氣終古衰頽セス民心ノ和同永  
ク保存スヘシ蓋シ世襲君主ハ實ニ國家ノ全力ヲ會メテ之ヲ一身ニ寄  
ル者ナリ、

〔第二〕是故ニ世襲君主ハ實ニ國家ノ全力ヲ一身ニ會ムル者ニシテ億兆  
ト世々其存亡ヲ共ニス故ニ其憂樂利害亦全ク相異ナラス王室ノ利樂  
ハ獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス即チ共ニ臣民ノ利樂ナリ臣民ノ憂

六中ノ九

害ハ獨リ臣民ノ憂害ナルノミナラス即共ニ王室ノ憂害ト云フ可ク盛  
衰興亡都テ相共ニシテ決シテ相離レサルナリ、○世襲君主ニアリテハ  
實ニ無道ヲ極メテ子孫ノ存亡ヲモ顧ミサル暴君ニアラサレハ彼ノ余  
カ没後大洪水アルヘシ〔按〕佛國王路易第十五世ノ暴言ニシテ己レ終  
身暴逆無道ヲ極メテ一身ノ欲ヲ充レハ足レリ  
子孫ノ存亡與取ニ至テハ天命ニ任  
セテ敢テ顧ミスト云フノ意ナリト云フカ如キ暴言ヲ發スルヲハ決  
シテ有ラサルヘシ然ルニ選立君主ノ如キハ縱令英明ノ人ト雖ヒ一旦  
私欲ノ念發スルニ至リテハ動モスレハ國家億兆ヲモ顧ミス恣意無道  
ヲ極メテ以テ國家ノ敗亡ヲ招クコトアリ、

〔第三〕王室ト臣民ノ憂樂利害全ク相異ナラス且ツ奕世君トナリ臣トナ  
リテ相離レサル猶頭首ト體軀ノ相連絡スルカ如シナルカ故ニ君臣相  
愛スルノ情甚々深ク億兆ハ一君主ヲ親戴シ其尊榮ヲ畏敬シ以テ一君  
ノ身ハ即チ是レ國家全力ノ相會マル所ナリト爲ス是ニ於テ臣民ノ王  
室ヲ尊崇シ王事ニ勤勞スルノ赤心益々深ク隨テ國民ノ性情頗ル寛厚ト

六ノ中八

〔第五〕司選侯動モスレハ其戚族ヲ選立シテ、世々君主トナサンヲ謀ルノ  
恐レ少カラス、且ツ又選立國ニテハ、動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ憂  
ヒアリ、○司選侯ノ權力愈々強大ニシテ、能ク大權ヲ其掌中ニ握ルコト堪ル  
キハ、是等ノ害亦隨テ愈々大ナリ、

世襲法ノ選立ニ勝ル所以ハ、下文ノ數條ニ於ルカ如シ、  
〔第一〕王室ト臣民ト相親附スルコト、譬ヘハ猶頭首ト體軀ト相連絡スルカ  
コトク、且ツ其相維持スルヤ、皆ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス、世々繼  
續シテ、斷絶スルコトナシ、是故ニ國家ノ元氣終古衰頽セス、民心ノ和同永  
ク保存スヘシ、蓋シ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全力ヲ會メテ、之ヲ一身ニ寄  
ル者ナリ、

〔第二〕是故ニ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全力ヲ一身ニ會ムル者ニシテ、億兆  
ト世々其存亡ヲ共ニス、故ニ其憂樂利害亦全ク相異ナラス、王室ノ利樂  
ハ、獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス、即チ共ニ臣民ノ利樂ナリ、臣民ノ憂

六ノ中九

害ハ、獨リ臣民ノ憂害ナルノミナラス、即チ共ニ王室ノ憂害ト云フ可ク、盛  
衰興亡都テ相共ニシテ、決シテ相離レサルナリ、○世襲君主ニアリテハ、  
實ニ無道ヲ極メテ、子孫ノ存亡ヲモ顧ミサル暴君ニアラサレハ、彼ノ「余  
カ没後大洪水アルヘシ」〔按〕佛國王路易第十五世ノ暴言ニシテ、己ノ終  
子孫ノ存亡與取ニ至テハ、天命ニ任セテ敢テ顧ミスト云フノ意ナリ、ト云フカ如キ暴言ヲ發スルコトハ、決  
シテ有ラサルヘシ、然ルニ選立君主ノ如キハ、縱令英明ノ人ト雖モ、一旦  
私欲ノ念發スルニ至リテハ、動モスレハ國家億兆ヲモ顧ミス、恣意無道  
ヲ極メテ、以テ國家ノ敗亡ヲ招クコトアリ、

〔第三〕王室ト臣民ノ憂樂利害全ク相異ナラス、且ツ奕世君トナリ臣トナ  
リテ相離レサル、猶頭首ト體軀ノ相連絡スルカ如クナルカ故ニ、君臣相  
愛スルノ情甚ク深ク、億兆ハ一君主ヲ親戴シ、其尊榮ヲ畏敬シ、以テ一君  
ノ身ハ即チ是レ國家全力ノ相會マル所ナリト爲ス、是ニ於テ臣民ノ王  
室ヲ尊崇シ、王事ニ勤勞スルノ赤心益々深ク、隨テ國民ノ性情頗ル寛厚ト

六ナリ、其志操モ亦大ニ増進スルヲ得ヘシ、

○一〔第四〕世襲君主ハ、一身ノ嗜欲及ヒ國家ノ經濟ニ於テ、能ク節度ヲ守ル者多シ蓋シ今日ノ需用ニ於テ足ルヲ知テ、唯失ハンコヲ恐ル、カ故ナリ、是故ニ嗜好ノ慾ヲ恣ニスル、自ラ少ク常ニ能ク容忍スルモノニシテ、隨テ國家モ亦自ラ豊富ヲ得ルノ理ナリ、

〔第五〕世襲制度ノ國ニテハ、臣民寶祚ヲ覬覦スルノ意ヲ生スルコト少シ、縱令ヒ臣民中ニ威望勳勞衆ニ踰ル英傑アルモ、敢テ王位ニ昇ル能ハス、若シ又國家ニ朋黨起リ互ニ相猜爭シテ、其首魁タル者大ニ威力ヲ逞ウシ、國權ヲ操ント欲スルモ、遂ニ君威ニ防遮セラレテ、其志ヲ遂ルコト能ハス、世襲選立ノ利害得失ハ、以上ノ數件ニ論スルカ如シ、去レテ古來預メ斯利害得失ヲ論究シテ、然後ニ此二制ノ可否ヲ參決シ、以テ其國制ヲ立テシモノハ殆ト希レニシテ、多クハ唯古今ノ事迹現在ノ形勢ニ由テ、之ヲ定ム、畢竟從來因襲ノ制度ニ從フコト、最モ緊要ナリ、サルニ出テスシテ、從來ノ制

度ヲ改革スルハ、實ニ恐ルヘキ禍害ヲ招クコト必然ナリト云ヘリ、

古今沿革ノ蹟ヲ歴看スルニ、世襲國ノ一變シテ、永ク選立國トナリシハ、殆ト罕レナリ、但シ一旦舊王室倒レテ、一時選立國トナリシコト無キニシモアラサレトモ、又直ニ再變シテ、選立君主遂ニ新王室ヲ開キ、以テ其位ヲ子孫ニ傳フルヲ得シコト多シ、○古來選立世襲二制共ニ或ハ幸ニシテ數世ノ久シキニ延ル者アリ、或ハ不幸ニシテ速ニ斷滅セシ者アリ、○或ハ專ラ賢明ヲ貴フ國アリ、或ハ專ラ門閥ヲ貴フ國アリテ、其意趣各相同シカラス、其利害亦時ニ隨テ各殊ナリ、○民風衰敗セシ國ニテハ不徳ノ小人ヲ選立シテ、其非ヲ悟ラス、羅馬帝國ノ事蹟ヲ以テ鑑戒トナスヘシ、○王室盛衰存亡スル所以ノ理、宛カモ活物盛衰死生スル所以ノ理ニ異ナラス、王室既ニ數世ノ久シキヲ經テ、其元氣漸ク衰弊スルコト、例ヘハ佛朗哥國〔按〕歐洲ノメロキンゲル朝〔按〕佛郎哥國ニ於ケルカ如シ、又君民ノ間相和セスシテ、互ニ仇視スルコト、例ヘハ英國ノ斯丟亞爾的朝〔按〕英國ト其

六ノ中一

臣民トニ於ケルカ如ク、又君民ノ心情全ク相離隔スルヲ例ヘハ佛國ノ  
ボウルボン朝〔按〕佛國ト其臣民トニ於ケルカ如ク、或ハ國國列邦ノ民心  
先朝  
全ク和同セント欲スト雖モ、其君主ハ之ヲ喜ハスシテ、却テ外國政府ニ  
依頼シテ、其擁護ヲ仰クヲ、例ヘハ以太利列邦ニ於ケルカ如クナルキハ、  
臣民遂ニ尊王ノ心ヲ遺レ暴力ヲ以テ之ヲ倒シ遂ニ新王室ヲ戴テ、國家  
億兆ノ一和力ヲ復スルハ、必然ノ勢ナリ、

○國民門閥ヲ重シテ、系統尊キ王室ヲ喜フノ情アルハ、即世襲制度  
ノ堅固ニシテ壞レ難キ所以ナリ、佛國スラ尙ホ未ダ此情ヲ脱セサル  
ハ、嘗テ路易那破倫〔按〕那破倫第ニテ選擇セシニテ明瞭ナリ、但佛國ノ如  
ク古來數次ノ革命アリテ、數王家ノ子孫今尙存スル國ニ於テ、君主政  
體ヲ存セント欲セハ、選立制度却テ利アヘシ、

第六款

第二 世襲法 ダス、エル  
ブレフト、

近世文明開化ノ世トナリシ以來ハ、都テ公私ヲ混淆スルヲナキカ故ニ、  
世襲繼位ノ事ニ就テモ必茲ニ着意シテ、繼位ト繼統ノ別ヲ明カニシ、繼  
位ヲ以テ國家ノ公事トナシ、繼統ヲ以テ王室ノ私事トナス、○去レモ繼  
位法ハ、索ト世襲ニシテ、子孫繼續スルヲ主ト爲スカ故ニ、全ク繼統法ト  
相離ル、者ニアラス、必此法ニ因テ、繼位法ヲ定ムル者ナリ、

〔第一〕世襲法ハ、國法上ニ於テ、必預定スルヲ緊要ナリ、然ル所以ハ、此事殊  
ニ、國家ノ安危ニ關スル甚大ナレハナリ、中古ハ國法上ニ於テ、預メ世襲  
ニ、王族等動モスレハ、此  
事ヨリ爭論ヲ開キタリ、○是故ニ世襲法ハ、必憲法ヲ以テ確定スヘシ、決  
シテ君主ノ意ヲ以テ之ヲ變改セシム可ラス、是レ即通則ナリ、古時羅馬ニ  
テハ、此ノ如キ制度アラサリシカモ、獨乙ノ私法ニ於テハ、此規律既ニ備  
ハレリ、○抑嗣君王位ヲ繼クノ權利タルヤ、直ニ之ヲ先君ニ受ルニアラ  
ス、又先君ノ私身ニ代リテ之ヲ得ルニアラス、嗣君ノ之ヲ得ルハ、自カラ

六ノ中一



六ノ中一四

當然ノ法アリテ、之ヲ得ル者ニシテ、此事獨乙ノ家産相續法スタムグツ、スツツキ  
シ、其理ヲ同ウス、○王室一系譬へハ一體ノ如ク、歷世子々孫々相續イテ  
暫クモ繼絶セス、先君没スレハ、嗣君當然ノ權利ヲ以テ、直ニ其位ヲ繼ク  
者ニシテ、寶祚須臾モ空虛ナラサレハ、恰カニ一王ノ永ク死セサルカ如シ、  
〔第二〕是故ニ嗣君位ヲ繼クノ權利ハ、先君没シテ然後ニ始メテ得ル者ニ  
アラズ、必、預メ確定スル所ノ者ニシテ、實ニ至重ノ權利ナルカ故ニ、嚴ニ  
國法ヲ以テ保護スヘシ、君主ノ權ト雖モ、決シテ與奪テ恣ニスル能ハサ  
ルナリ、

歐洲ニテハ、諸土ノ制、スルヘンヌステム〔按〕稍封建ニ類、大イニ此繼位  
法ノ起立ニ裨益ヲ爲シタレトモ、此法タル決シテ其裨益ノミニ因テ起立  
セシニハ、アラズ、繼位ノ事亦實ニ最大公事ナルヲ以テ、自カラ起立セシ  
者ニシテ、之ヲ要スルニ此事誠ニ國家ノ大事ナレハナリ、故ニ輒近ニ至  
リ、諸土ノ制ハ全ク壞レタレトモ、繼位法ハ共ニ壞ル、コナク、今仍依然マ

ルハ、蓋シ此理アルニ因テナリ

〔第三〕繼位法ハ方今必ス國憲スタターツハ、ニ載セテ確定スル所ニシテ、國

憲諸條中ニ於テ、重大ナル者ノ一ナリ、

繼位ノ事ハ右ノ如ク至重至大ナルヲ以テ、君主ト雖モ私意ヲ以テ輕シ  
ク動ス能ハサル者ナリ、是故ニ君主遺言、或ハ婚媾條約〔按〕婚媾ノ時ニ  
方リテ、將來ノ事ニ就テ、互ニ結フ所ノ條約ナリ、又ハ王室ノ一家憲法ハウス等ニ依テ、國憲ヲ  
犯シテ繼位法ヲ變更スルコトハ、萬々得可ラサル者ト爲ス、

中古ノ世ハ寶祚ヲ以テ君主ノ私有トナシ、且ツ常ニ國法ト私法ヲ混淆  
シテ、未タ其別ヲ立ルテ知ラサリケレハ、此繼位ノ事ニ就テモ亦、人々ノ  
所見全ク今世ト異ナリキ、但シ其頃ノ所見今尙未タ全ク滅盡セス、方今ノ  
國法中、儘其遺踪ノ存スル者ナキニアラサレトモ、既ニ漸次漸消スルノ時  
到レリ、

六ノ中一五

〔第四〕繼位ノ權利ハ、此ノ如ク公明正大ノ理ニ出ルヲ以テ、方今立憲國〔按〕立

憲政體ヲ立ルノ國ナリ、ノ文明ナル制度ニ於テハ、繼位法ヲ變革セント欲スレハ、必國憲ヲ改正スル規律ニ隨テ、立法諸部局ノ議定ニ因ラサルヲナク、且ツ君主ノ外尙ホ王族中ニテ、繼位ノ事ニ與カル者モ亦、此會議ニ加ハリテ、其議スルヲ要ス、但シ國憲中若シ此件ヲ載セサレハ、必シモ之ヲ要セサルヲ、猶新法ヲ以テ一二公權利ヲ變革スルニ方リテ、此公權利ヲ有スル者、其會議ニ加ハルヲ要セサルカトシ、

繼位ヲ變更スルノ法數種アリ、或ハ全ク從來ノ繼位法ヲ廢シテ、更ニ其新法ヲ設クル者アリ、或ハ唯一人ヲ除ク者アリ、或ハ并セテ子孫ヲ除ク者アリ、英國ニテスツアルト氏ヲ廢シ、瑞典國ニテグスタフ第四世ノ子孫ヲ廢シ、佛國ニテボウルボン氏ノ宗家ヲ廢セシノ類是ナリ、又ハ唯一人ヲ立ルヲアリ、或ハ并セテ子孫ヲ立ルヲアリ、瑞典國ニ於テ佛國ノマルシャルベルナドッテテ先朝ノ養嗣トシ、其位ヲ繼カシメシカ故ニ、其處置最モ容易ナルヲ得タリ、

〔第五〕世襲法ニ於テ、男ヲ先キニシ、女ヲ後ニスルハ、各國皆同シ、唯其制限

ニ至テハ各相異ナリ、

甲 佛國ノ國法ハ羅馬ト同ウシテ、女子ハ必ス王位ヲ繼クヲ能ハス、瑞典、比耳時、及ヒ普魯士等亦然リ、

乙 獨乙各國ノ法ニテハ、王族中男子ノ位ヲ繼クヘキ者アレハ、女子決シテ繼位スルヲ得ス、但シ男子全ク缺クルトハ、血統最モ近キ女子位ヲ繼クヲ得、去レモ其子ニ至リテハ、又男ヲ先キニシ、女子後ニスル、仍ホ前法ノ如シ、荷蘭國亦然リ、

丙 英國ノ法ハ、本族中男子缺クレハ、縱令ヒ支族中ニ男子アリト雖

モ之ヲ措キ必ス本族中ノ女子ヲ立ツ、西班牙、葡萄牙亦然リ、此法

ヲ用フル國ニ於テハ、王室氏族ノ變革スルヲ多クナリ、ブラッッス、英人、一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス、ノ著書ニ、英國ニテハ、概近二百年間、氏族ノ變シタルヲ四次ナリ、第一オラニ、氏、第二ブラウンスワイク氏、第三ハン、第一ヘル氏、第四コブルグ氏、是レナリ、

〔第六〕國家ハ專ラ一致和同ヲ要ス、故ニ決シテ其版圖ヲ分割スルヲ許サ

六、故ニ又數人同時ニ王位ヲ繼クヲ許サス、○中古佛郎哥國及ヒ其他ノ各國ニテ、版圖ヲ分割シテ之ヲ許多ノ嗣君ニ與ヘシフランケン、譬ヘハ猶尋常遺物ヲ數子ニ分與スルカ如クナリシカ、是レ全ク國家ヲ以テ、君主ノ私有ト爲スノ習俗ヨリ起リシナリ、

〔第七〕世襲繼位ハ、唯嫡出ノ子ニ許スヘク、決シテ庶出ノ子ニ許スヘカラス、且ツ其他婚媾條約中ニ、將來所生アルモ、決シテ王位ヲ繼カシメサルノ旨ヲ載セシトハ、其子ハ實ニ嫡出ナレトモ、敢テ繼位ヲ許スヘカラス、此如キ制度ヲ立ルハ、他ニ已チ得ス、繼位セシムヘキ者有ルヲ以テナリ、去レトモ若シ此者ノ繼位權利ヲ廢スルトハ、此子直ニ繼位ノ權利ヲ得ヘシ、○上ノ〔第四〕ニ論スルカ如ク、國憲ヲ以テ繼位法ヲ變スルトハ、此ノ如キ王子ト雖モ、或ハ亦繼位ノ權利ヲ得ルコトアリ、但シ王室敢テ私ニ此ノ如キ變更ヲナスヲ得ス、

〔第八〕其他各國近今ノ國憲ニ於テハ、多クハ、唯同等ノ婚媾エーベンビュルノ門閥同等ノ男女エー、エー、〔按〕相婚スルノ義、ヨリ生ル、所ノ子ニ非サレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ル法ナ

リ○現ニ君位ニ在ル所ノ氏族或ハ往時君位ニ在リシ氏族ノ男女、相婚スルヲ稱シテ、同等ノ婚媾トナス、且ツ獨乙ノ國法ニテハ、君輒近權ヲ奪ハレタル高貴族スタント相婚スルモ亦同等ノ婚媾ト稱シテ可ナリ、○然ルニ又儘一家憲法ニ於テ、他族ト相婚スルトハ、縱令ヒ其氏族、國ノ高貴族ニ列スルト雖モ、之ヲ同等ノ婚ト稱セサルモアリ、此事甚々頑陋ノ習ニシテ、中古ノ風俗ニモ猶劣レリ、

婚媾ノコトニ就テ、此ノ如ク制限ヲ立テシハ、獨乙固有ノ風俗ニシテ、其源ハ私法ヨリ轉シテ、繼位法ニ波及シ、今ニ至リテ其遺習ノ尙存スル者ナレハ、大ニ門閥懸隔ノ風ヲ長スル者ニシテ、開化文明ノ今日ニ於テハ、決シテ緊要ノ事ト爲スニ足ラス、

六〔第九〕王家婚媾ノコトハ、重大ニシテ、其生ム所ノ子、皆ニ父ノ私有ヲ得ルノ中ニナラス、兼テ亦繼位ノ權利ヲ得ル者ナルカ故ニ、必先ッ國君或ハ代國府ノ許諾ヲ得テ、然後ニ此婚媾ヲ定ムルコト固ヨリ緊要ナリ、何者、此事ノ處

六ノ中 ○置、大ニ國家將來ノ榮辱安危ニ關係スレハナリ、○故ニ此事ニ就テハ、國君及ヒ代國府、專ラ國家將來ノ榮辱安危ヲ顧慮スルヲ甚タ緊要ニシテ、決シテ勿々輕舉ス可カラズ、去レヒ此事既ニ關心ノ累ナケレハ、自餘ハ都テ、相婚媾スル男女ノ意ニ任スル、固ヨリ當然ナリ、然ルニ尙種々ノ陋習

ヲ守リ、或ハ他族ノ混同ヲ忌ンテ、男女自由ノ權利ヲ限制スルハ、甚タ非理トス、○王家婚媾ノ事ハ、右ノ如ク重大ナルヲ以テ、方今各國ノ國憲、必ス其規律ヲ載定ス、○

○西班牙國一千八百三十七年天保八年ニ議定スル所ノ國憲第四十九條

ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク、「國王將ホニ婚媾シントスルニ方リ、必ス先ッ其旨ヲコルテス、〔按〕立法府ニ告示シ而シテ其婚媾條約ハ、必ス此府ノ檢査ヲ經、其許可ヲ取リテ、然後ニ之ヲ約結スヘシ、嗣君ノ婚媾ニ於ケルモ亦然リ、且ツ國君嗣君共ニ憲法ニ於テ繼位ヲ許サ、ル者ト、相婚スルヲ禁ス、又葡荷牙國一千八百二十六年文政九年ニ議定スル所ノ國憲第九十

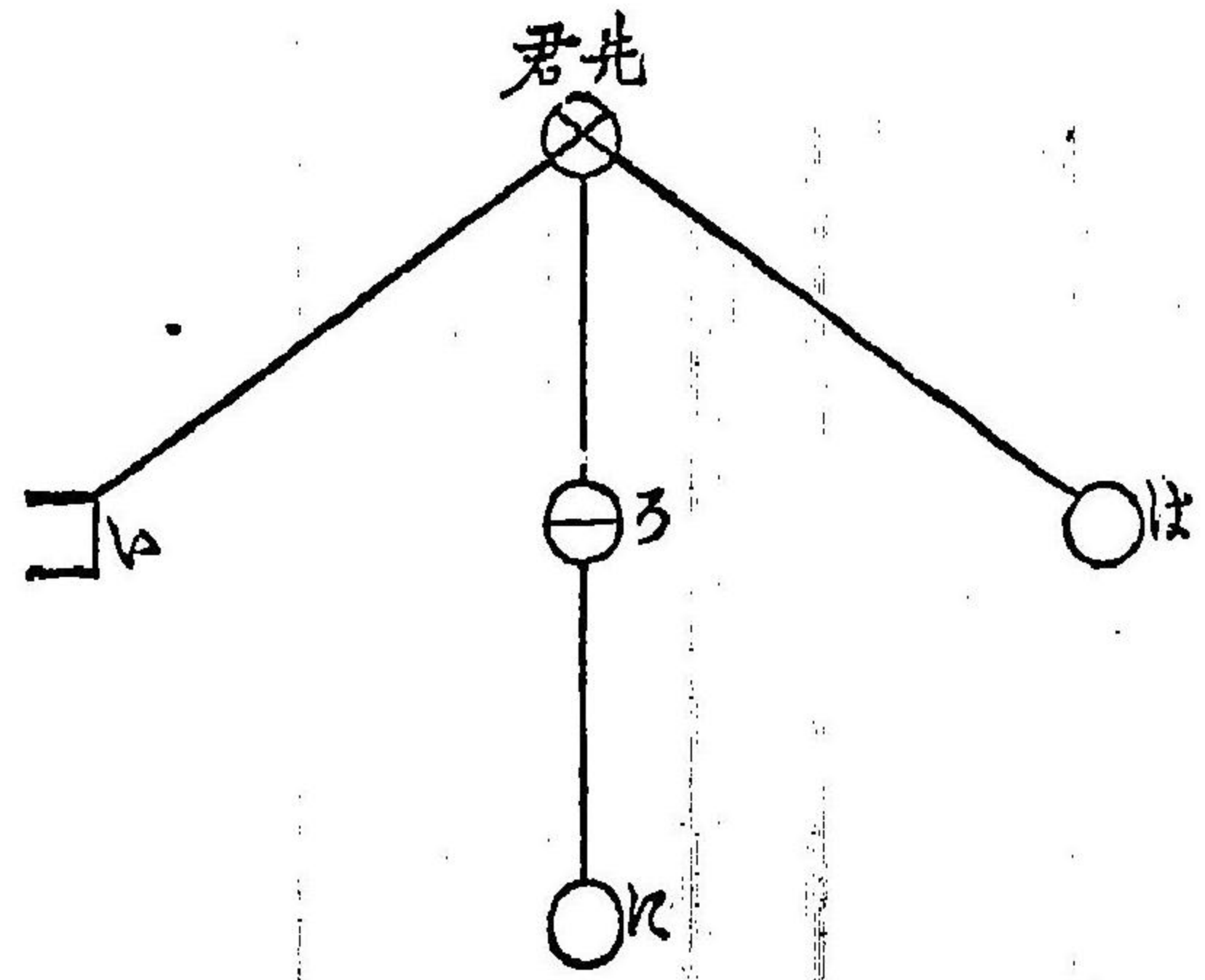
條ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク「若シ自今王子ナキカ爲メニ、王位ヲ繼クヘキ王女ハ、必ス國君ノ許可ヲ得サレハ、婚スルヲ能ハス、若シ國君既ニ没スレハ、必スコルテスノ許可ヲ經テ、然後ニ婚スヘシ、而シテ其贅夫ハ、敢テ權事ニ預ルヲ許サズ、且ツ所生アルノ後ニアラサレハケトニグ〔按〕通常王ノ號ヲ用フルヲ許サスト、ト譯ス

六ノ中 ○第十繼位ノ序次ニ於テハ、方今各國皆長幼ノ序ニ從フ法ナリ、此故ニ先君没スレハ、長子必ス其位ヲ繼ク、長子若シ先君ニ先ツテ没スレハ、長孫之ヲ繼テ、先君ノ次子ハ之ヲ繼クヲ得ス、其餘都テ亦此ノ如ク、必ス本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且、一系中ニテハ必ス長幼ノ序次ニ從フ、而シテ其規律獨リ本族中ニ於テ用フルノミナラス、支族ニ於テモ亦同シ

○繼位ヲ定ムルヲ、固ヨリ君主ノ意ニ出ル者ニ非サレヒ、其序次ニ就テ、族系ノ親疎遠近ヲ定ムルハ、必ス最後ノ君主ヲ本位トシテ之ヲ論ス、故ニ祖君ハ、素ト此繼位權利ノ生セシ濫觴ナレヒ、却テ之ヲ以テ本位ト

六ノ中ニ

爲サス○此事ノ意ハ、戚族中男子悉ク没シテ、王位女子ニ移ルノ法ニ於テ、自カラ明瞭ナルヲ得可シ

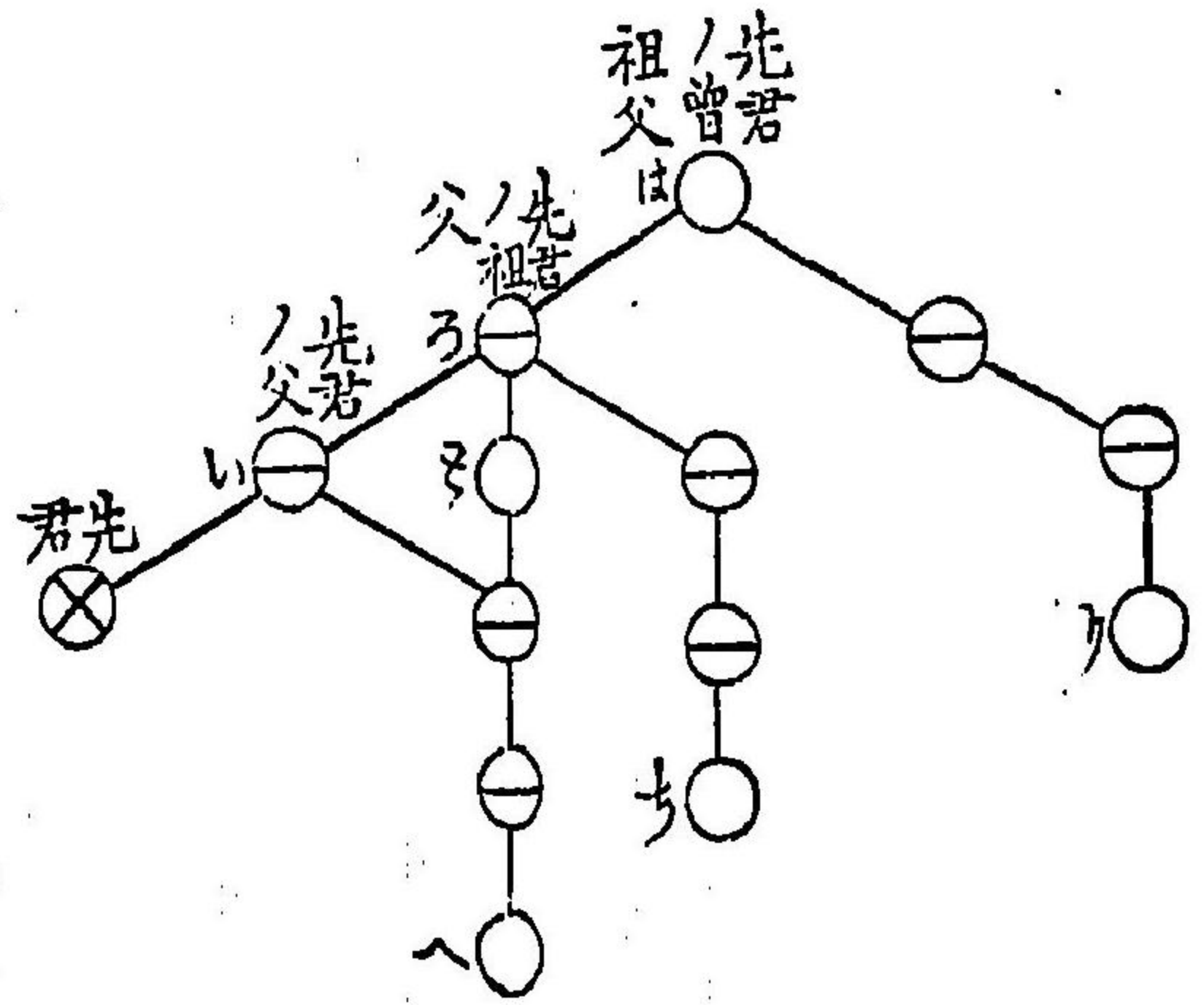


②ナル孫ハ、③ナル女、及ヒ④ナル子ニ先テ、王位ヲ繼ク、

〔按〕⑤ハ、兄弟姉妹ニテ、○ハ男、□ハ女、①ハ既ニ没シタル男ナリ、即本文先君ノ長子、父君ニ先ツテ没セシキハ、其孫王位ヲ繼テ、其長女及ヒ次子ハ繼ク能ハサルヲ示スナリ、

六ノ中ニ

⑥世普ク知ル如ク、壤地利國ニテ、嘗テハブスブルグ氏ニ、男子全ク缺ケシ時、最後ノ君主ニ最モ親近ナル女子、宜シク繼位スヘキヤ、若クハ昔時男子ニ先キタ、レテ、王位ヲ繼カサリシ女子、及ヒ其子孫ハ、往時

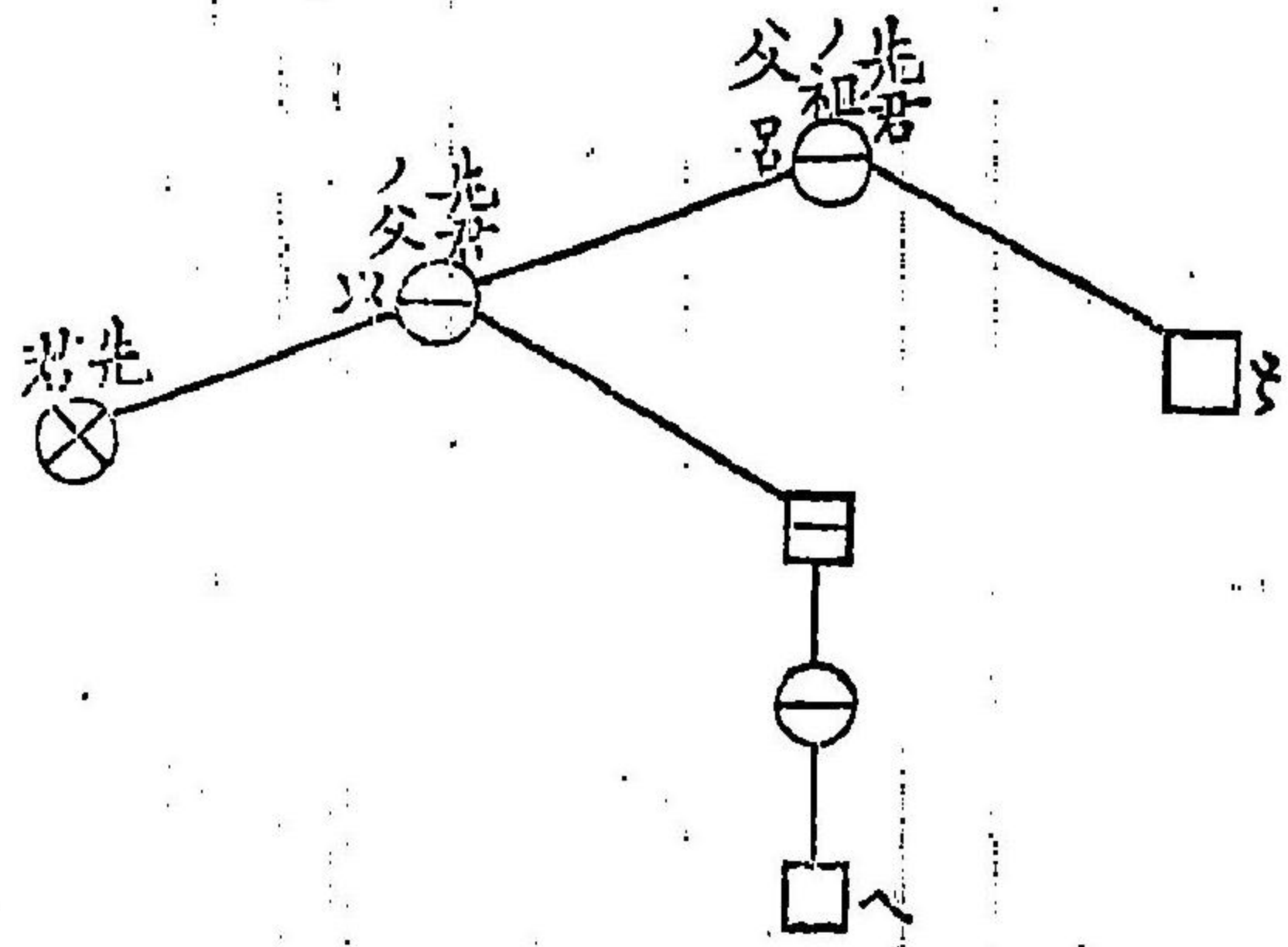


①ナル從孫ハ、②ナル叔父、及ヒ③ナル支族ニ先テ、又④ハ⑤ニ先テ、⑥ハ更ニ⑦ニ先ツ、〔按〕本系ヲ先ニシテ、支系ヲ後ニシ、且ツ支系中ニモ近キヲ先ニシテ、遠キヲ後ニスルヲ示ス、即本系ニ子ナキハ、先ッ第二系ニ移リ、更ニ第三、第四ニ移ルナリ、

ノ王ニ親近ナルヲ以テ、今宜シク繼位スヘキヤノ疑議起リ、容易ニ決セカリシカハ、遂ニ第一論ニ決シ、最後ノ君主ニ親近ナル女子ヲ以テ、王位ヲ繼カシメタリ。○ハイエルン國ノ國憲ニ載スル所モ、亦之ニ同シ。○此ノ如ク男子全ク缺ケテ、女子王位ヲ繼クノ序次ニ至リテハ、各國大抵羅馬ノ法ニ從テ、血脈ノ近キ者ヲ先キトセス、獨乙ノ法ニ從テ、族系ノ近キ者ヲ先キコシ、而シテ同系中ニテハ、血脈ノ近キ者ヲ先キニス、即チ左ノ圖ノ如シ、

②系ニ屬スル所ノ㊦ナル從孫女ハ、③系ニ屬スル所ノ㊧ナル叔母ニ先テ位ヲ繼ク、

〔按〕族系ノ近キ者ヲ先キニシテ、血脈ノ近キ者ヲ後ニスル所以ヲ示ス、即チ㊨ナ



ル叔母ハ、血脈ニ於テハ㊦ナル從孫女ヨリ近ケレド、族系ニ於テハ、從孫女ハ叔母ヨリ近キヲ以テ、先ウテ王位ヲ繼クナリ、

但シ若シ族系血脈共ニ同シキ時ニハ、弟ヲ先キニシ姉ヲ後ニ爲スヘキヤ、或ハ男女ヲ論セス、只長幼ノ序ヲ用ユヘキヤ、否ニ至リテハ、定則ナシ、英國ノ如キハ、必ス弟ヲ先キニシテ、姉ヲ後ニスルノ法ヲ用ヒ、獨乙

ノ數國ニ於テハ、男女ヲ論セス、唯長幼ノ序次ニ從フ者アリ、  
獨乙ニテハ、長子繼位ノ法、司選侯ノ國ニ於テ始テ創立シ、爾後獨乙諸國  
ニ傳播シタリシカ、此法未タ立タカリシ前ニハ、各國繼位ノ事ニ就テ、爭  
亂多カリキ、

〔第十一〕君主ノ遺物中ニ就テ、國法ニ屬スル者ト、私法ニ屬スル者トナシ、綿  
密ニ分別スヘシ、其國法ニ屬スル者トハ、第一ニ君主ノ王位ニ在ルヲ以  
テ掌握スル所ノ諸公權利、〔按〕權利ハ、無形物ナレド、遺物中ニ次ニ國憲、或  
ハ一家憲法ニ載定スル所ノ所有物是ナリ、其他創立建造ノ事ニ由リ、或ハ  
君主ノ遺言ニ由リテ、國法ニ屬スル遺物トナル者アリ、又私法ニ屬スル  
遺物トハ、全ク君主ノ私有物ナリ、○國法ニ屬スル所ノ諸遺物ハ、必ス國  
法ノ定ムル所ニ從テ、唯嗣君獨リ之ヲ受ルヲ得、私法ニ屬スル所ノ諸遺  
物ニ至テハ、私法ヲ以テ之ヲ處分ス、是故ニ敢テ竇祚ヲ以、王家ノ私遺物  
トナス可ラス、單ニ私遺物ヲ受ル者ハ、敢テ公遺物ニ關スルノ權ナシ、○

○ハイニルン國ノ國憲ニ、國法ニ屬スル遺物ト、私法ニ屬スル遺物ノ  
別ヲ詳ニ記載ス、其國法ニ屬スル遺物トハ、即チ左ノ條件是ナリ、第一、  
諸簿冊、第二、公事ニ屬スル諸館舍、及ヒ其附屬ノ物件、第三、砲銃、彈藥、兵  
庫、及ヒ民兵ノ要具、第四、王居ノ樂人、及ヒ吏員ノ官舍、其諸器械、〔此器械  
ハ、王居總裁ノ管スル所ニシテ、王居ノ用ニ供シ、或ハ之ヲ以テ王居ノ  
盛典ヲ示スナリ、〕第五、王居或ハ宴宮ノ建造、又ハ其粧飾ニ用フヘキ諸  
具、第六、家寶及ヒ先君ノ之ニ附加セシ物件、第七、文庫、理學器械庫、天工  
品庫、貨幣庫、古物庫、肖像庫、天文臺、及ヒ其諸器械、圖書庫、銅版圖書庫、其  
外學術獎勵ノ爲メニ必要ナル物件、第八、國庫貯藏スル所ノ貨幣、及ヒ  
其他貨本、官舍貯藏スル所ノ天工品、及ヒ歲入ノ未タ収納セサル物、第九、  
公費ヲ以テ得ル所ノ諸物件、其他私ニ得タル不移動物トイヘーモ、  
先君未タ嘗テ之レカ處置ヲ爲サ、レハ、是モ亦國法ニ屬スル遺物トナ  
ルナリ、

第七款

繼位ニ就テ、人體ノ應否ベルセンリヘ、エルホルデルニセ、ルゲ、一ノホ

〔第一〕中古ノ時代ニハ、各國共ニ、藉土法ノ規律ニ因テ、君位繼嗣ノ法ヲ定ムルヲ、殆ト舉世ノ風俗ナリキ、故ニ俗君ノ國〔按〕教士ニ非ル徒ニテハ、總テ教士ノ君位ヲ繼シテ禁シタリ、例ヘハ、〔按〕中古歐ノ藉土法ノ如キ、則チ此禁アリ、○加特力教士ハ、都テ教皇ノ扶持ヲ仰シテ以テ、若シ此徒ヲ舉テ君位ニ莅マシムルキハ、之ニ由テ大イニ獨立不羈ノ權ヲ害シ、且、國家ノ國家タル所以テ失フヲ以テ、今時各國ノ國憲ニ於テモ、亦教士ノ繼位ヲ禁スルヲ中古ニ異ナラス、去レニ教士タル者、若シ國家所定ノ規律ニ從テ其職ヲ辭シ、還俗スルキハ、繼位ヲ許スヲ當然ナリ、但シ素ト教士ノ君權ヲ執レル國ニテハ、此ノ如キ制度ナキヲ、固ニリ論ヲ俟タス、  
〔按〕通常耶蘇教又耶蘇正教ト譯ス、則ニテハ、素ト教士ト  
波羅特士旦教派  
〔按〕通常耶蘇教又耶蘇正教ト譯ス、則ニテハ、素ト教士ト  
羅馬教皇ノ管轄ヲ受ケタル派ナリ、

俗人トノ別ヲ立ルヲ、加特力教派ノ嚴ナルカ如クナラス、且ツ教派ノ職官ヨリ、國家ノ職官ニ轉スルヲモ、決シテ妨ケナキヲ以テ、繼位ノ一ニ於テモ、亦絶テ加特力教派ノ如キ制限アラス、

〔第二〕今時繼位ニ就テ、必ス教派ヲ一定シ、其教派ヲ奉スル者ニアラサレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ルノ法ヲ立ル國アリ、

中古ノ頃ハ、専ラ教派ノ同一ヲ貴ヒ、且ツ國事ト神事ト全ク一致シテ、決シテ相離レサルヲ以テ、其本旨トセシカハ、〔按〕即祭政、此ノ如キ制限ヲ立テシモ、固ヨリ當然ナルヲニテ、既ニ帝ト雖モ若シ教旨ニ背畔スルキハ、直ニ教罰キルヘンバン、〔按〕加特力教派ノ旨意ニ背シキハ、羅馬教皇ノ權威ニテ之ヲ教派ヨリ除クノ罰ナリ、チ受ケ、隨テ國憲ヲ失フヲ常ナリキ、○然レモ、近今ニ至リテハ、固ヨリ國事神事一致ノ論亡ヒテ、全ク離レシ者トナリ、〔按〕近今祭政一致ノ論全ク亡ヒシハ、蓋シ開明進歩ノ致ス所ナリ、且ツ君主ノ權柄、絶ヘテ其信奉スル所ノ教派ニ因ルヘキ者ニアラサレハ、敢テ此ノ如キ制限ヲ立テ、規律ト爲ス可ラス、但シ若シ君主信奉スル所ノ教派臣民



六ノ中三〇

信奉スル所ノ教派ト相異ナルトハ、之カ爲メニ臣民王室ヲ尊崇スルノ  
心ヲ去リ、且、君主其教派ヲ信仰スルコト甚ク厚クレハ、妄ニ威力ヲ恃テ臣  
民ノ教派ヲ妨害スルノ憂ヒ少カラズ、故ニ君民共ニ同一ノ教派ヲ奉ス  
レハ大ニ可ナリ、唯此事ヲ以テ規律ト爲スハ、甚ク不可ナリ、○但シ基督  
教ヲ奉スル所ノ各國、方今ハ法理大ニ開明シテ、既ニ頑陋ノ事モ絶ヘタ  
レハ、繼位ニ就テモ、唯基督教ヲ奉スルト否トヲ以テ、其制限ヲ立テ、自餘  
瓊末ノ流派ヲ論スルカ如キ、陋習ヲ廢棄スルニ至ラハ、將來益不可ナル  
ナカルヘシ、

然ルニ英國ノ如キハ、嚴ニ制限ヲ立テ、其國法ニ於テ、波羅特士旦王國ト  
自稱シ、必、波羅特士旦教派ノ君、其王位ヲ繼シニアラサレハ、決シテ國家  
ノ安康ヲ保ツコト能ハスト爲ス、故ニ加特力教ヲ奉スル者、及ヒ此教派ヲ  
奉スル者ト相婚セル者ハ、決シテ王位ヲ繼シコト能ハサル者トス、○瑞典  
ノ如キモ、之ト相同ウシテ、必、アウグスブルグ教派〔按〕波羅特士旦教ノ一派ナリ、ヲ奉ス

ル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サス、其他希臘國モ亦其國憲中ニオルトツキ  
ス、キリストリヘ、キルヘ、デス、オリント教〔按〕一ニ希臘教ヲ奉スル者ニア  
ラサレハ、繼位ヲ許サ、ルコト載定シ、又俄羅斯ニテハ帝族ハ必、希臘教  
ヲ奉スヘキノ法ヲ立ツ、

六ノ中三一

〔第三〕王位ハ必、有名無實ナルヘカラス、是故ニ嗣君ハ實ニ政權ヲ執ルニ  
堪ヘサル虧缺〔按〕身體精神、或、行狀等ニ於テ、具足セサル所アルヲ云フ、決シテアル可ラス、○古時ノ  
國法ニ於テハ、大ニ此事ニ着意シタリ、今時モ又仍、此ノ如キ虧缺ニハ、必、  
着意セサル可ラス、然ルニ嗣君虧缺甚シカラスシテ、必、スシモ之ヲ廢ス  
ルヲ要セサルニ之ヲ廢シ、或ハ虧缺甚タシウシテ、之ヲ廢セサレハ、勢、政  
府亦隨テ立ツヘカラサルニ、仍、之ヲ廢セサル等ノコト儘之アリシカ、此等  
ノコトハ、舉措其宜ヲ失スル者ニシテ、實ニ非理ト云フヘシ、○此ノ如キ時  
ニ方リ、或ハ攝政ヲ置テ、政權ヲ委托スルコトアレド、此事却テ國家ノ災害  
ヲ生シ易ク、且、攝政ノ職タルヤ唯君主姑ク政權ヲ執ル能ハサルノ事

六ノ中二三

故アルカ爲、ニ、一時權ニ設置スル者ニシテ、決シテ終身政權ヲ執ル能ハサル君主ノ爲、ニ、置ク可キ者ニアラス、然ルニ此ノ如キ時ニ於テ、此官ヲ置クハ、當ニ利ナキノミナラス、却テ害アリ、○是故ニ嗣君此ノ如キ虧缺アルニ方テハ、必、機會ヲ失ハス、恰當ノ處分ヲ以テ、此事ヨリ爭論ノ生スルヲ防慮シ、而シテ若シ虧缺實ニ大ニシテ、眞ニ君主タルニ堪ヘサルハ、必、預メ立法院ノ議定ニ由テ、之ヲ除クヘシ、是レ即テ國家安寧ノ爲メ、實ニ已ムヲ得サレハナリ、

所謂虧缺ナル者ハ下文ニ條列スル所ノ如シ、

〔甲〕身體ノ虧缺、サクセンスピーゲル〔按〕中古獨ニ於テハ、陰陽人、矮人、

不具人、及ヒ癩病ニ罹ル者等ニハ、ランドレフト〔按〕尋常ノニ屬スル、遺

物相續ノ權利スラ、尙許サ、リキ、況テ君位相續ニ於テチャ、去レヒ癩病

ノ如キハ、必スシモ治ス可ラサル者ニアラサレハ、唯此疾ニ罹ルノ故ヲ

以テ、其權ヲ奪フハ、甚タ非理ナリ、故ニ今時ニ至テハ、決シテ此法ニ從フ

一ナシ、但シ其他ノ虧缺〔按〕陰陽人、矮人、ヲ受ケタル不幸人ニ、國家尊貴

權柄ヲ負荷セシムルハ、實ニ國威ヲ汚スモノト云フ可シ、

藉土法モノニシテ、藉土ノ規律ヲ定ムル所ノ法ナリ、ノ規律ハ、更ニ嚴ニ

シテ、天性ノ啞人、聾人、盲人等ニハ、敢テ藉土相續ノ權利ヲ許サ、リキ、尙

シ輓近藉土ノ制亡ヒケレハ、此法亦用テ爲サ、ルハ論ヲ俟タス、去レヒ

是等ノ徒、國權ヲ執ルニ堪ヘサルハ、今仍同シケレハ、今時ノ法ニ於テモ

亦是等ノ徒ニ繼位ノ權利ヲ許サス、

〔乙〕精神ノ虧缺、一千四百五十六年正平十一年定立スル所ノゴルドテブル

レ〔按〕中古獨ニ於テ、癡人及ヒ狂人ニハ、繼位ノ權利ヲ許サ、リキ、○此制

度ハ、司選侯國〔按〕司選侯治ムノ爲メニ、始メテゴルドテブルニ載定

セシト雖ヒ、必、此國ノ爲メニ、始メテ設立セシニハアラス、是ヨリ先キ既

ニ他邦ニ於テ用ヒシ者ヲ、此國ニモ亦用ンカ爲メニ、始メテ國憲ニ載定

セシナリ、○然ルニ今時繼位ノ事ヨリ爭論ノ生スルヲ恐ル、カ爲メニ、

六ノ中二三

六ノ中三四

此ノ如キ虧缺アルニ方リテモ、繼位ヲ變スルコトナク、唯攝政ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムル國アリ、去レヒ此ノ如キ處置實ニ君民ノ爲メニ利ナルヤ否、未タ知ル可ラス。

○繼位變更ノコトニ就テ、爭論ノ生スルニ、立法府ノ議定ニ因テ之ヲ裁決スレハ、和平ニ至ルコト甚タ難事ニアラス、然ルニ數十年攝政ヲ置キ之ニ由リテ生スル所ノ憂害ハ、殆ト除ク可カラサルニ至ルヘシ。○ダールマン〔按〕獨乙人、一千七百八十五年ニ生レ、八百六十年ニ死ス、ノ政學書ニ云、嗣君此ノ如キ虧缺アルカ爲メニ、其繼位ノ權利ヲ奪フニ方リテハ、先ツ在位ノ君主、其議ヲ親戚ニ下シテ、其許可ヲ取り、且ツ大臣ノ外、立法府モ亦共ニ之ヲ許可セサレハ、決シテ施行ス可カラス。

〔丙〕行狀ノ虧缺、嗣君行狀不正ノコトアレハ、必ス未タ其位ヲ繼ガサルニ及ヒ、立法府ヲシテ之ヲ議セシメ、以テ廢立ヲ定ムヘシ、今時ノ法即チ此ノ如シ、

第八款

第三

民主國ニテ、元首起立ノ體裁、

エントステーピングスホルメン、インデル、レアブリッキ、

〔第一〕凡ソ政府ノ職タルヤ、日々ニ變化轉遷スル所ノ治安ノ要務ニ著目注意シ、其宜シキニ隨テ、其術ヲ活用スル者ナリ、是故ニ先ツ其方法ヲ立ルニ當テ、心思必、唯一ニシテ、決シテ二途ニ分ルヘカラス、又之ヲ施行スルニ於テ、其能力常ニ前進シテ、決シテ凝滯スヘカラス、但シ民會〔按〕ホルンク、〔按〕國若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、此ニ要事ヲ舉ント欲スルモ、決シテ能ハサル所ナリ、是故ニ近今ノ民主國ニテハ、通常政令ノ權柄ヲ以テ、或ハ僅々數人ニ附託シ、或ハ一人ノ全權ニ委任ス、瑞士各邦ノ如キ、多クハ第一法〔按〕僅々數人、ヲ擇用シ、亞米利加ノ如キハ、第二法〔按〕ノ全權ニ任ヲ逡用ス、而シテ此兩法共ニ、實ニ君主國建制ノ意ニ倣フ、顯然タル者ニシテ、第二法ノ如キハ、殊ニ然リトス、實ニ大國ニ於テハ、此法制ヲ用ユルニ非サレハ、決シテ理治ヲ得サルナリ。

六ノ中三五

○一千七百九十

六三ノ中

五年七年寬政佛國ニテ、行法權柄ホルチーヘンヲ以テ、五名ノゲレシトリウム  
〔按〕佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、ニ委託シタリ、然レモ五名ノ  
 五名ノ長官ヲ置テ、政府ノ長トナシタリ、ニ委託シタリ、然レモ五名ノ  
 合議常ニ一致シ難シ、隨テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ  
 之ヲ廢シテ、更ニコンスラト〔按〕人員三人アリテ、ノ官ヲ置キ、而シテ其  
 第一等ノコンスル一人〔按〕那破倫第一世ヲ、第一專ラ全權ヲ握リシカ  
 ハ、政令ノ施設流ル、カ如シ、聊カ凝滯スルノ患アラサルニ至レリ、其後  
 一千八百四十八年嘉永更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如  
 キ合議官ヲ置キシカ、政令復々常ニ凝滯スルヲ以テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉  
 ケテ、之ニ全權ヲ委テタリ〔按〕此時那破倫第三世統領トナリタリ、○國政ノ權一人ニアルキ  
 ハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替ラス、隨テ臣民ノ政府ヲ  
 尊親スルノ情自ラ厚ク、且ツ政府モ亦能ク其責ニ任スルヲ得、然ルニ國  
 政合議ニ出ルキハ、其權力分ル、ヲ以テ常ニ弱ク、隨テ臣民ノ政府ヲ尊  
 親スルノ情自ラ薄ク、且ツ政府官員、其責ニ專任スル者ナキニ至ル、○小

六中ノ三

國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス、且、小國ニテ、長官一人衆  
 ニ超ルノ知畧アルキハ、動モスレハ臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモ  
 ノナリ、故ニ合議ノ制却テ利アリ、○立法府官數十百員ノ中、其所見相表  
 裡シテ、自ラ朋黨ノ相分ル、ハ固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪シムニ足ラス、然  
 レ此弊遂ニ政府ニ及ヒテ、幾ニ數員ノ間ニ於テモ、亦所見互ニ表裡スル  
 ヲリ、朋黨分ル、ニ至レハ其一致和同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂  
 害最モ甚カラス、○  
 ① 瑞士合邦ニテハ、ブンデスラト〔按〕此官員ニ政令ノ權柄ヲ托シ、其  
 各邦ニテハ、レギーン、グス、コルンギー〔按〕此官員ニ政令ノ權柄ヲ  
 托ス、○但シ昔者州邑ニテハ、ランダムン、都府ニテハ、ビュルゲマイステル、  
 及ヒスルトハイスト云ヘル官員各一人、其長トナリテ、專ラ政權ヲ執  
 リ、又合邦ニテハ、那破倫第一世ノ補助ヲ以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合  
 邦ノランダムント云ヘル官員一名、政府ノ長トナリテ、其政權ヲ掌握

六三中ノ六

五年寛政七年佛國ニテ、行法權柄ホルチーヘンヲ以テ、五名ノザレシトリウム  
〔按〕佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、ニ委託シタリ、然レモ五名ノ  
 五名ノ長官ヲ置テ、政府ノ長トナシタリ、ニ委託シタリ、然レモ五名ノ  
 合議常ニ一致シ難ク、隨テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ  
 之ヲ廢シテ、更ニコンスラト〔按〕人員三人アリテ、ノ官ヲ置キ、而シテ其  
 第一等ノコンスル一人〔按〕那破倫第一世ヲ、第一專ラ全權ヲ握リシカ  
 ハ、政令ノ施設流ル、カ如ク、聊カ凝滯スルノ患アラサルニ至レリ、其後  
 一千八百四十八年嘉永更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如  
 キ合議官ヲ置キシカ、政令復々常ニ凝滯スルヲ以テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉  
 ケテ、之ニ全權ヲ委テタリ〔按〕此時那破倫第三○國政ノ權一人ニアルキ  
 ハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替ラス、隨テ臣民ノ政府ヲ  
 尊親スルノ情自ラ厚ク、且ツ政府モ亦能ク其責ニ任スルヲ得、然ルニ國  
 政合議ニ出ルキハ、其權力分ル、ヲ以テ常ニ弱ク、隨テ臣民ノ政府ヲ尊  
 親スルノ情自ラ薄ク、且ツ政府官員、其責ニ專任スル者ナキニ至ル、○小

七三中ノ六

國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス、且、小國ニテ、長官一人衆  
 ニ超ルノ知畧アルキハ、動モスレハ臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモ  
 ノナリ、故ニ合議ノ制却テ利アリ、○立法府官數十百員ノ中、其所見相表  
 裡シテ、自ラ朋黨ノ相分ル、ハ固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪シムニ足ラス、然  
 用此弊遂ニ政府ニ及ヒテ、纒ニ數員ノ間ニ於テモ、亦所見互ニ表裡スル  
 ヲリ、朋黨分ル、ニ至レハ其一致和同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂  
 害最ニ甚カラス、○  
 ①〔按〕此官員ニ政令ノ權柄ヲ托シ、其  
 瑞士合邦ニテハ、ブンデスラト〔按〕此官員ニ政令ノ權柄ヲ  
 各邦ニテハ、レギーン、グス、コルレギーン〔按〕此官員ニ政令ノ權柄ヲ  
 托ス、○但シ昔者州邑ニテハ、ランダムン、都府ニテハ、ビュルゲマイステル、  
 及ヒスルトハイスト云ヘル官員各一人、其長トナリテ、專ラ政權ヲ執  
 リ、又合邦ニテハ、那破倫第一世ノ補助ヲ以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合  
 邦ノランダムント云ヘル官員一名、政府ノ長トナリテ、其政權ヲ掌握

シタリ、然ルニ近輓ケンフニテ定立セル國憲及ヒ今時甚々合議ノ政  
ヲ喜フノ民情ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權ヲ一人ニ委託スルニ至  
ルノ前徴ナラン、

③ 瑞士各邦ニテ專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政府ノ不和ヲ預防スルニ  
足ラス、若シ合議府〔按〕政ノ官員ヲ選擇スルニ方リテ、先ツ統領一人  
ヲ選舉シ、之ヲシテ其他ノ人員ヲ預選セシメ、然後ニ立法府ニテ之ヲ  
議定スルノ法ヲ立ル歟、然ラサレハ立法府選擇スル所ノ者、統領ノ意  
ニ適セサルハ、敢テ之ヲ取ラサルノ權ヲ與ヘナハ、自ラ所見相合ス  
ル者、相共ニ政權ヲ執ルトナルカ故ニ、合議府ノ中、不和ヲ生スルコ  
少ナカルヘシ、○民主國ニテ、議論一致セサル徒テ合シテ、之ヲ合議府  
ニ置クノ害ハ、君主國ニテ、互ニ和セサル徒テ合シテ、ミニストリウム  
〔按〕輔相ニ置クニモ、其害尙大ナリ、何者、君主國ニテハ、ミニストリウ  
ムノ上ニ、尙君主アリテ之ヲ統一スト雖モ、民主國ニテハ、合議府ノ上

ニ位シテ之ヲ統一スル者アラサレハナリ、〔按〕亞米利加ノ如キハ、民  
主國トイヘモ、君主國ノ制  
ニ倣テ、統領一人ヲ置テ、政府ヲ統  
一スルカ故ニ、此ノ如キ害アラズ、

〔第二〕政府ノ主長ヲ任スルハ、必ス選擇ニ由ル、畢竟ホルク〔按〕蓋シ茲ニハ  
國民ノ義ナリ、  
親ラ政令ヲ爲ス可ラサルヲ以テ、必ス公議ニ由テ長官ヲ選擇シ、以テ之ニ  
國家ノ全權ヲ委テ、且其尊嚴ヲ授ルナリ、故ニホルク直ニ政令ヲ爲スニ  
ハ非サレモ、政府ノ主長ヲシテ、代リテ政令ヲ爲サシムルノ理ナリ、  
ホルク親ラ政令ヲ施スト能ハスト雖モ、能ク其主長ヲ選擇スル所以ニ  
就テ、論者既ニ講究スル所アリ、其說ニ據ルニ、ホルク公議ヲ以テ、有徳ノ  
君子ヲ得ルコト難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常ノ人物ヲ選舉スルコトア  
レモ、大ニ誤リテ不徳ノ小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕レナリ、○ホル  
ク動モスレハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハスシテ、却テ之ヲ避クルコトア  
リ、且ツ又其好惡愛憎、時アリテ變化スルノ忠ヒナキニアラス、然レモ其大  
人君子ヲ仰慕スル心ハ、甚々深切ニシテ、且ツ其衆目ニク君子小人ヲ辨

シタリ、然ルニ近輓ゲンフニテ定立セル國憲、及ヒ今時甚ク合議ノ政ヲ喜フノ民情ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權ヲ一人ニ委托スルニ至ルノ前徴ナラン、

⊙瑞士各邦ニテ專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政府ノ不和ヲ預防スルニ足ラス、若シ合議府〔按〕政府ナリノ官員ヲ選擇スルニ方リテ、先ツ統領一人ヲ選舉シ、之ヲシテ其他ノ人員ヲ預選セシメ、然後ニ立法府ニテ之ヲ議定スルノ法ヲ立ル歟、然ラサレハ立法府選擇スル所ノ者、統領ノ意ニ適セサルモハ、敢テ之ヲ取ラサルノ權ヲ與ヘナハ、自ラ所見相合スル者、相共ニ政權ヲ執ルトナルカ故ニ、合議府ノ中、不和ヲ生スルコト少ナカルヘシ、○民主國ニテ、議論一致セサル徒テ合シテ、之ヲ合議府ニ置クノ害ハ、君主國ニテ、互ニ和セサル徒テ合シテ、ミニストリウム〔按〕輔相ニ置クニモ、其害尙大ナリ、何者、君主國ニテハ、ミニストリウムノ上ニ、尙君主アリテ之ヲ統一スト雖モ、民主國ニテハ、合議府ノ上

ニ位シテ之ヲ統一スル者アラサレハナリ、〔按〕亞米利加ノ如キハ、民主國トイヘモ、君主國ノ制ニ倣テ、統領一人ヲ置テ、政府ヲ統一スルカ故ニ、此ノ如キ害アラズ、  
〔第二〕政府ノ主長ヲ任スルハ、必ス選擇ニ由ル、畢竟ホルシ〔按〕蓋シ茲ニハ國民ノ義ナリ、親ラ政令ヲ爲ス可ラサルヲ以テ、必ス公議ニ由テ長官ヲ選擇シ、以テ之ニ國家ノ全權ヲ委テ、且其尊嚴ヲ授ルナリ、故ニホルシ直ニ政令ヲ爲スニハ非カンモ、政府ノ主長ヲシテ、代リテ政令ヲ爲サシムルノ理ナリ、ホルシ親ラ政令ヲ施スト能ハスト雖モ、能ク其主長ヲ選擇スル所以ニ就テ、論者既ニ講究スル所アリ、其說ニ據ルニ、ホルシ公議ヲ以テ、有徳ノ君子ヲ得ルコト難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常ノ人物ヲ選舉スルコトアレモ、大ニ誤リテ不徳ノ小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕レナリ、○ホルシ動モスレハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハスシテ、却テ之ヲ避クルコトアリ、且ツ又其好惡愛憎、時アリテ變化スルノ忠ヒナキニアラス、然レモ其大人君子ヲ仰慕スル心ハ、甚ク深切ニシテ、且ツ其衆目ニシテ、君子小人ヲ辨

六ノ中ノ四〇

識シ、敢テ才德衆ニ擢ニスル所ノ君子ヲ忌ガシ、或ハ姦雄ノ詐謀ニ陷ルカ如キ患ヒナシ、○ホルク常ニ其主長ノ聲譽顯榮ヲ禱リ、而シテ自己ノ聲譽顯榮、自ラ其中ニ寓ストス、○且ツホルク其主長ヲ選擇シテ、至當ノ人ヲ得ルコト、立法府議員ヲ選擇スルニ優ル數等ナリト云フ、〔按〕以上、ホ長ヲ選擇スル所以ヲ論ス、

右論スル所ノ理ニ由レハ、民主國ニテハ、其主長ヲ任スルニ、必<sub>ス</sub>ホルクヲシテ直ニ之ヲ選擇セシムルノ法ウソニミツテルハ、ハ、全ク廢ス可ラス、却テ立法府ヲシテ選擇セシムルノ法ニ優ルト云フ可シ、古時羅馬ニテ、數百年間此法ヲ用ヒ、又方今瑞士各邦ノ中、萬民直預政治ウソニミツテルハナリ、〔按〕萬民代預政治ト相反スル者ニシテ、所謂代議者ヲ以テ立法府ヲ立ルコトナク、萬民直ニ國政ニ預ル所ノ政體ナリ、テモ之ヲ用ヒ、以テ國ノ榮譽利益トナス、但シ瑞士合邦及ヒ其各邦ノ中ニモ、代國府〔按〕即<sub>チ</sub>立法府ノ事ナリ、ヲ立ル所ノ邦ニ於テハ、代國府ヲシテ、選擇セシムルノ法ヲ用フ、○此選擇二法ノ利害ハ、政府一人ノ統領ヲ置クト、合議府

六ノ中ノ四一

ヲ置クトノ差異アルニ因テ自ラ殊ナリ、譬<sub>ヘ</sub>ハ、財政或ハ庶務等、其他各課ノ長官タルヘキ者ヲ選擇スルニ就キ、其所長ヲ視テ、之ヲ適應セル職ニ選任スルハ、代國府ニアラサレハ、決シテ能ハス、故ニ瑞士國ノ如ク、合議府ノ各員、是等ノ一分課ヲ掌ル者タルトハ、國民ヲシテ直ニ之ヲ選擇セシム可カラズ、然レニ一人乃至二人ノ統領、國家ノ元首トナリテ、政府ノ統領ヲ統一スル者タルトハ、直ニホルクヲシテ之ヲ選擇セシムルヲ以テ優レリトス、

北亞米利加ニテハ、統領ヲ選任スルニ、以上二法ヲ合用ス、故ニ選擇權利ヲ以テ、立法府ニ與ヘス、亦直ニホルクニモ與ヘス、蓋シ此權利ヲ以テ立法府ニ與ヘサルノ意ハ、即チ立法府ノ權力ヲ減殺シテ、其詐謀ヲ防キ、以テ統領ヲシテ立法府衆員ノ部下ニ均シカラサラシメ、且ツホルクヲシテ大ニ政治上ニ關係スルヲ得セシメ、カ爲メナリ、然レニ又此權利ヲ以テ、直ニホルクニ與フルトハ、ホルクノ權力甚ク強大ニ過キテ、却テ政府



六ノ中ノ四二

ヲ蔑如スルニ至ルノ恐レアリ、是故ニ直ニ之ヲホルシニ與ヘス、必スホル  
 シテシテ別ニ選擇者タルヘキ者ヲ選舉セシメ、而シテ之ニ統領ヲ選擇  
 スルノ權利ヲ與フ、是即チ二法ヲ合用スル所以ナリ、○是故ニ先ツ每邦會  
 議ニテ、選擇者ヲ選舉スルキハ、此選擇者悉ク集會シ、密議ヲ以テ統領ヲ  
 選擇ス、而シテ其議悉ク畢リタル後、若シ統領ニ選擇セラル、人名甚々  
 多クシテ、決定シカクキアルキハ、之ヲ決議スルノ權ヲ代國府ニ委ヌ、  
 〔第三〕政府主長頻數變更スルキハ、政令吏務ノ遺傳屢斷絶シ、且ツ永久或  
 ハ遠大ノ事ヲ謀リテ、之ヲ起創スルモ、旋テ廢滅スルノ患ヒアリ、其他治  
 安ノ根基ヲ鞏固ニシテ、恆ニ民ノ信義ヲ取ラント欲スルモ、決シテ能ハ  
 スシテ、大ニ國家ニ害アリ、故ニ政府主長ノ屢變更スルハ、甚々不可トス、  
 去レヒ民主國元首ノ在職ハ、僅々數年ヲ以テ期セサル可カラス、若シ之  
 ナシテ終身其位ニ在ラシムレハ、即チ是レ君主國ノ選立君主ニシテ、民  
 主國ノ元首ニハ非サルナリ、○是ニ於テ近今之ヲ折衷シテ一法ヲ立テ、

六ノ中ノ四三

元首ノ在職ハ、必ス數年ヲ限ルトイヘヒ、其人能ク其職ニ適スルキハ、更ニ  
 之ヲ選擇シテ、再ヒ其職ニ就カシムルト爲セリ、○今世ノ民主國ニ於  
 テハ此法ニ倣フモノ多シ、獨リ一千八百四十八年、嘉永佛國立ル所ノ國  
 憲ニハ、統領期年ニ至リテ、職ヲ去リシヨリ四年ノ間ハ、必ス再任セシム  
 可カラサル旨ヲ記載セリ、但シ此法ヲ設ルノ意ハ、蓋シ佛國臣民ノ民主  
 政體ヲ喜フ心情、未タ甚々確實ナラサルヲ以テ、若シ統領ノ再任ヲ許サ  
 ハ、此政體又變シテ、更ニ君主國トナラシメテ恐レシナリ、然ルニ遂ニ勞  
 シテ功ナク、政體忽チ變シテ、再ヒ君主政體トナリシリ、〔按〕此時那破倫  
 領トシニ、遂ニ又君主トナ  
 リテ、帝位ニ登リシヲ云フ、  
 ○華盛頓ノ說ニ、統領治安ノ事ニ於テ、聊カ間然スヘキ所ナク、天下ノ  
 衆望全ク歸スルトモ、必期年ニシテ其職ヲ去ラシメント欲スルハ、甚  
 タ誤マレルコトナリト云ヘリ、然ルニエッヘルソン〔按〕米國第三世ノ統領、ハ之レニ  
 反シテ、統領再任ヲ許スノ制度アル府ハ、恐クハ遂ニ再三再四ノ復任

六 予は許スニ至ラント云ヘリ、去レ建國以來未ダ曾テ此ノ如キ弊アルヲ見ス、

四四 〔第四〕元首或ハ主長諸員ハ、皆自由ノ選擇ニ由リ、既ニ其人物ノ賢愚長短

ヲ論定シテ、然後ニ位ニ任セシ者ナレハ、世襲君主ノ如ク、其人體ノ應否ヲ論スルヲ要セス、

去レ正、通常左ノ規則ニ從フヲ要ス、

〔甲〕選擇ヲ得ヘキ者ハ、必ス國家臣民タルノ權利、スダーツビニル 〇ヲ全有スル者ニ限ルヘシ、但シ其他自國ニ生レタル者ニ非サレハ、決シテ選擇セザル法ヲ設ル國アリ、蓋シ我政府外國ノ議論、或ハ權力ノ爲ニ、動カサル、ニ至ルヲ恐ル、ナリ、

〇〔按〕國中ノ民人ハ、悉皆其臣民タリト雖正、實ニ國家ノ臣民ト稱スルキハ、必ス定法アリ、此定法ニ洩ル、者ハ、國家臣民タルノ權利ヲ有スル者ト云フヲ得ス、即チ女子、少年、刑人、及ヒ貧ニシテ政府ノ救

助ヲ仰フ者等ハ、各國共ニ國家臣民タルノ權利ヲ有セサル者トス、其他ノ規律ニ至リテハ、各國皆殊ナリ、第二卷第二十一款ニ詳ナリ、

〔乙〕老成人ニ限ルベシ、北亞米利加ニテ、統領ハ必ス年齒三十五以上ヲ要ス、瑞士ニテハ成人年齒以上ヲ要ス、

第九款 君主ノ義務、嗣君ニ遞傳スルノ法ユトベルガンク、デル、ヘン、テ、ン、アウフ、デ、ン、ナ、フ、ホルゲル、

嗣君ハ先君ノ私身ヲ繼續スル者ニアラス、國家ノ君主タル職ヲ紹續シテ、之ヲ掌ル者ナリ、故ニ先君ノ私ニ負フタル義務ハ、法ニ於テ、決シテ嗣君ニ遞傳スルコトナシ、唯君主ノ當職ヲ以テ負フタル義務ハ、必ス嗣君ニ遞傳ス、是故ニ君主既ニ沒スルモ、國家及其元首ノ生命ハ、仍ホ依然トシテ、恆ニ絶滅スルコトナシ、

四 是ニ於テ、左ノ數件ノ規律アリ、  
五 〔甲〕君主出セシ所ノ布令、任セシ所ノ職務、及ヒ君主ノ職ヲ以テ結ヒシ條約

六 等ノ如キハ、其君主没スト雖ヒ、舊ニ仍リテ已ムコトナシ、

〔乙〕君主若シ他人ニ假貸或ハ救助等ノ事ヲ許シ、又ハ職官ヲ與ヘンコトヲ約シテ、既ニ確定セルキハ、君主縱令此約ヲ遂ケスシテ没スト雖ヒ、嗣君必

此約束ヲ果スヘキ義務ヲ繼續セサルヲ得ス、○去レヒ此類ノ約束、實ニ未  
タ確定セル者ニアラサルキハ、縱令現ニ先君トイヘヒ、法ニ於テ必之ヲ  
遂ヘキ義務ヲ有セス、況テ嗣君此ノ如キ義務ヲ繼續スルノ理ナシ、但、嗣  
君仁孝ノ心ヲ以テ、自己ノ私情ヲ去リ、專ラ先君ノ遺意ヲ繼テ、此約束ヲ  
果シ、以テ先君ヲシテ信義ヲ失ハサラシムルハ、甚タ美事ナリ、去レヒ此事  
決シテ國法ニ於テ、緊要トスル所ニアラス、唯其政ノ要則ト云フ可キノ

〔丙〕先君ノ處分セシ事ニ於テ、外面ノ證ナキ者ハ、嗣君敢テ之ニ從フヲ要  
セス、例ヘハ政務施行ノ事ニ於テ、〔按〕皇國ノ大臣ト各省卿  
臣ト譯ス、大ノ連署ナキ者、〔按〕政務施行ニ就テハ、其事ニ預カレルミニ  
或

ハ國憲ノ條規ニ合セサル者等ハ、即チ外面ノ證ナキ者ナルカ故ニ、嗣君尋  
テ之ヲ施行スルヲ要セス、○總テ此ノ如キコトハ、唯君主ノ威權ヲ恃テ爲  
ス所ニシテ、決シテ君主タルノ職ヲ以テ爲ス所ニアラス、故ニ先君ノ在  
位中トイヘヒ、敢テ國法ニ合スル所ノ處分ト爲スニ足ラス、況テ先君ノ  
没後ニ於テナヤ、

然ルニ又先君ノ處分セシコト、縱令實着非理ニ屬シ、或ハ大ニ國家ノ公利  
益ヲ害スルコト明カナリヒ、既ニ外面ニ於テ、法ニ合スルノ證アルキハ、〔按〕  
ニ悖戻スル所ナク、且、〔按〕ニニス、テ 嗣君恣ニ之ヲ廢スルヲ許サス、何者、一旦  
國法上ニ於テ當理トナリシ事、唯君主ノ卒去ニ由テ、忽チ不正非理ト變ス、  
ルノ理決シテ有ラス、總テ事ノ善惡邪正ハ、君主ノ死生ニ由テ、決シテ變  
易スル者ニアラサレハナリ、吾輩國法汎論ニ於テ、公明正大ノ理ヲ以テ  
論スル所此ノ如シ、

六 中ノ四 〔丁〕君主變スルカ爲メ、法亦隨テ變スルノ理、決シテ有ルコトナシ、去レヒ先君

制定セシ所ノ法ヲ、嗣君更ニ改革スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルヲナシ、嗣君之ヲ改革スルノ權利ハ、即チ先君ノ之ヲ制定セシ權利ト全ク同一ナリ、何者、國家ハ日々ニ開明進歩スル者ナレハ、其法モ亦隨テ變革セサル可ラサルヲ以テナリ、○去レテ之ヲ改革スルニハ、必ク國法ニ於テ定ムル所ノ規律ニ由テ處置シ、且ツ之ニ由テ決シテ得有ノ權利ナルベシ、ルレト、〔按〕權利ニ原有ト、得有ノ別アリ、原有トハ、人生ノナカラニ有スル所ノ權利ヲ云ヒ、得有トハ、作業事故ヨリ生スル所ノ權利ヲ云フ、兵庫縣令神田孝平カ譯スル、ヲ傷害スルヲナカル可シ、

○例ヘハ先王嘗テ國法ノ規律ニ從テ、自己ノ權利ヲ廢セシヲアリ、今之ヲ復スルヲ、縱令、國家ノ爲ニ甚ク緊要ナリトモ、恣ニ之ヲ爲スヲ得ス、必ク之ヲ立法府ニ謀リテ、然後ニ議定スルヲ要ス、

〔戊〕先君ノ私債ハ、嗣君ノ決シテ償フヘキ者ニアラス、唯先君ノ私産ヲ繼續セル者、私法ノ規律ニ從テ、之ヲ償フノ義務ヲ受クヘキノミ、縱令、王室家産タル、コロト、ノ爲ニ、此ノ如キ負債ヲ爲スト雖モ、國君タルノ職ヲ

以テ爲セシニアラザレハ、嗣君決シテ之ヲ償フノ義務ヲ受クルヲナシ  
○但シ若シ此ノ如キ負債ニ因テ、王室ノ産ヲ増殖スルヲアルキハ、其増殖セシ數ニ應シテ、之ヲ償ハサル可カラズ、猶ヒテ、コムミスグト  
〔按〕賣却及ヒ贈遺等ヲ禁、或ハレヘングト  
〔按〕藉土ノ如ク物件ニノ法ニ於ケル所ノ遺物、或ハレヘングト  
〔按〕藉用スル所ノ物件、ノ法ニ於ケルカ如シ、

第十款

第四 攝政職ノ設置、ベグリンツング、デ、ル、レゲントシヤフト、

〔第一〕**征襲**君主國ニテハ、嗣君幼冲ト雖モ、位ヲ繼テ政權ヲ掌握スルモ妨ナシ去レテ成長ノ後ニ至テサレハ、實ニ此權ヲ施行スルヲ能ハス、故ニ其幼年ノ間ハ、必ク攝政ノト、ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムルヲ要ス、攝政ヲ置クハ、國家ニ害アルヲ多キヲ以テ、昔時既ニ君主ノ幼冲ト稱スル年齒リグカイト、ミシカイト、チ、私法ニ於テ幼冲ト稱スル年齒ヨリ短ウスル

○五中ノ六

ノ制ヲ立テ、而シテ此年制ヲ過キテ、既ニ成人ノ年齒ホルエーリニ屈イレハ、直ニ攝政ヲ廢スルヲ以テ、通法トナシタリ、元來國家ノ治安ハ、甚タ容易ノ術ニアラサルニ、斯カ君主ノ幼年間ヲ縮メテ、眞ニ幼弱ノ君主ニ、政權ヲ施行セシムルハ、甚タ異シムヘキニ似タレトモ、是レ實ニ已ムヲ得サルニ出ルナリ、○幼弱ナル君主政權ヲ施行スルカ爲メ、國家ノ安寧ヲ害スルヲ、必シモ之レ無キニアラサレトモ、其害タル小ニシテ猶避ク可シ、然ルニ數年間攝政ヲ置シキハ、動モスレハ君主ノ權利ヲ害スル者ニシテ、之ニ由テ一旦國家ノ危害ヲ生スルキハ、其忠實ニ大ニシテ、容易ニ除ク可ラス、○（按）中古獨ノ法ニテハ、年齒十八ヲ以テ獨乙ノ（按）憲乙ノ（按）ヒエラスト（按）帝ヲ選擇スルノ國憲、ノ國法上ノ成人年齒ト爲シタリ、然ルニ獨乙ノ私法上ニテハ、二十一ヲ以テ成人年齒ト爲シ、羅馬ノ法ニテハ、二十五ヲ以テ成人年齒ト爲シタリ、又近今ノ法ニテモ、通常十八ヲ以テ君主ノ成人年齒ト爲ス、獨乙各國多クハ此例ニ從フ、（按）英國荷蘭比耳時亦然リ、

○瑞典一千八百零九年文化六年ノ國憲第九十三款ニ、君主十八ニ至レハ、ス

ターツラート（按）國政（按）議スル官（按）ホーフステス、トリブナル（按）高等法院（按）ホフゲリ

フト（按）一種（按）及ヒコギル（按）議ノ官（按）ニ參列スルヲ得可シ、但シ私法上ノ成人

年齒ニ至ラサル間ハ、敢テ其決議ニ預ルヲ得サル由ヲ載定ス、然ルニ西

班牙（按）一千八百三十七年天保八年ノ國憲第五十六款ニ、齡十四ニ至ル迄（按）君

主ノ幼年ト爲ス由ヲ載ス、同國一千八百十二年ノ國憲第五十八章ニハ、

タリ、又佛國ニテハ、甲利第五世在位一千三百七十

四年ヨリ、年齒十四ヲ以テ君主ノ成人ト爲シタリ、

〔第二〕中古ノ國法ニテハ、幼君ニ代リ、政權ヲ掌握スル所ノ攝政職ヲ以テ、

兼テ君主ヲ保傳スル職（按）ドシヤフト、ノ如ク視做ス（按）常ナリシカ、今時ノ

國法ニテハ、大ニ其別ヲ明カニシ、攝政職ハ、國家治平ノ爲メニ設ル所ニシテ、

全ク君主ニ代リテ政權ヲ掌握スル者トナシ、保傳ノ職ハ、唯幼君ノ私身

ヲ輔翼スル者トナス、是故ニ攝政ト保傳トハ、其人ヲ殊ニスルモ妨ナシ、

而シテ攝政ニ任シタル者ニハ、政令ヲ托シ、保傳ニ任シタル者ニハ、君主

一五中ノ六

私有ノ事務ヲ托ス可シ、  
 是故ニ現立國法（按）現ニ設立スル所ノ國法ヲ云フ、（按）中故ラニ攝政設置ノ規  
 律ヲ設ケサレハ、必ス私法ノ規律（按）例ヘハ遺言ノ遺言、（按）君主憲法（按）王家威族  
 憲法ノ類ヲ或ハ政府命令ヲ以テ定ム、ニ從テ、攝政ヲ任スルヲ當然ナリ  
 ト云フ論アレヒ、決シテ取ル可ラス、總テ私法ノ規則ヲ以テ、之ヲ國事ノ  
 區域ニ轉用スルカ如キハ、必ス方今ノ制度ニ適セサルナリ、故ニ萬一今時  
 ノ現立國法上ニモ、仍ホ攝政設置ノ規律ハ、必ス私法ニ從フ可キ由ヲ載スル  
 所ハ、已ムヲ得サレヒ、若シ否ラサレハ、必ス國法ノ規律ニ從ハサル可ラサ  
 ルヲ、固ヨリ論ヲ俟タス、  
 方今ノ諸國憲ニハ、攝政設置ノ規律ヲ載定スルヲ詳ニシテ、或ハ預メ其  
 定規ヲ設クル者アリ、（一）或ハ臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト爲ス者ア  
 リ、（二）攝政ヲ任スルノ權ヲ以テ、單ニ君主ニ托セス、又單ニ兩院ニモ托セ  
 ス、（三）必ス立法府ノ憲法（按）君主兩院相議定ヲ以テ、之ヲ定ムルノ規律アリ、

（三）蓋シ能ク立憲世襲國（按）コンスチテオテルニ適應スル法ト云フ可シ、去レ  
 ヒ若シ君主在命ノ日ニ於テ、未タ此ノ如キ憲法ヲ設立セサレハ、幼冲ナル  
 君主ノ最親戚ノ者、代リテ此憲法設立ノ會議ニ參列ス可シ、而シテ此人  
 若シ決議ニ預ルヲ得サルモ、必ス其ニ之ヲ議スルノ權アル可シ、荷蘭ノ制  
 度即チ此ノ如シ、  
（一）巴以里國ノ國憲第二篇第十章ニ云、「君主成人年齒ニ達シタル王族  
（按）ノ中ヨリ、嗣君ノ幼年ノ攝政職ニ任ス可キ者ヲ選舉スヘシ、若シ君主未  
 タ之ヲ選舉セスシテ没スレハ、父族（按）方ノ親戚ト云フニ同シ、中ニテ、嗣  
 君ニ次テハ第一ニ繼位ノ權利ヲ有セル成年ノ王族、攝政トナル可シ」  
 ト、○又西班牙國一千八百三十七年（按）天保八年ノ國憲第五十七款ニ云、「君主  
 ノ父、又ハ母、或ハ君主ニ次テハ第一ニ王位ヲ繼クヘキ權利ヲ有セル  
 王族、攝政トナル可シ」ト、○葡萄牙國一千八百二十六年（按）文政九年ノ國憲第  
 九十二章ニ云、「君主ニ最モ親近ナル王族、攝政トナル可シ、但シ年齡必二

十五以上ヲ要ス」ト、○普魯士國ノ國憲第五十六及五十七章ニ云、「父族中ニ於テ最モ親近ニシテ、能ク其任ニ堪ユヘキ者、攝政トナル可シ、但シ兩院共補助トナリテ之ヲ選擇ス」ト、

○比耳時ノ國憲第八十一章ニ云、「兩院合併シテ、攝政ヲ選任ス」ト、○

瑞典國一千八百零九年<sup>文化</sup>ノ國憲第九十三款ニ記スル所モ之ニ同

ウシテ、ライフス、ステンデ<sup>按</sup>立法議シテ、一名若クハ數名ノ保傅ヲ

選任スト云、<sup>按</sup>此二國ノ制度ノ如キハ、攝政ヲ選任ス

○英國、荷蘭國、佛國等ノ制度ニ於テハ、攝政ヲ選任スルハ、必<sup>立</sup>立法府ノ

憲法ニ出ツ、<sup>按</sup>此三國ノ制度ノ如キハ、即<sup>立</sup>立憲世襲國ニ適應スル者ナリ、

〔第三〕但シ攝政ヲ設置スルコト、實ニ幼君ノ時ニ於テスルノミニ非ス、又成人

年齒ニ屆<sup>イヌ</sup>レル君主ト雖モ、登祚ノ後、事故發シテ、政權ヲ執ル能ハサルニ

方リテ、其事故或ハ甚大ナルコトニ非サル歟、若シハ久シク存スルコトニア

ラサレハ、必<sup>攝</sup>攝政ヲ置テ、權リニ之ニ政權ヲ托スルヲ要ス、其事故ト稱ス

ル者ハ、左ニ臚列スルカ如シ、

〔甲〕身體ノ虧缺、例ヘハ聾、瞽、啞、及ヒ大患、

〔乙〕癡狂及ヒ之ニ類スル精神病、例ヘハ癡患及ヒ最モ甚シキ憂悶、

〔丙〕久シキ不在、<sup>按</sup>久シク國內、或ハ幽囚、

〔丁〕大ニ君職ヲ損害スル諸業、例ヘハ暴逆無道、暴ニ國憲ニ悖戾セル政

令、及ヒ公然治安ヲ害スル苛政、

〔戊〕私法ヲ破リテ、自ラ君主ノ體面ヲ汚辱スル所業、

〔己〕行狀不善ニシテ、大ニ臣民ノ尊崇ヲ失ヒ、遂ニ政權ヲ保ツコト能ハサル

ニ至ルヘキ所業、

右諸事故中、殊ニ丁戊己ノ如キ者アルニ方リテ、攝政ヲ設置シテ、君政ニ

代ハラシムルハ、殊ニ條理及ヒ事業ニ於テ、甚ク施シ難シトス、條理ニ於テ

施シ難シトスルハ、何ソヤ、抑此ノ如キ時ニ方リテ、君ノ非ヲ舉テ其政權

ヲ放タシムル者ハ、即チ臣民ナルヲ以テ、冠履全ク顛倒スト云フヘシ、故ニ

纒<sup>カ</sup>ニ其政權ヲ奪フノ外、他罪ヲ加フルコト能ハサレハナリ、又事業ニ於テ  
 施シ難シトスルハ何ソヤ、總テ暴惡ナル君主ハ、輒ク政權ヲ放ツ者ニア  
 ラス、必<sup>ス</sup>暴威ヲ逞ウシテ、攝政ヲ置カント欲スル徒ニ抗シ、以テ遂ニ之ヲ壓  
 倒スルニ至レハナリ、但<sup>シ</sup>合同邦<sup>ツ</sup>ツ<sup>ツ</sup>一サムメンゲセ<sup>ツ</sup>ノ如キハ、各邦憲法ノ  
 外、仍<sup>ガ</sup>全國ノ國憲、若クハ合同國憲ト稱スル、合同各邦ヲ統一スル所ノ規  
 律アルカ故ニ、此ノ如キ時ニ方リテモ、其處置ヲ得ル自ラ難カラス、<sup>〔按〕</sup>  
 合同邦ノ如<sup>キ</sup>キ<sup>レ</sup>ナリ、○是故ニ近今ノ國家學者中、唯甲乙丙ノ事故ノ爲<sup>メ</sup>ニ、攝政ヲ  
 置クヲ許シテ、丁戊己ノ事故ノ爲<sup>メ</sup>ニ之ヲ置クヲ許サ、ル者アリ、蓋<sup>シ</sup>甲乙丙  
 ノ事故ノ如キハ、其事實、素ト政權ヲ執ル能ハサルコト明カニシテ、決シテ君  
 主ノ行狀ニ由ル者ニアラサルカ故ニ、速ニ判定シ易シト雖<sup>ヒ</sup>、丁戊己ノ  
 如キハ、悉ク君主ノ行狀ニ關係スル者ニシテ、自ラ甲乙丙ノ如ク判定シ  
 難キヲ以テナリ、○去<sup>レ</sup>レ此ノ如キ時ニ方リテ、正義ノ術ヲ用ヒテ、速ニ君  
 主ノ暴惡ヲ防ク能ハサルキハ、臣民殆<sup>シ</sup>ト之ニ堪ユル能ハスシテ、遂ニ不

正義ノ術ヲ用ヒテ、顛覆ヲ謀ルニ至ランコト必セリ、但<sup>シ</sup>此事ニ付テハ、末款  
 君主不保任ノ條<sup>〔按〕</sup>即<sup>チ</sup>第十三款ニ於テ、尙詳論セント欲ス、就テ看ル可シ、  
<sup>〔第四〕</sup>民主國ニテハ、元首幼冲ノ患ナキカ故ニ、攝政ヲ要スルコト幾希<sup>ト</sup>ナリ、  
 且<sup>ツ</sup>若<sup>シ</sup>統領就職ノ後、事故ニ由テ政權ヲ執ル能ハサルキハ、必<sup>ス</sup>副統領之ニ  
 代リテ、政權ヲ施行スルカ故ニ、決シテ政令ノ爲<sup>メ</sup>ニ妨ケナシ、然ルニ民主  
 國ニテ、一ノ患ト爲スヘキハ、統領副統領同ク没スル歟、若クハ其在職ノ  
 期既ニ滿テ、嗣統領ノ選擇未<sup>ダ</sup>定マラサル時ニ於テハ、恰モ選立君主國<sup>ノ</sup>  
 ル<sup>モ</sup>ナ<sup>リ</sup>ニ於ケルカ如ク、國家首領ヲ失フテ、一時虛位國<sup>ヲ</sup>ツ<sup>キ</sup>ツ<sup>セ</sup>ン<sup>ト</sup>ナルニ  
 在リ、

第十一款

第五 政柄ノ失去、<sup>ヘル、スト、デ</sup>

<sup>〔第一〕</sup>辭謝<sup>ニ</sup>又<sup>ア</sup>ブ<sup>ダ</sup>メン<sup>ク</sup>グ、<sup>君</sup>主<sup>政</sup>權<sup>ヲ</sup>辭<sup>謝</sup>シ<sup>テ</sup>、之<sup>ニ</sup>附<sup>屬</sup>セ<sup>ル</sup>義<sup>務</sup>



チ棄テント欲スルハ、其自由ニ任シテ可ナリ、然ルニ此自由チ妨ケテ、  
 猶政柄チ掌握セシメント欲スルモ、素テ治國ノ責ニ任スヘキ力ノ足ラサ  
 ル者チシテ、強ヒテ其責チ負荷セシメントスルコナルカ故ニ、甚テ理ニ當ラ  
 ス、且、國事チ好マサル者チシテ、強ヒテ國事チ掌ラシメント欲スルモ、國家  
 ニ於テ小益アラスシテ、却テ害アリ、但シ僅ニ一邑ノ如キ小民主國ニテ、  
 例ヘハ瑞士國一二ノ山邦等ニ於ケルカ如シ、強ヒテ政柄チ掌握セシムルコアリ、  
 シ、〔按〕山邦トハ山嶽多キ邦チ云フナリ、  
 但シ世襲國ニテハ辭謝ニ二様アリ、一チ無約辭謝ト云ヒ、二チ有約辭謝  
 ト云フ、君主其位チ辭スルニ方リテ、他日重祚ノ約ナケレハ、宛カモ没去ニ  
 由テ、其位チ去リシニ殊ナラス、之チ無約辭謝ト云フ、又君主嗣君ノ爲メニ  
 謀リテ、一旦其位チ讓ルト雖モ、嗣君他日若シ先ツテ没スルコアルハ、必  
 重祚スヘキノ約チ立ルコアリ、之チ有約辭謝ト云フ、  
 〔第二〕默謝 スチルシユウイゲンデ、 敢テ自ラ辭謝セスノ、唯勢ニ由テ自然  
 辭謝トナル者アリ、之チ默謝ト云フ、但シ之チ認定スルコ自ラ容易ナラス

ト雖モ、其實ハ決シテ明謝アウスドリニクグリヘ、エントサーグニ異ナラス、  
 君主若シ永ク其國チ去ル歟、若クハ永ク政務チ棄ルニ至ルキハ、則默謝ト  
 定メテ可ナリ、既ニ一千六百八十八年元祿英國顛覆ノ時ニ於テ、其〔按〕英力  
 門議員ノ中、眞ニ王室ニ左祖セシ黨スラ、尙此理チ認許シタリキ、  
 一〔按〕コッパ第二世在位ノ時、教法ノ事ヨリ騷亂起リ、國民王ニ叛テ、  
 祖セルニ王之防クヲ能ハス、遂ニ佛國ニ奔リタリ、然ルニ此時王ニ左  
 祖セシ黨スラ、猶之チ王トスルコアリ、○又君主自カラ其版圖チ他人ニ賣却  
 シ、或ハ受與スル時ニ於テモ、其事ノ理非チ論セズ、總テ君主ノ默謝ト定  
 メテ可ナリ、  
 〔第三〕國憲ノ規律ニ從テ、實ニ君位ニ在ル可ラサルノ、理生シタル者、  
 リット、アイチル、アブソル、例ヘハ英國ノ國憲ニ於テハ、君主加特力カテリキ教派  
 テン、ウンヘーヒグカイト、  
 〔按〕基督ニ轉依スルキハ、敢テ君位ニ在ル可ラサルナリ、○但シ方今ハ此  
 教ノ舊派、ニ於テモ、亦實ニ甚シガラサル虧缺アル時ニ於ケルカ如ク、唯  
 ノ如キ時ニ於テモ、亦實ニ甚シガラサル虧缺アル時ニ於ケルカ如ク、唯  
 攝政チ置テ、代リテ政權チ掌握セシムルチ以テ、足レリトスル國アリ、

六〔第四〕廢位 アイソシツ 中古ノ頃ニハ、君主國ニテ屢廢位ノ事アリキ、民主國ノ如キハ、今仍此規律アリト雖モ、方今君主國ノ國法ニテハ、通帝此規律ヲ用フルヲ許サス、猶本卷第十三款ニ論ス、

〔第五〕奪位、エント、ロ 第一、敵國外寇暴威ヲ以テ君位ヲ奪フコトアリ、第二、國民舉テ顛覆ヲ企テ、以テ君位ヲ奪ヒ、君主政體ヲ倒スコトアリ、第三、覇者篡奪ヲ企テ、君主ヲ倒シ、以テ國權ヲ吞ムコトアリ、古今此等奪位ノ例、最モ尠カラス、

右三件 〔按〕〔第五〕中第一、第二、第三、ノ三件ヲ云、ハ、皆現ニ君主政治施行ノ事業ヲ奪フ所以ニシテ、未ダ併セテ其權利ヲ奪フニアラス、君主事業ト共ニ其權利ヲモ放棄セサルキハ、遂ニハ權利ヲ有スル君主ト、及ヒ事業ヲ執レル君主、或ハ政府ト相分レテ、名實相離ル、カ故ニ、各互ニ名實ヲ併有セント欲シテ、相争フニ至ル、實ニ權利ト事業ノ相分ル、ハ、甚ダ歎スヘシシテ、國家ノ患害之レヨリ大ナルハナシ、

六ノ中一六

名義正シカラサル君主 〔按〕未ダ權利ヲ併有スル能ハ、威權自ラ強大ナルカ故ニ、速ニ國民ヲ制服セント欲ス、國家實力アル所ノ政府ナキトハ、其安寧秩序、獨リ存ス可ラサルヲ以テ、臣民亦自ラ此君ニ服從シテ、其命令ニ恭順スルニ至ル、是ニ於テ此君遂ニ其志ヲ得可シ、縱令儘之ニ服セスシテ、其命令ヲ拒絕セント欲スル者、若クハ其黨與アルモ、僅々數人ノ力、能ク企テ及フ可キニアラス、直ニ兵隊、法官、警守官等ノ爲ニ、制壓セラレシト必然ナリ、是時ニ方リテ、名義正シキ君主、〔按〕既ニ事業ヲ奪ハ有スル 己レニ忠良ナル臣民ヲ保護セント欲スルモ、力足ラサルヲ如何セシ、君主自ラ臣民ノ權利ヲ保護スルヲ能ハサレハ、臣民君主ノ權利ヲ敬重セスト雖モ、亦之ヲ如何トモス可ラス、○去レモ又名義正シカラサル 君主、名義正シキ君主ヲシテ、全ク權利ヲ放シムルヲ能ハス、其威力ヲ以テ臣民ヲ壓服セシカ如ク、此君主ヲ壓服シテ、全ク其權利ヲ奪フト甚ダ容易ナラス、

二六中ノ六

○英國ニテハインリヒ第七世ノ時一千四百九十四年明應三年巴力門ノ議定ニテ現ニ事業ヲ執レル君主ニ勳功アリシ徒テ謀反ノ罪若クハ他罪ヲ以テ刑ス可ラサル旨ヲ令シタリ○

○〔按〕ハインリヒ第七世嘗テリカルド第三世ヲ撃テ之ニ勝テ遂ニ王位ニ登リクレト国民猶舊王室ヲ慕フテ新王室ニ勳功アル者ヲ惡ミシ故ニ巴力門ニテ此ノ如ク議定シテ之ヲ令シタリ茲ニ事業ヲ執レル君主ト云フハ即ハインリヒ第七世ナリ、

國ノ假法トシテ遂ニ轉シテ國法トナルノ機會ハ即茲ニ於テ生ス〔按〕假法トナルノ論ハ國ノ假法ヲ以テ恣ニ之ヲ國法ト爲サント欲スルモ決シテ能ハス然ルニ強ヒテ之ヲ國法ト爲ントスルハ大ニ法ノ法タル本旨ヲ害スト云フ可シ眞ノ法タルヤ唯直チニ事業ニ施シ得ルヲ以テ足レリト爲ス可ラス必亦其間ニ道義ヲ存セスハ有ル可ラス故ニ徒ニ人力ヲ以テ假法ヲ轉シ眞法ト爲サント欲スルハ甚ダ誤レルコトナリ、

三六中ノ六

故ニ覇者唯其威權ヲ逞ウシテ國民ヲ制服セシノミニテハ決シテ名義正シキ君主ト稱スルニ足ラス代國府及諸職官殊ニ法院等皆此覇者ヲ認テ君主トスルニ至リテ始テ眞ニ名義正シキ君主ト稱ス可シ故ニ此時ニ至リテハ臣民タル者皆必此君主ヲ奉シテ其命令ニ恭順セスハ有ル可ラス〔按〕假法ナル者始テ眞法トナルノ機會即此時ニ在リ、故ニ會テ位ヲ奪ハレシ君主〔按〕即名義正シキ君主全ク其權利ヲ失フノ期限アリ、即チ國內ニテハ臣民名義正シカラサル君主ニ抗スル能ハスシテ遂ニ之ニ服従スルニ至リ又外國ニテハ其政府兩君〔按〕名義正シキ君主トノ間ニ周旋シテ和平ヲ復セントスルノ謀遂ニ成ラサル歟若クハ兵力ヲ以テ名義正シキ君主ヲ援クル人力盡テ却テ名義正シカラサル君主ト和スルニ至ルキハ既ニ名義正シキ君主恢復ノ術盡ル時ニシテ是レ正ニ此君ノ全ク權利ヲ失フノ期限ナリ、〔第六〕攝政ハ嘗テ之ヲ設置セシ旨意已ムキハ則其職ヲ失フコト當然ナリ、

六中ノ四 其旨意ノ已ムトハ、即チ幼冲ノ君主没シテ、嗣君位ヲ繼ク歟、若クハ幼君  
既ニ成人年齒ニ至ルチ云フナリ、但シ若シ其旨意實ニ已ムヤ否ノヲ、決シ  
難キキニ方リテ、攝政ノ廢置ヲ定ムルニ就テハ、必<sub>ス</sub>嘗テ之ヲ設置セシ時  
ニ於テ要シタル國法規律ニ從フ可シ、

大井潤一校

國法汎論卷之六 中終

國法汎論卷之六 下 目錄

第十二款

第六 國家元首ノ權利

甲 マエステートノ權利

第十三款

乙 不保任及保任

第十四款

丙 施政權 外權

第十五款

丁 施政權 內權

第一 授官ノ大權

第二 授譽ノ大權

第十六款

六ノ下 目錄